

伊東市地域公共交通計画

<資料編>

2025年（令和7年）3月

伊 東 市

目次

1. 地域公共交通を取り巻く現状	1
1-1 地域の概況	1
1-2 地域公共交通の状況	9
2. 市民アンケート調査の結果	13
2-1 調査概要	13
2-2 調査結果概要	18
2-3 地域別、年代別の集計結果	22
2-4 公共交通利用有無別の集計	55
3. 事業実施に向けて参考となる事例	59
3-1 路線や移動に関するニーズの計測・可視化に関する事例	59
3-2 交通空白・不便地域の設定方法に関する事例	61
3-3 地域での移動手段確保の取組み	64
3-4 新たな移動手段確保に向けたガイドライン、手引き等の作成	69
3-5 新たなモビリティに関する事例	70

(1) 地理・地勢

[illegible]

1

(2) 運転免許証の保有及び返納状況

○近年、自動車の運転免許保有者数は緩やかな減少傾向にある。また、免許返納者数は令和元年に増加したが、その後は減少傾向にある。返納者のほとんどが65歳以上の高齢者となっている。

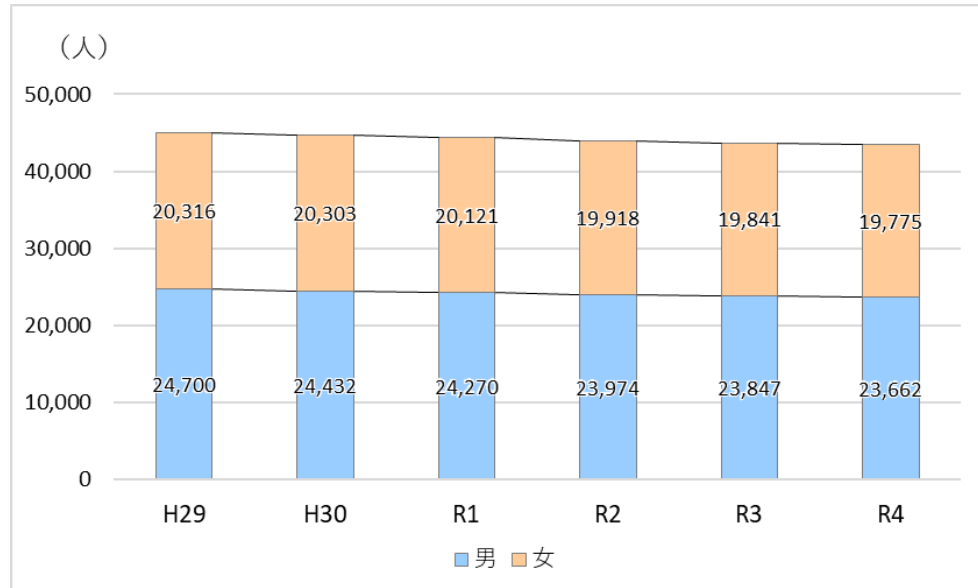


図 2 伊東市内の免許保有者数の推移

※出典：静岡県警 交通年鑑

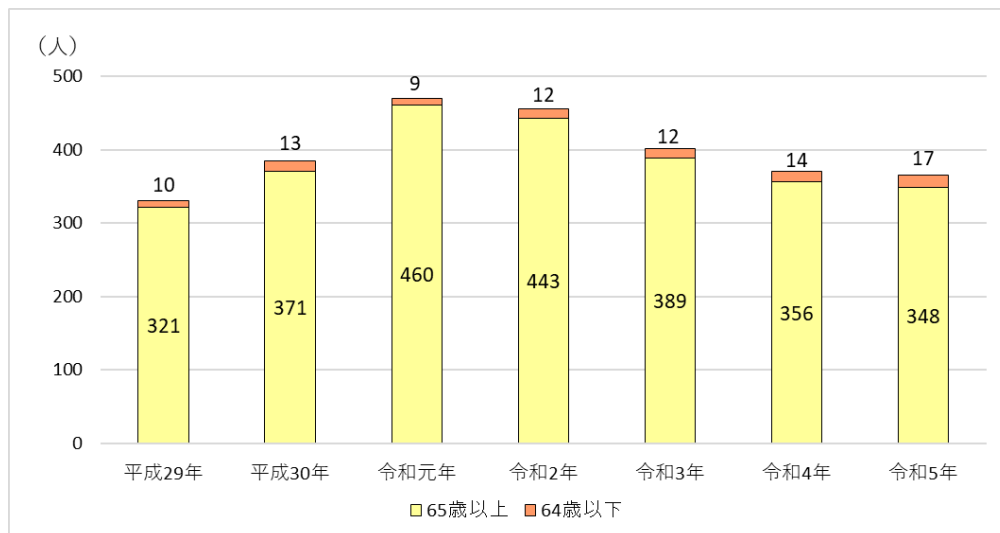


図 3 伊東警察署における免許返納者数の推移

※出典：伊東警察署

(3) 人口分布

○人口分布については、主に伊東駅、南伊東駅、川奈駅、伊豆高原駅といった鉄道駅の周辺の他、市の中心部の県道沿いに人口が密集している。郊外や山間部においては、分散がみられる。

○市内各地、特に南部の対島地区には、別荘地・分譲地が多く点在しています。これらの別荘地・分譲地では定住化も進んでいる。

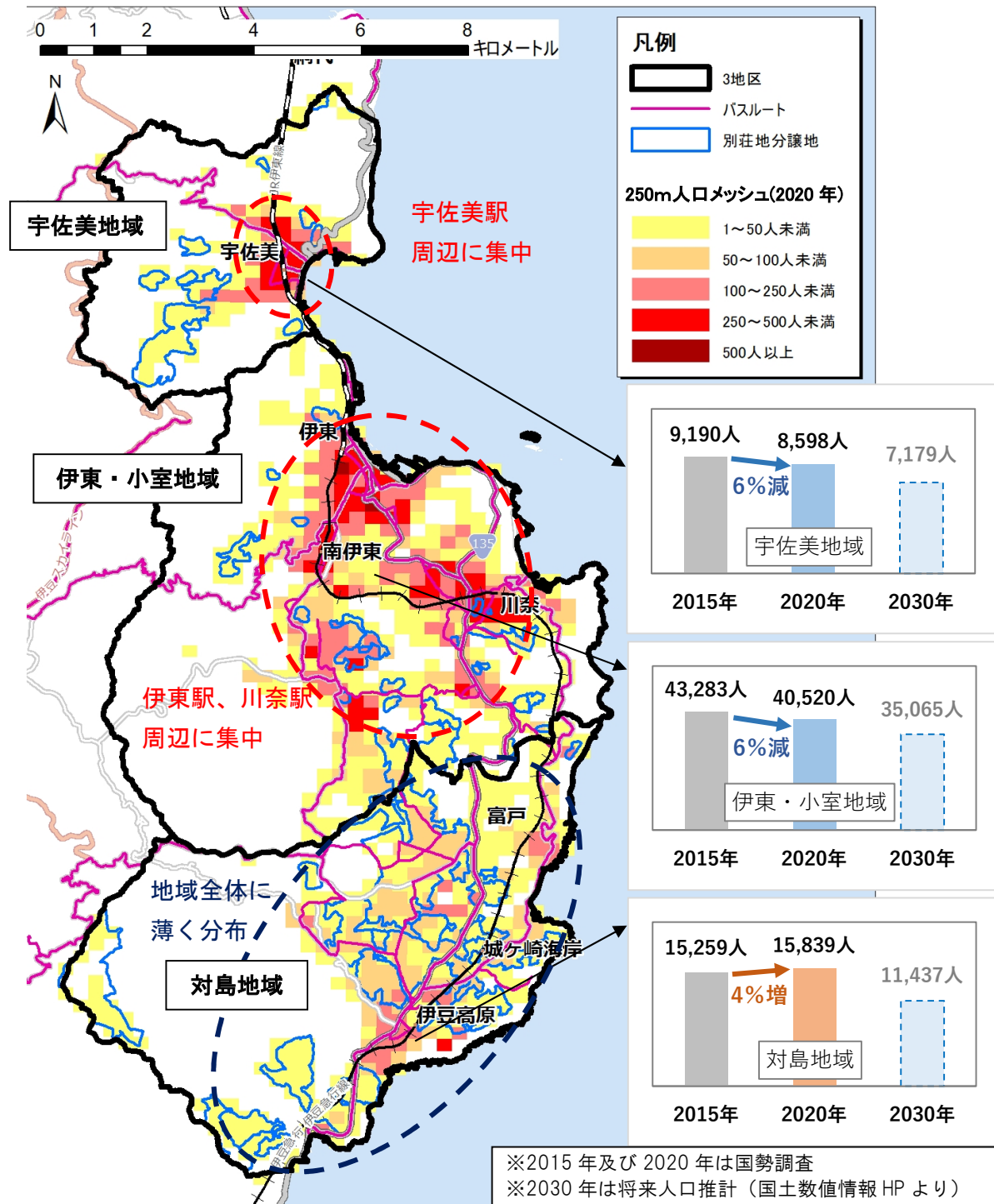


図 4 人口分布及び地域別の人口推移

(4) 高齢化率

○高齢化率については、人口が密集している地域（伊東駅から南伊東駅、川奈駅、中心部の県道沿いにかけて、また、宇佐美駅周辺や伊豆高原駅周辺など）は比較的高齢化が低くなっているが、郊外や山間部は高齢化が進んでおり、特に別荘地・分譲地のほとんどにおいて高齢化率が高くなっている。

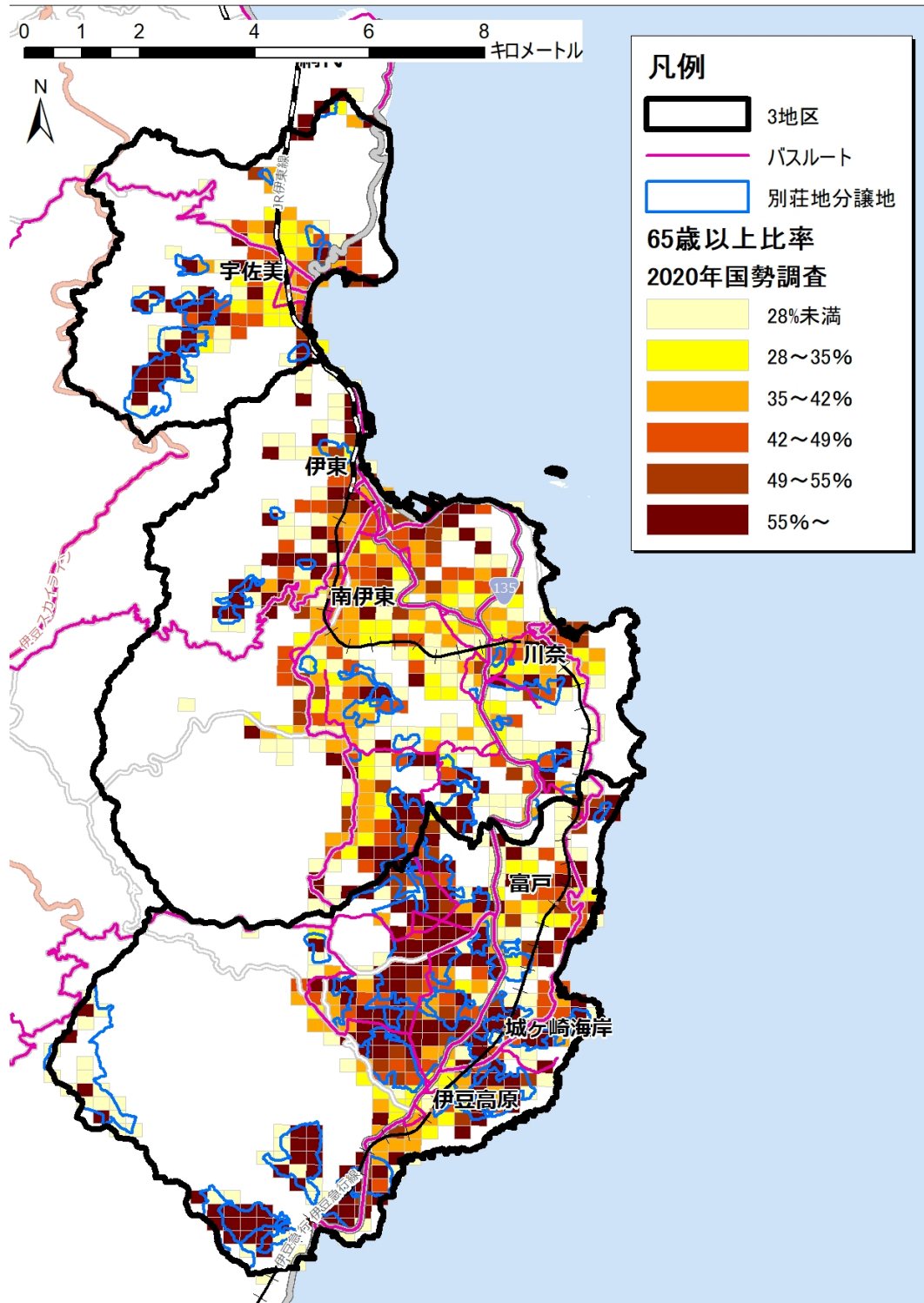


図 5 高齢化率の分布

出典：国勢調査（2020 年）

(5) 施設分布

①教育施設、商業施設

○主要な商業施設（大規模小売店舗）は、伊東駅、宇佐美駅、南伊東駅、川奈駅、伊豆高原駅の周辺、中心部の県道沿い（いずれも人口が集中する地域）に立地している。

○市内には高等学校が3校あり、いずれの高校も鉄道駅からやや距離があるが、路線バスの沿線に立地している

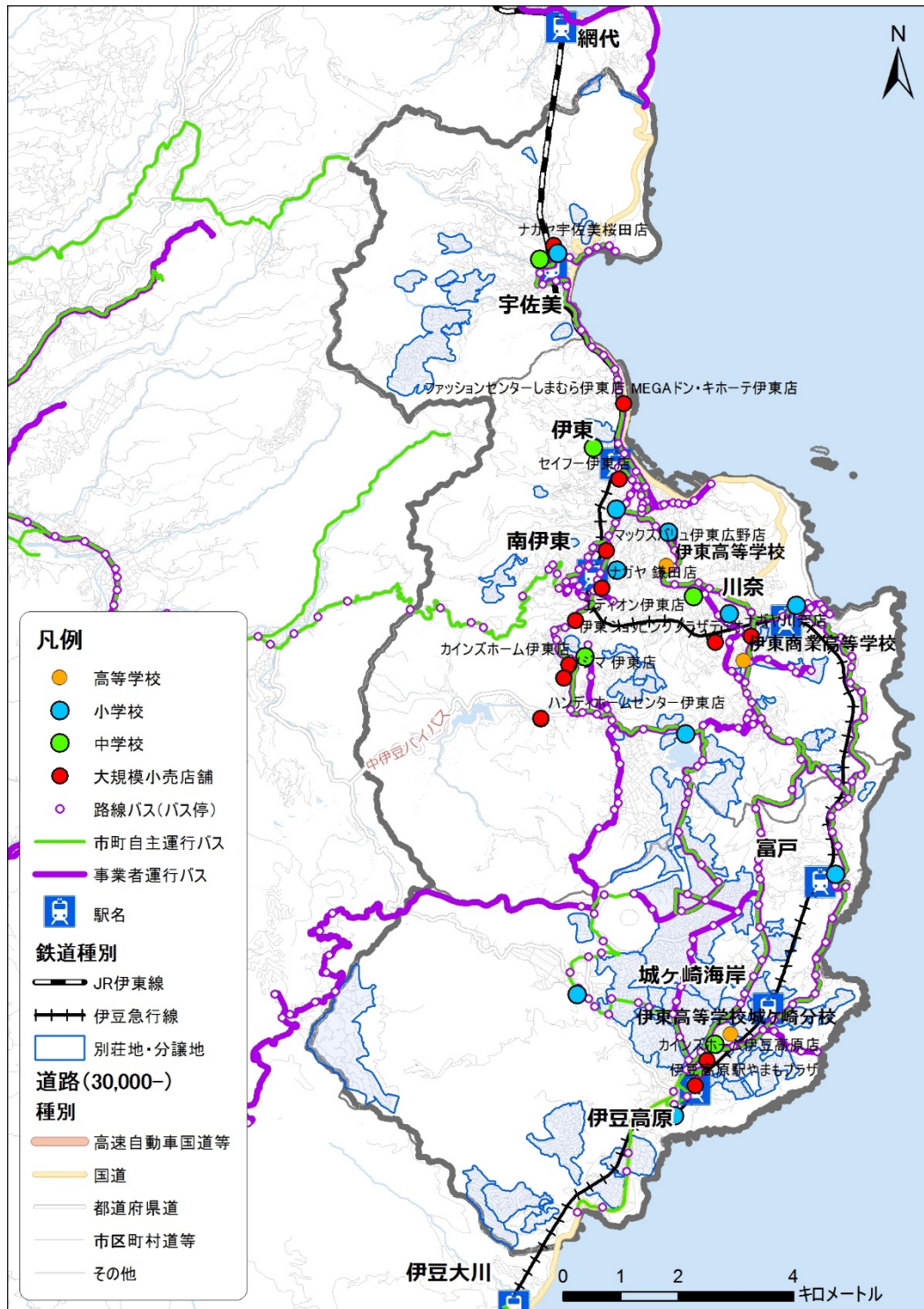
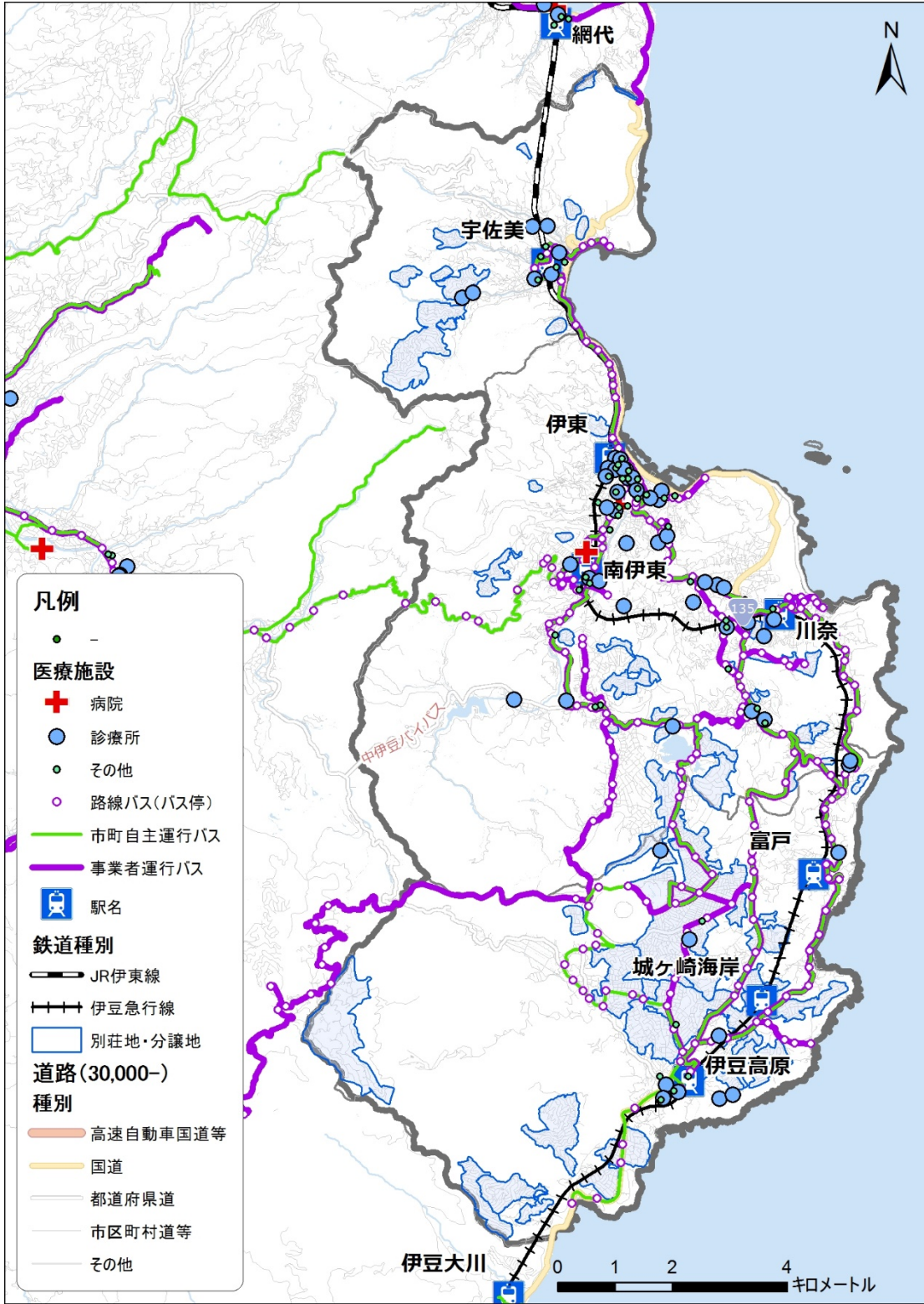


図 6 教育施設、商業施設の分布

出典：高等学校 国土数値情報
大規模小売店舗 静岡県資料（大規模小売店舗届出状況）

○市内の主要な医療施設である伊東市民病院は、路線バスの沿線に立地している。その他の医療施設（病床数が20未満の病院、クリニックなど）も概ね鉄道駅周辺または路線バス停周辺に立地しているが、一部の施設は公共交通でのアクセスが困難となっている。



出典：医療施設 国土数値情報

③文化、福祉施設

○市内の文化施設、福祉施設については、概ね鉄道駅周辺や路線バス停周辺に立地しているが、一部の施設は公共交通でのアクセスが困難となっている。

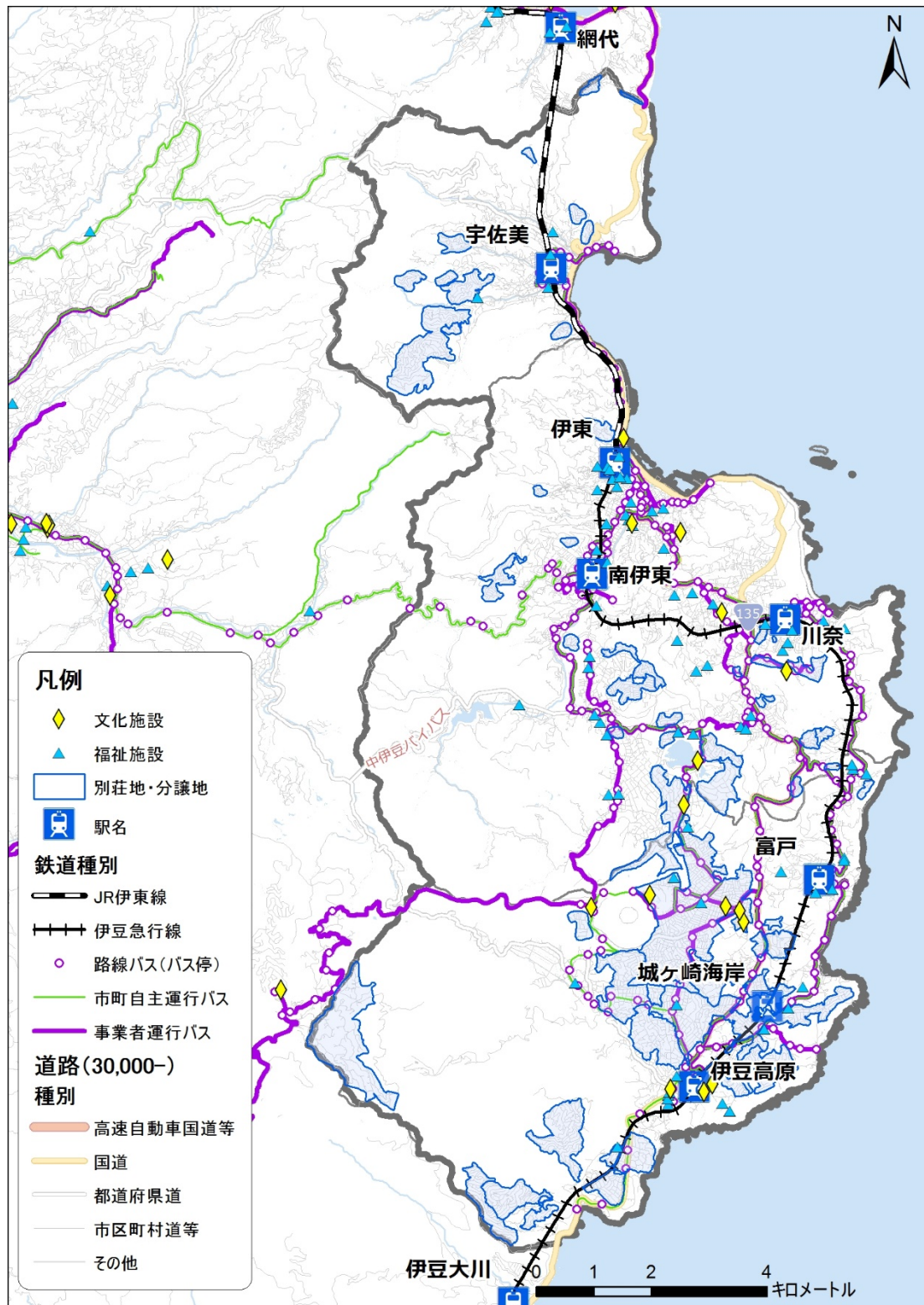
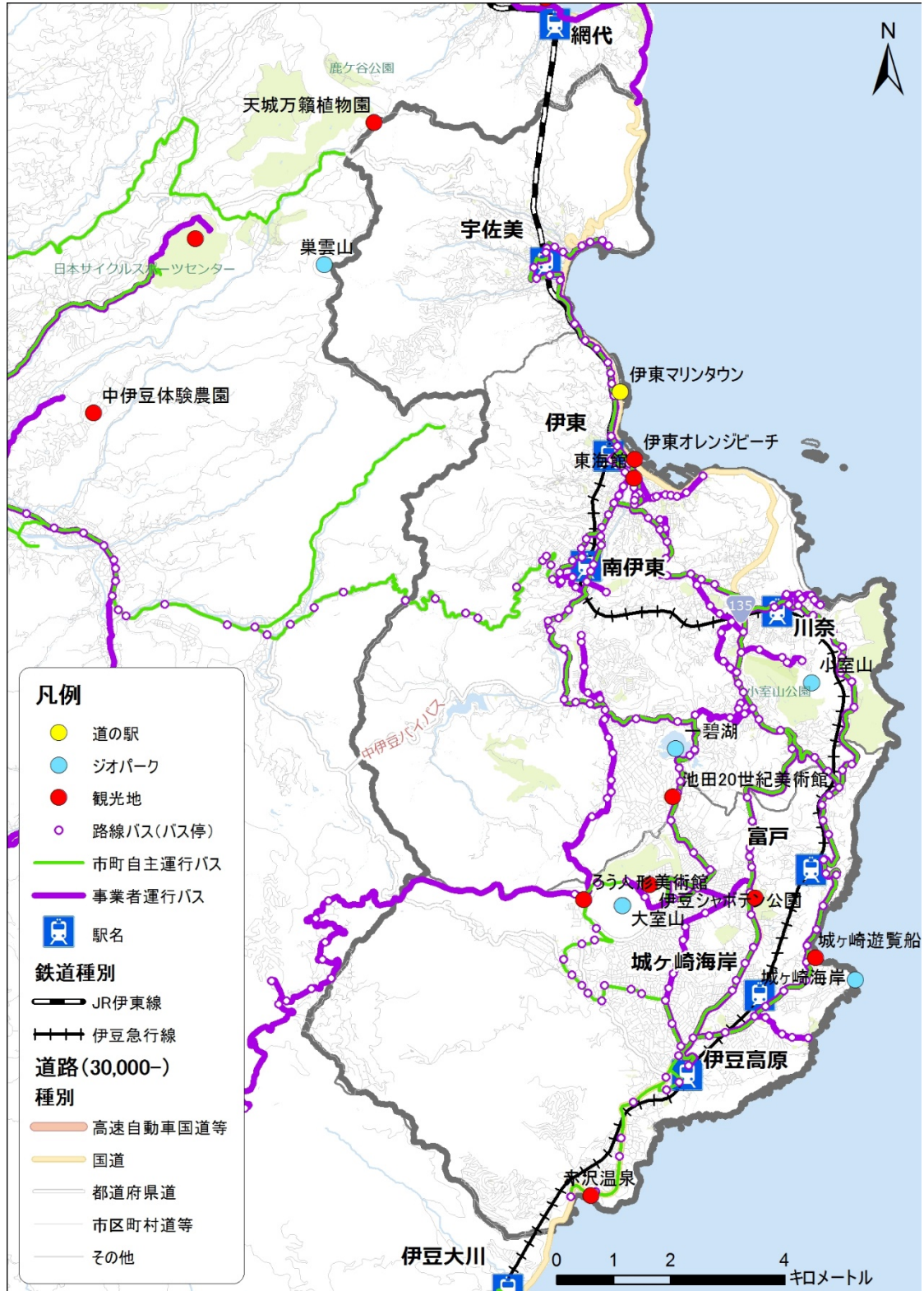


図 8 文化施設、福祉施設の立地状況

出典：文化施設 国土数値情報
福祉施設 国土数値情報

④観光地

○市内の観光施設は、伊東駅周辺の他、市の中心部（伊東駅周辺）から南部にかけて点在して立地している。これらの施設は鉄道駅から離れた場所に立地していますが、路線バスでのアクセスが可能となっている。



1-2 地域公共交通の状況

(1) 伊東市自主運行バス路線

①路線一覧

○伊東市の自主運行バス路線は以下のとおり、10 路線（15 系統）運行している。

○伊東駅発着が 4 路線、伊豆高原駅発着が 4 路線、伊東駅と伊豆高原駅を結ぶ路線が 2 路線となっている。

表 1 伊東市自主運行バス路線の一覧（運行本数は 2023 年度時点）

発着駅		運行区間			運行本数	
伊東駅	伊豆高原駅	起点	主な経由地	終点	往路	復路
●		伊東駅	冷川 中伊豆温泉病院※	修善寺駅	6	6
●		伊東駅	川奈ホテル	蓮着寺口	1	1
●		伊東駅	—	宇佐美港	12	11
●		伊東市役所	—	宇佐美港	2	2
●	●	伊東駅	沢向	伊豆高原駅	4	3
●	●	伊東駅	ぐらんぱる公園	赤沢海岸	3	4
	●	伊豆高原駅	池	シャボテン公園	2	2
	●	伊豆高原駅	—	池中野	1	1
	●	ぐらんぱる公園	八幡野	赤沢海岸	1	0
	●	伊東市民病院	荻・大室高原	伊豆高原駅	1	2

※2023年度より移転に伴い経由

②利用者数の推移

○自主運行バス路線の路線別利用者数の推移を以下に示す。

○新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2019 年度から 2020 年度にかけては利用者数が 70%まで減少したが、2023 年度時点では 2019 年度と同水準まで回復している。

○利用の回復、増加が著しい路線の特徴は以下のとおり。

- ・伊東駅～修善寺線：中伊豆温泉病院の移転（伊豆市内）による効果と考えられる
- ・伊東駅～ぐらんぱる公園～赤沢海岸、ぐらんぱる公園～赤沢海岸：
インバウンドを含め、観光需要の回復が影響と考えられる

○利用者数の減少に歯止めのかからない路線は以下のとおり。

- ・伊豆高原駅～池～シャボテン公園
- ・伊豆高原駅～池中野
- ・伊東市民病院～伊豆高原駅

表 2 伊東市自主運行バス路線の路線別利用者数の推移

年間利用者数（人／年）

運行区間	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
伊東駅～修善寺駅	51,424	38,143	40,880	44,530	50,874
対2019年度比		74%	79%	87%	99%
伊東駅～蓮着寺口	12,810	8,241	10,086	13,137	18,147
対2019年度比		64%	79%	103%	142%
伊東駅～宇佐美港	35,107	26,905	30,288	26,100	29,736
対2019年度比		77%	86%	74%	85%
伊東市役所～宇佐美港	9,272	7,380	7,626	6,519	8,733
対2019年度比		80%	82%	70%	94%
伊東駅～沢向～伊豆高原駅	53,802	31,025	49,093	48,910	49,410
対2019年度比		58%	91%	91%	92%
伊東駅～ぐらんぱる公園～赤沢海岸	34,665	35,168	45,059	27,004	52,205
対2019年度比		101%	130%	78%	151%
伊豆高原駅～池～シャボテン公園	16,104	5,293	4,381	3,833	10,248
対2019年度比		33%	27%	24%	64%
伊豆高原駅～池中野	2,196	1,643	365	183	549
対2019年度比		75%	17%	8%	25%
ぐらんぱる公園～赤沢海岸	244	492	1,230	615	492
対2019年度比		202%	504%	252%	202%
伊東市民病院～伊豆高原駅	7,442	2,214	4,797	2,952	3,567
対2019年度比		30%	64%	40%	48%
合計	223,066	156,504	193,805	173,783	223,961
対2019年度比		70%	87%	78%	100%

(2) 赤沢デマンドタクシー

① 運行概要

○赤沢地区を運行するデマンド型交通は、日中の路線バスの代替として、2015 年 10 月から実証運行を行い、2016 年 10 月からは本格運行を開始している。運行区間は、伊豆高原駅～赤沢海岸間の運行となっている。

表 3 デマンド型交通の運行状況、利用状況

運行日	毎日運行
受付時間	9 時～17 時
運行本数	5 往復/日
運行方法	予約があった便のみ運行 ※「高原駅やまも口」、「八幡野コミセン」の利用がない場合、ルートを変更して運行

運 行 経 路



図 10 デマンド型交通の運行ルート

出典：伊東市HP

②利用状況

○赤沢地区デマンド交通（伊豆高原駅～赤沢海岸間を平日日中に運行）は、令和 5 年度では 5 月の利用が多くなっている。年度別にみると、令和元年度までは利用者数が増加傾向にあったが、令和 2 年度以降はコロナ禍の影響を受けて利用者数が大きく減少している。

○2022 年度以降も、運転手不足による稼働率の低下などの要因から、利用者数は減少傾向にある。

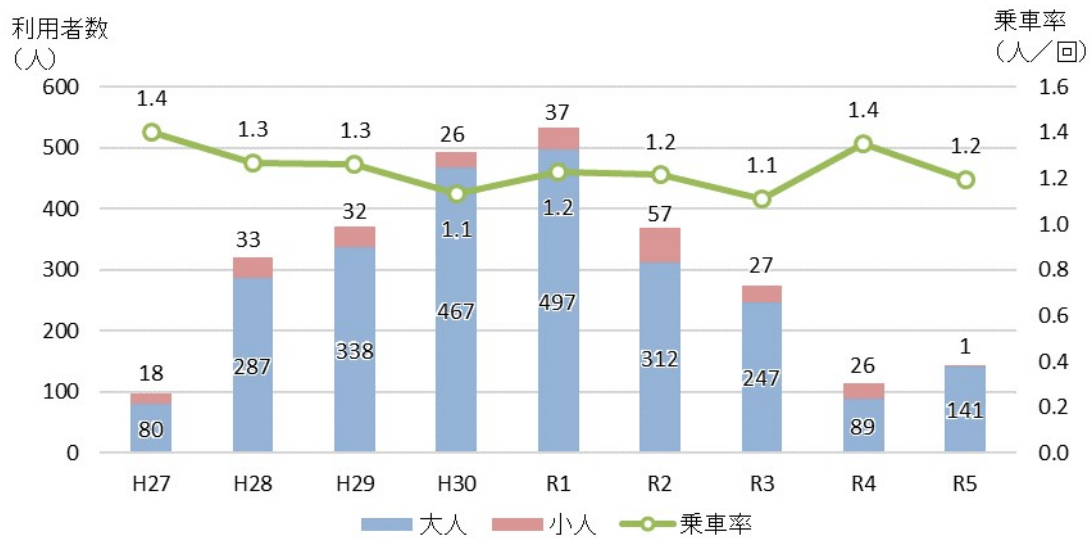


図 11 年度別利用者数・乗車率の推移（2019～2023 年度）

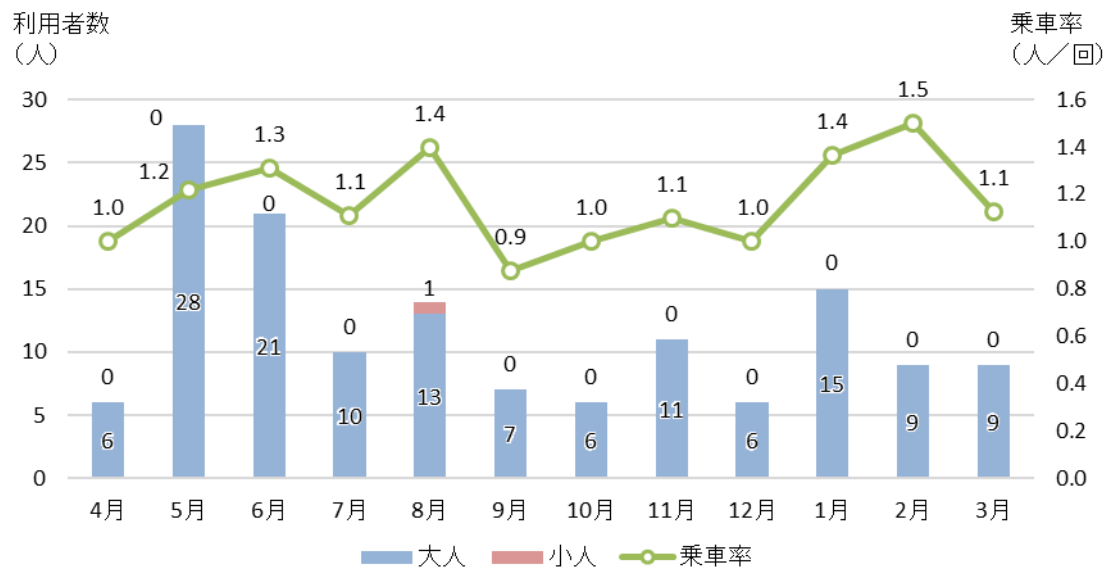


図 12 2023 年度の月別利用者数・乗車率の推移

出典：伊東市HP

2. 市民アンケート調査の結果

2-1 調査概要

(1) 調査目的

○多様化する市民の移動実態（移動先や移動手段）、公共交通の利用状況、伊東市における公共交通の今後の方向性に対する考えなどを把握するため、市民 1,200 人を対象としたアンケート調査を実施した。

(2) 調査概要

【調査時期】2024 年 7 月～8 月

【調査対象】1,200 人（市内居住者の 15 歳以上から無作為抽出）

【調査方法】〔配布〕郵送 〔回収〕郵送または WEB 回答

【調査項目】

- ①個人属性（居住地、年代、免許、自動車の保有状況）
- ②外出実態（移動目的、頻度、交通手段、行先）
- ③公共交通の利用状況（鉄道、バス、タクシーの頻度、目的、重視する点）
- ③公共交通の利用のしやすさ（利用のしやすさ、理由）
- ④公共交通の今後の方向性について など

【回収数】364 人（回収率 30.3%）

(3) 調査票

・次ページ以降に示す。

公共交通（鉄道・バス・タクシー）に関する住民アンケート調査

1. はじめに、「あなたご自身」についてお伺いします。

問1. ①お住まい、②年代、③運転免許の保有、④自動車の保有台数 をお答えください。

①お住まいの 大字	1. 宇佐美 2. 湯川 3. 松原 4. 玖須美 5. 新井 6. 岡 7. 鎌田 8. 川奈 9. 吉田 10. 荻 11. 十足 12. 富戸 13. 八幡野 14. 池 15. 赤沢
②年代	1. 10 歳代 2. 20 歳代 3. 30 歳代 4. 40 歳代 5. 50 歳代 6. 60 歳代 7. 70 歳代 8. 80 歳以上
③運転免許の保有	1. 持っている 2. 持っていたが返納した 3. 持っていない
④世帯での自動車 の保有台数	1. 2 台以上ある 2. 1 台ある 3. 世帯に自動車はない

2. 普段の外出の状況についてお伺いします。

問2. 普段の外出での「A. 最も多い外出」「B. 2 番目に多い外出」について、

①目的、②行先、③頻度、④主な交通手段、⑤駅までの交通手段 をお答えください。

	A. 最も多い外出	B. 2 番目に多い外出
①目的 (1 つに○印)	1. 通勤 2. 通学 3. 買い物 4. 通院 5. その他	1. 通勤 2. 通学 3. 買い物 4. 通院 5. その他
②行先 () に記入	施設名または住所 () 記入例： 施設名 伊東市役所、○△スーパー伊東広野店 住所 伊東市大原2丁目、熱海市多賀 など	施設名または住所 () 記入例： 施設名 伊東市役所、○△スーパー伊東広野店 住所 伊東市大原2丁目、熱海市多賀 など
③頻度 (1 つに○印)	1. 週 5 日以上 2. 週 3～4 日 3. 週 1～2 日 4. 月 2～3 日 5. 月 1 日以下	1. 週 5 日以上 2. 週 3～4 日 3. 週 1～2 日 4. 月 2～3 日 5. 月 1 日以下
④主な 交通手段 (1 つに○印)	1. 鉄道 2. バス 3. 自動車（自分で運転する場合） 4. 自動車（ご家族等の送迎の場合） 5. タクシー 6. 原付・バイク 7. 自転車 8. 徒歩 9. その他	1. 鉄道 2. バス 3. 自動車（自分で運転する場合） 4. 自動車（ご家族等の送迎の場合） 5. タクシー 6. 原付・バイク 7. 自転車 8. 徒歩 9. その他
 ④主な交通手段 で「1. 鉄道」と回答した方は、⑤についても回答してください （「1. 鉄道」以外を回答した方は、⑤は回答不要です）		
⑤駅までの 交通手段 (1 つに○印)	1. 徒歩 2. 自転車 3. 自動車 4. バス 5. タクシー 6. その他	1. 徒歩 2. 自転車 3. 自動車 4. バス 5. タクシー 6. その他

次ページ (2/4) に続きます→

3. 鉄道の利用状況についてお伺いします。

問3. 「鉄道」の利用頻度をお答えください。(1つに○印)

- | | | | | |
|----------|----------|----------|----------|----------|
| 1. 週5日以上 | 2. 週3~4日 | 3. 週1~2日 | 4. 月2~3日 | 5. 月1日程度 |
| 6. 年に数回 | 7. 利用しない | | | |

問4. 「鉄道」の主な利用目的をお答えください。(1つに○印)

- | | | | | |
|-------|-------|--------|-------|--------|
| 1. 通勤 | 2. 通学 | 3. 買い物 | 4. 通院 | 5. その他 |
|-------|-------|--------|-------|--------|

問5. 市内の「鉄道」の満足度をお答えください。(1つに○印)

- | | | | | |
|-------|---------|---------|-------|----------|
| 1. 満足 | 2. やや満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 | 5. わからない |
|-------|---------|---------|-------|----------|

問6. 今後、「鉄道」を利用するにあたり、最も重視する点をお答えください。(1つに○印、「7. その他」を選択した場合は、()に具体内容を記入)

- | |
|----------------------------------|
| 1. 路線に関すること(駅の配置、駅の位置など) |
| 2. 運行に関すること(運行本数、運行時間帯、バスとの乗継など) |
| 3. 料金に関すること(料金体系、料金の支払方法など) |
| 4. 情報提供や案内に関すること(路線図、時刻表、運行情報など) |
| 5. 待合環境に関すること(駅の待合所の設備など) |
| 6. 福祉に関すること(車いす、ベビーカーでの利用など) |
| 7. その他() |

4. バス(高速バスや貸切バスを除く)の利用状況についてお伺いします。

問7. 「バス」の利用頻度をお答えください。(1つに○印)

- | | | | | |
|----------|----------|----------|----------|----------|
| 1. 週5日以上 | 2. 週3~4日 | 3. 週1~2日 | 4. 月2~3日 | 5. 月1日程度 |
| 6. 年に数回 | 7. 利用しない | | | |

問8. 「バス」の主な利用目的をお答えください。(1つに○印)

- | | | | | |
|-------|-------|--------|-------|--------|
| 1. 通勤 | 2. 通学 | 3. 買い物 | 4. 通院 | 5. その他 |
|-------|-------|--------|-------|--------|

問9. 市内の「バス」の満足度をお答えください。(1つに○印)

- | | | | | |
|-------|---------|---------|-------|----------|
| 1. 満足 | 2. やや満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 | 5. わからない |
|-------|---------|---------|-------|----------|

問10. 今後、「バス」を利用するにあたり、最も重視する点をお答えください。(1つに○印、「7. その他」を選択した場合は、()に具体内容を記入)

- | |
|----------------------------------|
| 1. 路線に関すること(バス停の配置、経路など) |
| 2. 運行に関すること(運行本数、運行時間帯、鉄道との乗継など) |
| 3. 料金に関すること(料金体系、料金の支払方法など) |
| 4. 情報提供や案内に関すること(路線図、時刻表、運行情報など) |
| 5. 待合環境に関すること(バス停の設備など) |
| 6. 福祉に関すること(車いす、ベビーカーでの利用など) |
| 7. その他() |

次ページ(3/4)に続きます→

5. タクシーの利用状況についてお伺いします。

問 11. 「タクシー」の利用頻度をお答えください。(1 つに○印)

- | | | | | |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| 1. 週 5 日以上 | 2. 週 3～4 日 | 3. 週 1～2 日 | 4. 月 2～3 日 | 5. 月 1 日程度 |
| 6. 年に数回 | 7. 利用しない | | | |

問 12. 「タクシー」の主な利用目的をお答えください。(1 つに○印)

- | | | | | |
|-------|-------|--------|-------|--------|
| 1. 通勤 | 2. 通学 | 3. 買い物 | 4. 通院 | 5. その他 |
|-------|-------|--------|-------|--------|

問 13. 市内の「タクシー」の満足度をお答えください。(1 つに○印)

- | | | | | |
|-------|---------|---------|-------|----------|
| 1. 満足 | 2. やや満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 | 5. わからない |
|-------|---------|---------|-------|----------|

問 14. 今後、「タクシー」を利用するにあたり、最も重視する点をお答えください。(1 つに○印、
「5. その他」を選択した場合は、() に具体内容を記入)

- | |
|-------------------------------|
| 1. 料金に関すること (料金体系、料金の支払方法など) |
| 2. サービスに関すること (運転手の接客など) |
| 3. 情報提供や案内に関すること (運行情報など) |
| 4. 福祉に関すること (車いす、ベビーカーでの利用など) |
| 5. その他 () |

6. 公共交通の利用のしやすさ、今後の方向性についてお伺いします。

問 15. お住まいの地域において公共交通の利用のしやすさは、どのようにお考えですか。外出目的 (下の表の A～D) ごとに評価 (下の表の 1～5 のいずれかに○) してください。

外出目的	評価				わからない・使わない
	使いやすい			使いづらい	
A 通勤・通学	1	2	3	4	5
B 買い物	1	2	3	4	5
C 通院	1	2	3	4	5
D その他	1	2	3	4	5

問 16. 問 15 で「3」または「4」と回答した外出目的について、具体的な理由があれば、以下の回答欄にご記入ください。

外出目的	具体的な理由
A 通勤・通学	
B 買い物	
C 通院	
D その他	

次ページ (4/4) に続きます→

問 17. 伊東市では毎年、公共交通関連で財政支援を行い、公共交通のサービス水準の維持に向けた取組みを行っています。(令和6年度は約6,000万円を使用)

加えて、公共交通の利用者数の減少や運転士の不足により、公共交通事業を支える運行事業者の運営は依然厳しい状況が続いています。このような現状を踏まえ、市内の公共交通は近い将来、どのように変化していくと思われますか。(1つに○印、「6. その他」を選択した場合は、() に具体内容を記入)

1. 今後は利用者が増加するため、事業者の運営状況は改善されると思う
2. 現状から変化はなく、公共交通ネットワークは維持されると思う
3. 近い将来、事業者の運営状況が悪化し、市内の公共交通は不便になると思う
4. 近い将来、事業者の運営状況が悪化し、市内の公共交通はなくなると思う
5. わからない
6. その他 ()

問 18. 問 17 のお考えを踏まえ、今後の伊東市での公共交通の維持に向けた財政支援について、どのようにお考えですか。(1つに○印)

1. 財政支援を拡大し、公共交通の利便性を高めるべきである
2. 財政支援は現状を維持し、現在の公共交通の状況を維持すべきである
3. 財政支援を縮小し、赤字路線の見直しや、交通事業者の経営努力を促すべきである
4. わからない

問 19. 今後、伊東市で必要な交通施策として、あなたのお考えに近いものを選んでください。(当てはまるものを3つまで○印、「11. その他」を選択した場合は、() に具体内容を記入)

1. 居住地に関係なく、市民に対して等しく移動を支援する取組みを行う
2. 子どもや子育て世代が移動しやすい環境を用意する
3. 高齢者や免許返納者の移動を支援する取組みを充実する
4. 観光客の移動が便利になる取組みを充実する
5. 従来の鉄道、バス、タクシー以外の新たな交通手段を導入する
6. ボランティアによる送迎など、地域の方や施設が中心となった移動手段を確保する
7. 別荘地においては、開発会社、管理会社、自治組織が主体となって住民の移動を支援する
8. 利用の少ない赤字のバス路線を見直し、利用の多いバス路線をさらに便利にする
9. 特に必要な取組みはない
10. わからない
11. その他 ()

問 20. 公共交通に対して、ご意見やご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

アンケート調査は以上です。ご協力ありがとうございました。

2-2 調査結果概要

(1) 免許、自動車の保有状況

○回答者のうち、免許を持っている方の比率は約 70%、世帯に自動車が 1 台以上ある比率は約 80%となっている。統計情報（静岡県警 交通年鑑）と同様の傾向である。

○年代別では、70 歳代以上の方の免許保有率、保有台数が低い傾向にある。

○静岡県全体や全国と比較すると、人口当たりの保有率、保有台数ともに全国平均より高い状況ですが、静岡県全体より低くなっている。

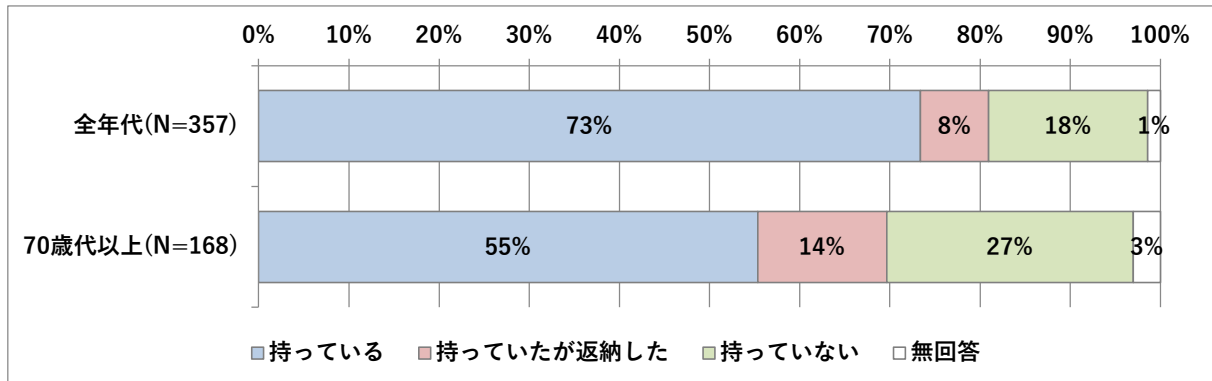


図 13 免許の保有状況

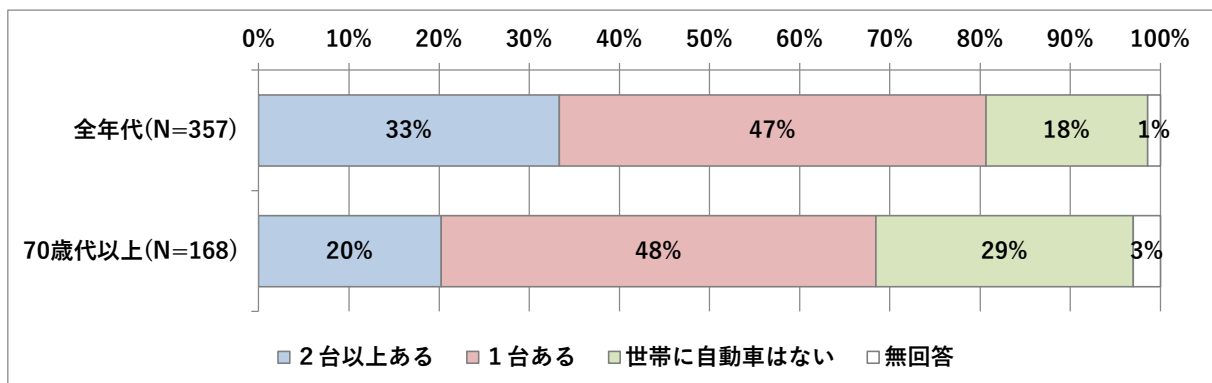


図 14 自動車の保有状況

表 4 伊東市、静岡県、全国の免許保有、自動車保有状況（令和 4 年度）

免許保有者数	伊東市	静岡県全体	全国
保有者数（人）	43,437	2,524,842	81,840,549
人口（人）	64,126	3,582,194	124,947,000
人口当たり保有率（%）	68%	70%	66%
車両保有台数	伊東市	静岡県全体	全国
保有台数（台）	50,511	3,184,458	91,356,361
人口（人）	64,126	3,582,194	124,947,000
人口当たり（台／人）	0.79	0.89	0.73

※出典：静岡県警 交通年鑑

(2) 外出状況について

○最も多い外出の目的は通勤又は買い物、2 番目に多い外出の目的は買い物又は通院であり、移動手段も全体として自動車が過半数を示しています。この結果は前回（平成 29 年度実施）の調査結果と同様の傾向です。

○ただし、前回調査と比較すると、鉄道の利用率が低下（前回：10%→今回：5%）しており、新型コロナウイルス等の影響で、利用率が低下したものと考えられます。

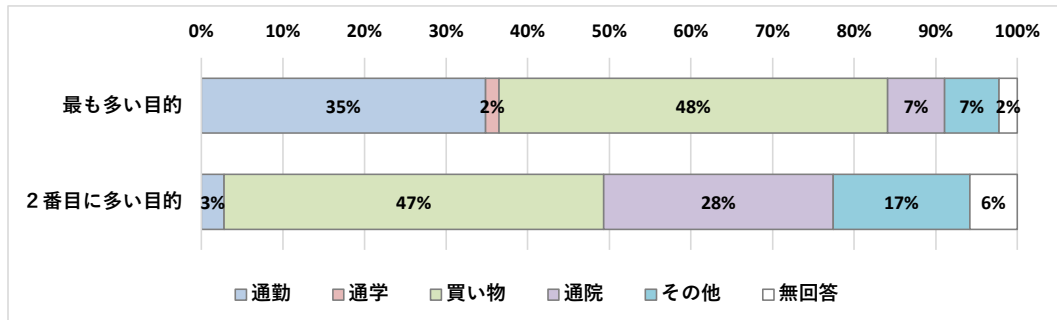


図 15 最も多い移動、2 番目に多い移動の移動目的

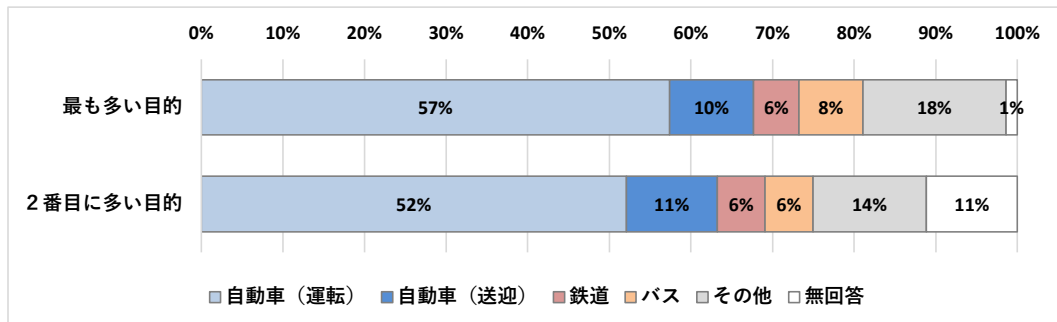


図 16 最も多い移動、2 番目に多い移動の移動手段

(3) 公共交通の利用状況

○鉄道、バス、タクシーの利用状況は、前回調査結果からほぼ変化はありません。

○週 1 日以上各交通手段を利用する比率の今回調査と前回調査の比較は以下となります。

鉄道：今回 7.8%、前回 8.7%

バス：今回 7.2%、前回 6.8%

タクシー：今回 2.8%、前回 2.9%

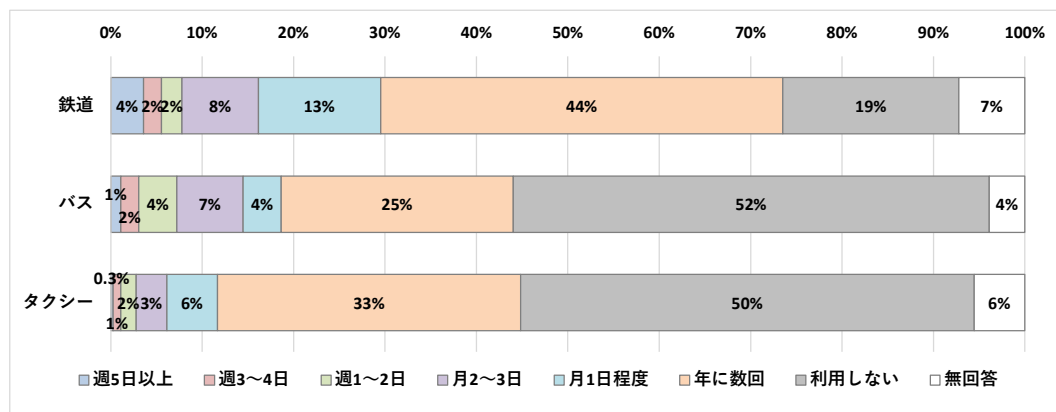


図 17 鉄道、バス、タクシーの利用頻度

(4) 公共交通利用で重視する機能

○公共交通の利用で重視する点として、鉄道とバスは「運行に関すること」、タクシーは「料金に関すること」が主となる点は、前回調査から変更ありません。

○ただし、鉄道とバスは「運行に関すること」の比率が高くなっており、コロナの影響での減便、今後の運行維持の懸念が反映されていると思われます。

○また、タクシーに関しては「福祉に関すること」と「その他」が増加しており、「その他」の意見では、駅にタクシーがない、タクシーを呼んでもなかなか来ない、タクシーを予約できないなど、昨今の運転手不足による影響が反映されています。

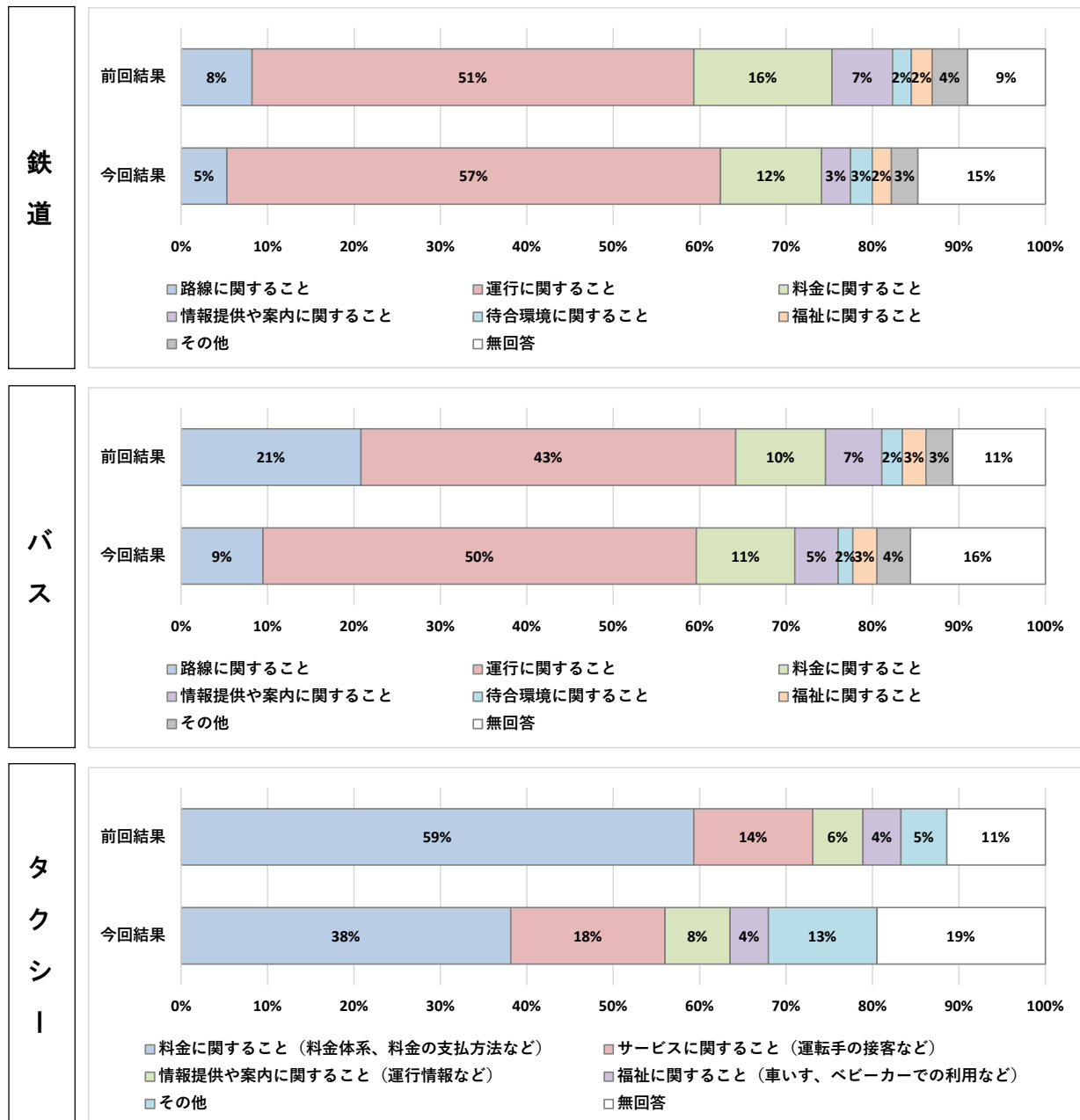


図 公共交通を利用する際に重視する点 の前回との比較

(5) 公共交通による移動のしやすさ

- 公共交通を利用した移動のしやすさでは、いずれの目的も、「使いやすい・やや使いやすい」の比率に対し、「やや使いづらい・使いづらい」の比率が大きくなっています。
- 前回調査の満足と不満足之比、今回調査の使いやすいと使いづらいの比、を比較すると、今回調査の方が使いづらいとする比が大きくなっています。
- 各交通手段は IC カードの導入や情報提供の充実など、ここ数年で使いやすさは上がっている一方、全国と比較するとタクシー配車アプリ等の導入の遅れや情報提供の周知不足などが考えられ、また生活の各分野で IT 技術の進展が著しい一方、公共交通分野では進展があまり見られない結果が反映されていると考えられます。

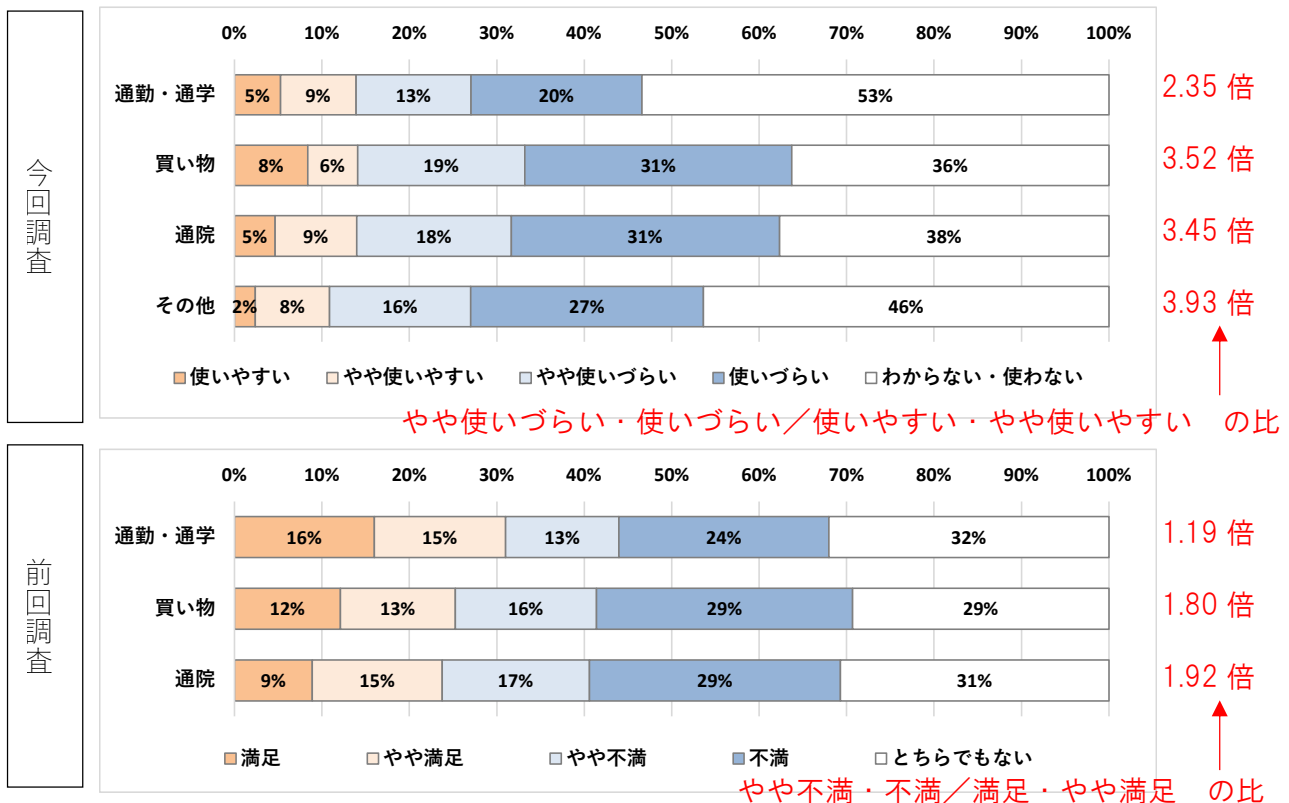


図 18 公共交通の利用のしやすさ の前回との比較

(6) 公共交通の今後、求められる取組みについて

- 公共交通への今後の展望は、「近い将来、事業者の運営状況が悪化し、市内の公共交通は不便になると思う」が主な見解となっており、そのような公共交通に対し、「財政支援を拡大し、公共交通の利便性を高めるべきである」という意見が多くなっています。
- また、今後必要な取組みは以下であり、これらを踏まえた計画策定が必要です。
- 回答者が主に必要とした取組み（回答率の高いもの上位 4 つ）

子どもや子育て世代が移動しやすい環境 ←30～40 歳代の子育て世代で意向が多い
 従来の鉄道、バス、タクシー以外の新たな交通手段 ←高齢者で特に意向が多い
 高齢者や免許返納者の移動を支援する取組み ←高齢者だけでなく全年代で多い
 居住地に関係なく、市民に対して等しく移動を支援する取組み ←地域関係なく多い

2-3 地域別、年代別の集計結果

(1) 回答者属性

1) 居住地・年代

○回答者の居住地、年代構成は以下のとおり。

○概ね大字別、年代別の人口数と回答数は合致するが、年代別では40歳代以下の人口数に対して回答者数が少ない傾向となっている。

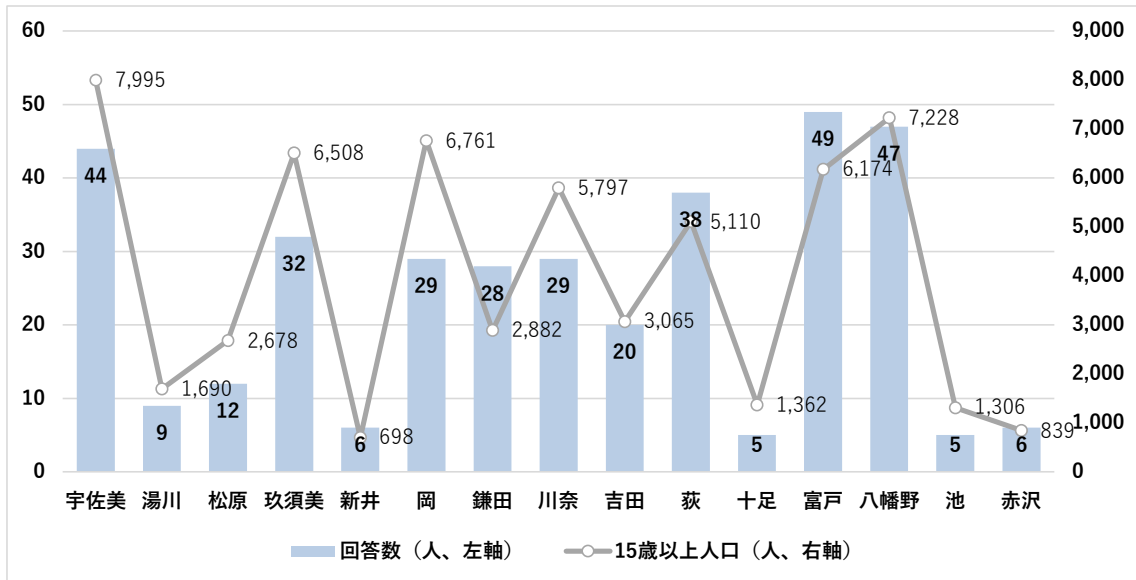


図 19 大字別の回答者数及び人口数（人口数は15歳以上）

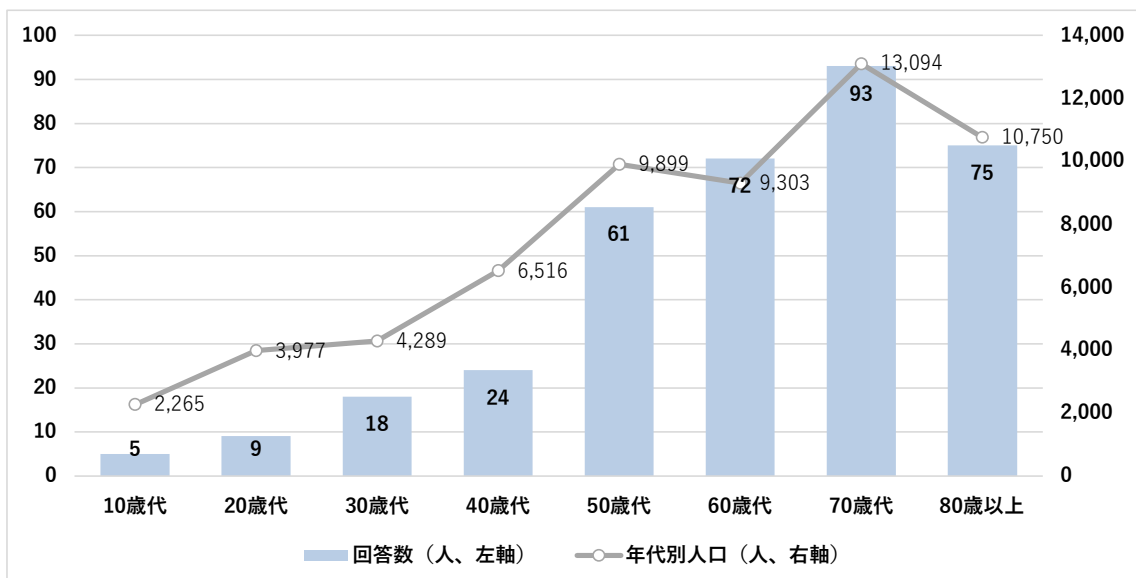


図 20 年代別の回答者数及び年代別人口

※大字別、年代別人口は伊東市統計（2024年8月末時点）より

＜参考＞大字別の回収率、大字別年代別の回収数

※大字、年代の未回答者は除く

表 5 大字別の配布数、回収数、回収率

	配布数	回収数	回収率
宇佐美	148	44	29.7%
湯川	33	9	27.3%
松原	50	12	24.0%
玖須美	132	32	24.2%
新井	18	6	33.3%
岡	124	29	23.4%
鎌田	65	28	43.1%
川奈	105	29	27.6%
吉田	68	20	29.4%
荻	120	38	31.7%
十足	34	5	14.7%
富戸	126	49	38.9%
八幡野	141	47	33.3%
池	20	5	25.0%
赤沢	16	6	37.5%
合計	1200	359	29.9%

表 6 大字別、年代別の回収数

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
宇佐美	2	1	4	1	13	5	11	7
湯川	0	0	0	0	2	4	1	2
松原	0	1	1	1	4	1	1	3
玖須美	1	1	1	1	5	11	8	4
新井	0	0	0	0	2	0	1	3
岡	0	2	2	2	0	9	6	6
鎌田	0	0	2	3	9	4	6	4
川奈	0	0	3	4	4	5	7	6
吉田	1	1	0	2	4	4	6	2
荻	0	1	2	3	3	7	12	10
十足	0	1	0	0	1	2	1	0
富戸	0	1	2	5	8	7	16	8
八幡野	1	0	1	2	4	6	16	17
池	0	0	0	0	1	2	1	1
赤沢	0	0	0	0	1	4	0	1

2) 運転免許の保有状況

○地域別では、各地域とも「持っている」の割合が高い。

○年代別では、20～70 歳代で「持っている」の割合が高い。一方で、「80 歳以上」では「持っていたが返納した」、「持っていない」の割合が高い。

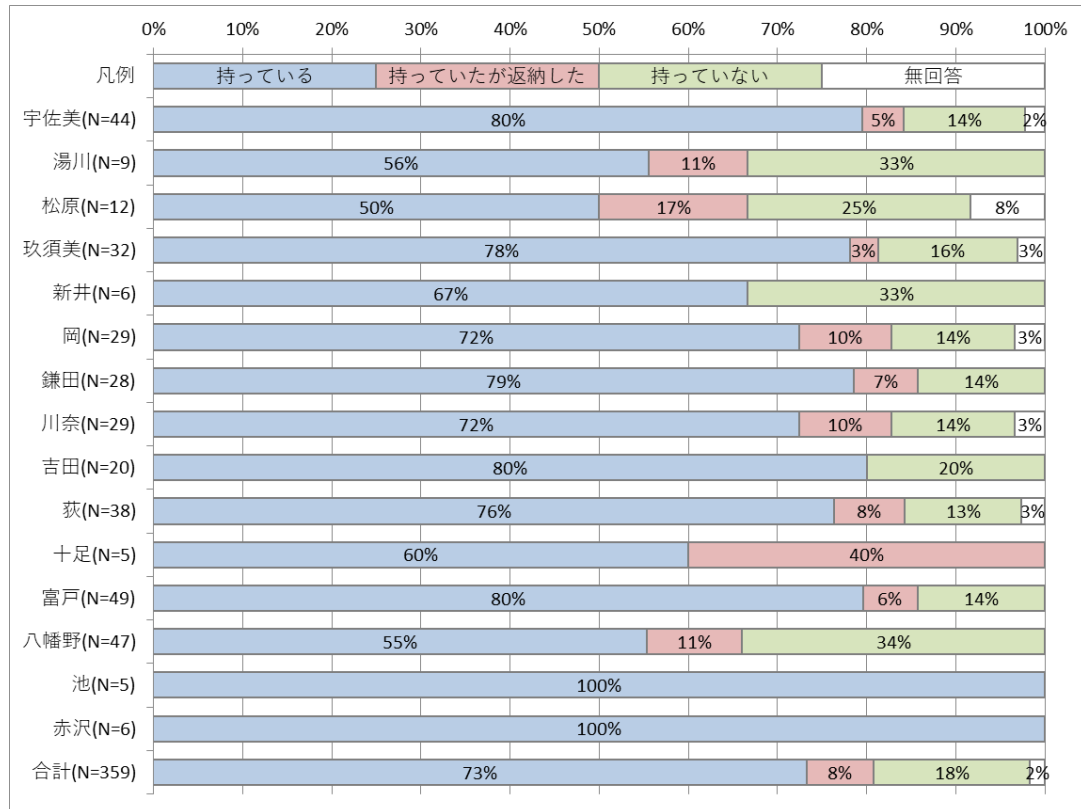


図 21 運転免許の保有状況（大字別）

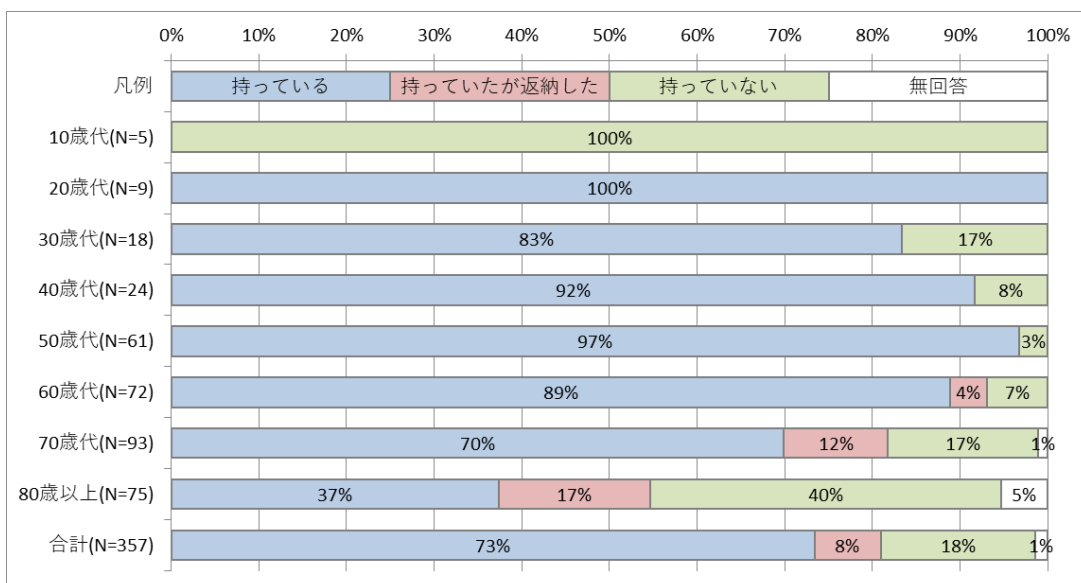


図 22 運転免許の保有状況（年代別）

3) 世帯での自動車の保有状況

○全体的に「2台以上ある」「1台ある」が多数となっている。

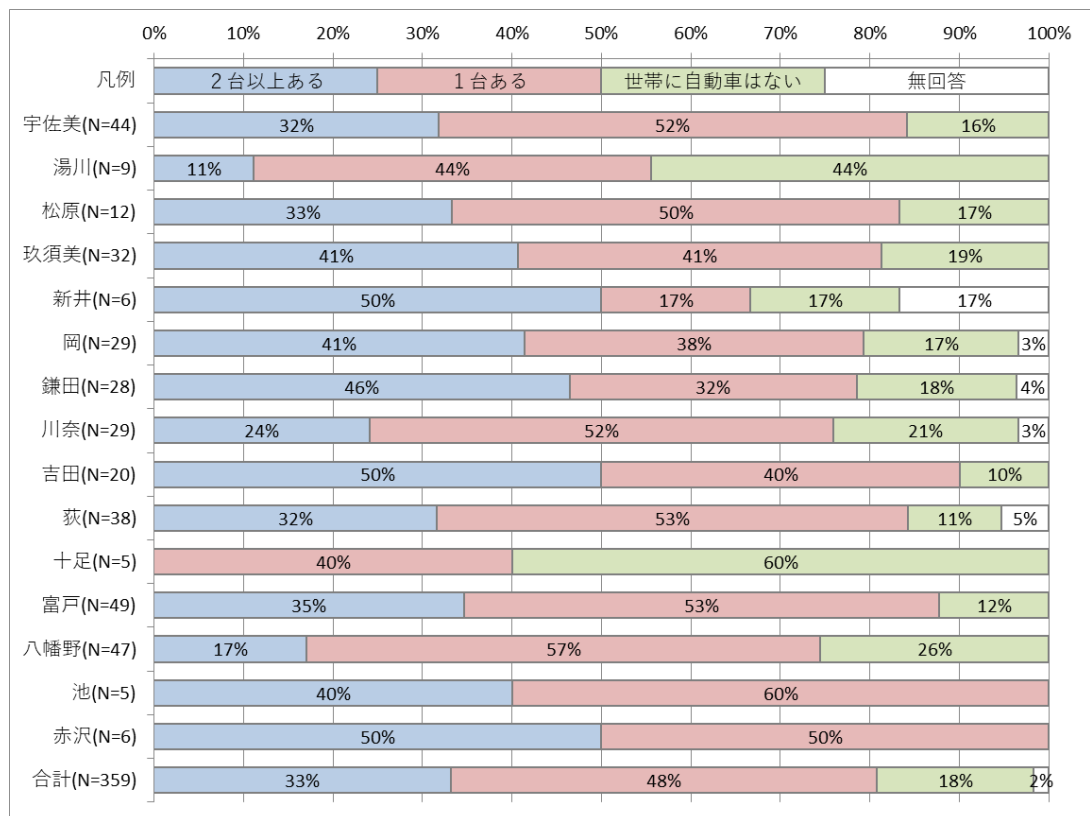


図 23 世帯での自動車の保有状況（大字別）

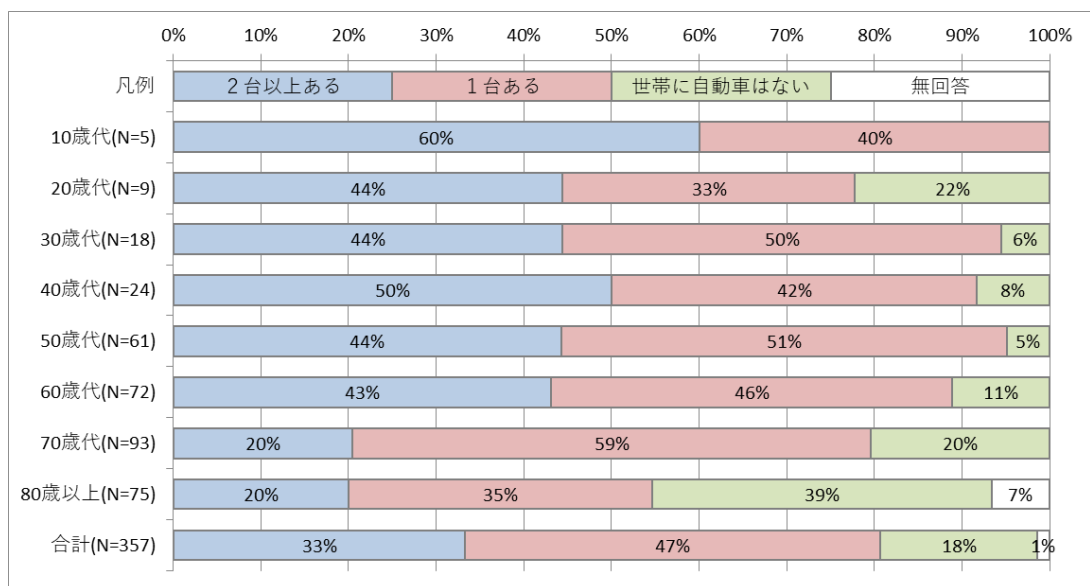


図 24 世帯での自動車の保有状況（年代別）

(2) 普段の外出の状況

1) 最も多い外出

①外出目的

○地域別では、多くの地域で「通勤」、「買い物」の割合が高い。

○年齢別では、10歳代は「通学」、20～50歳代は「通勤」、60歳以上は「買い物」の割合が高い。

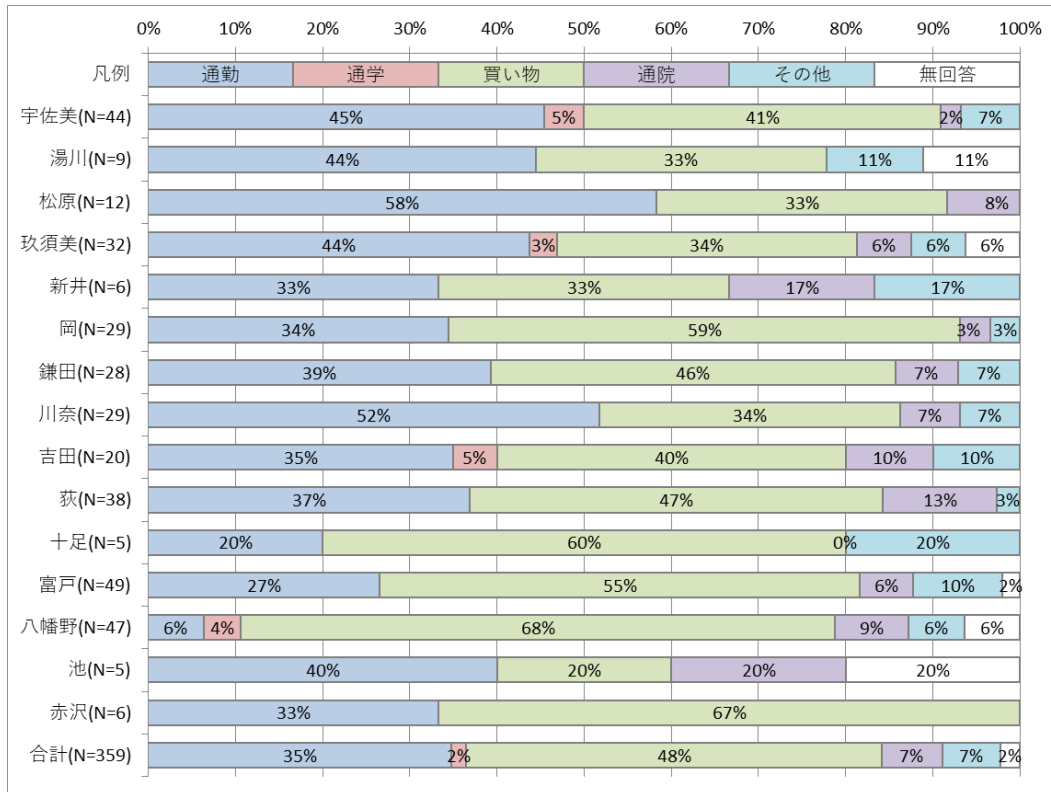


図 25 最も多い外出の目的（大字別）

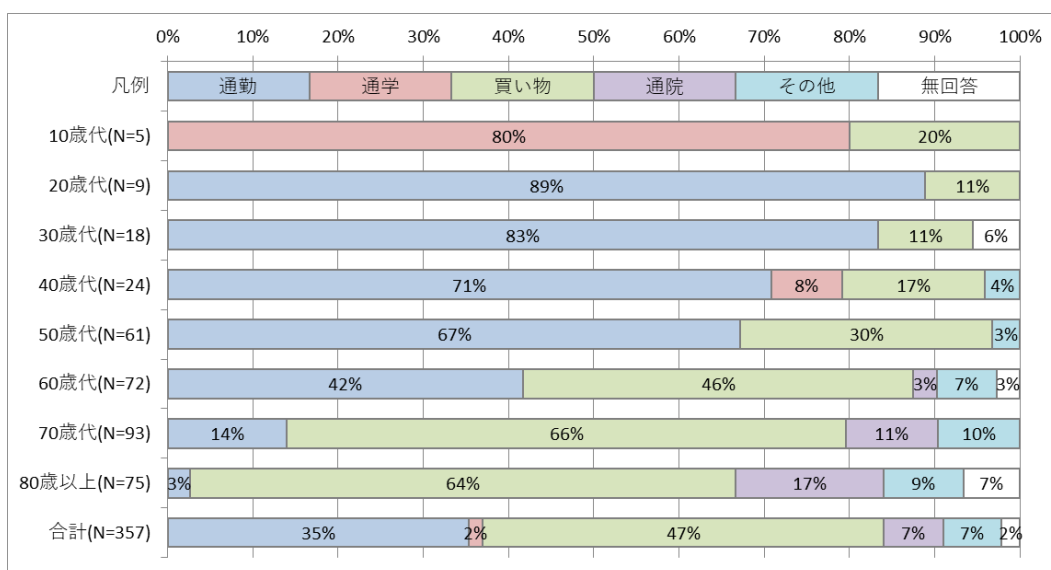


図 26 最も多い外出の目的（年代別）

②外出頻度

○地域別では、多くの地域で「週5日以上」、「週3～4日」が多数となっている。

○年齢別では、10～50歳代は「週5日以上」の割合が高く、60歳以上は「週3～4日」、「週1～2日」の割合が高い。

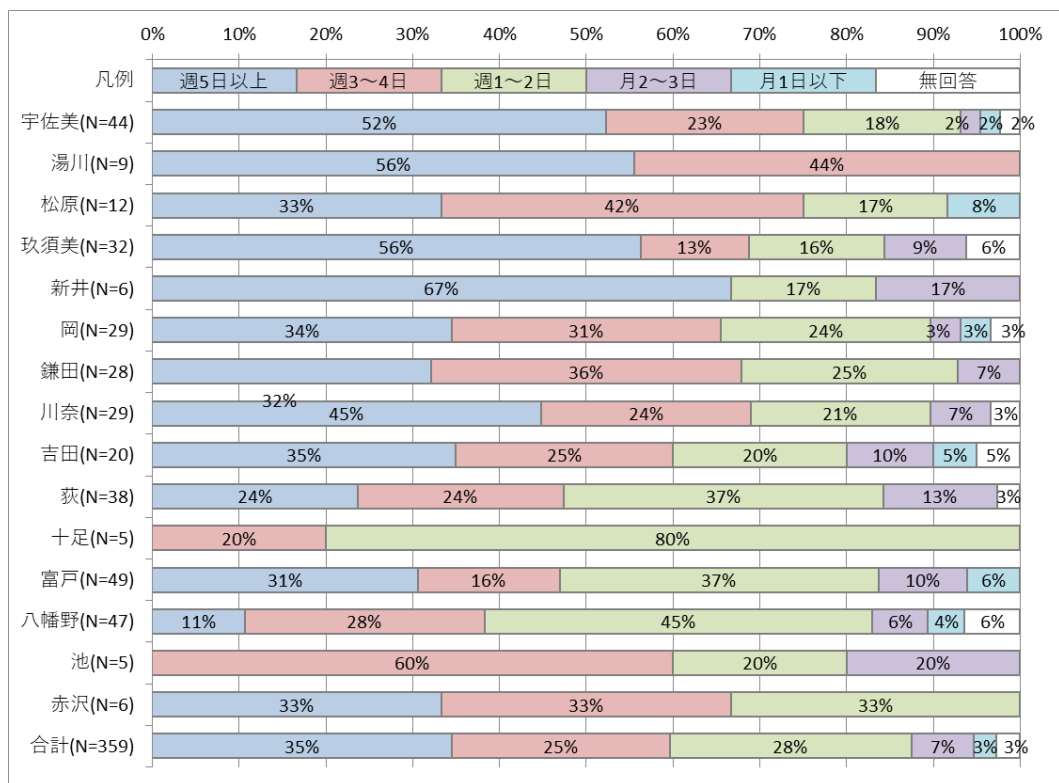


図 27 最も多い外出の頻度（大字別）

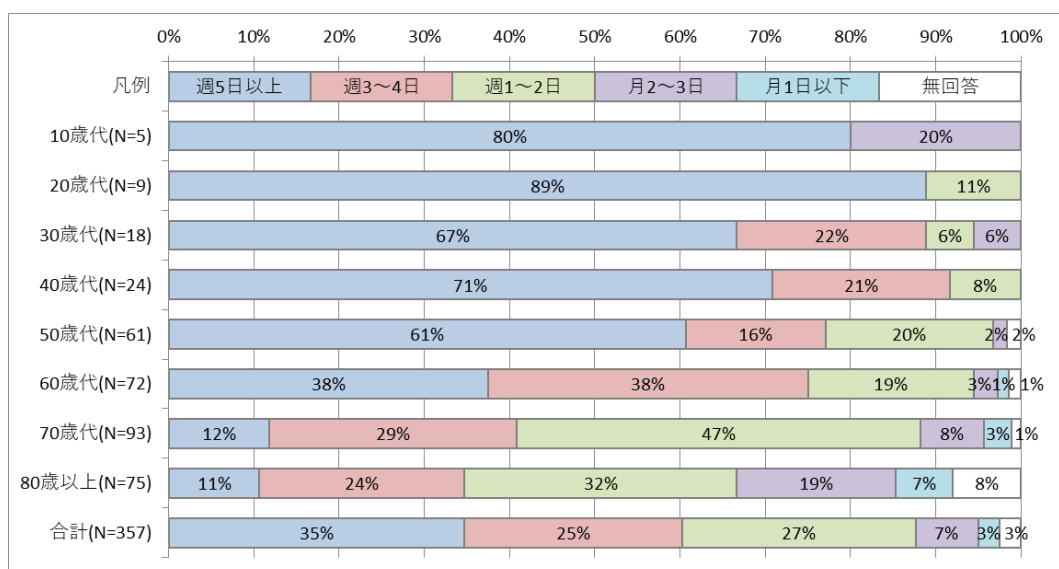


図 28 最も多い外出の頻度（年代別）

③主な交通手段

○全体的に「自動車（自分で運転）」の割合が高い。松原、岡などの市街地では比較的「徒歩」の割合も高い。

○年齢別では、10歳代は「鉄道」、「自動車（送迎）」の割合が高い。70歳以上は「鉄道」、「バス」といった公共交通機関の利用割合が高い。

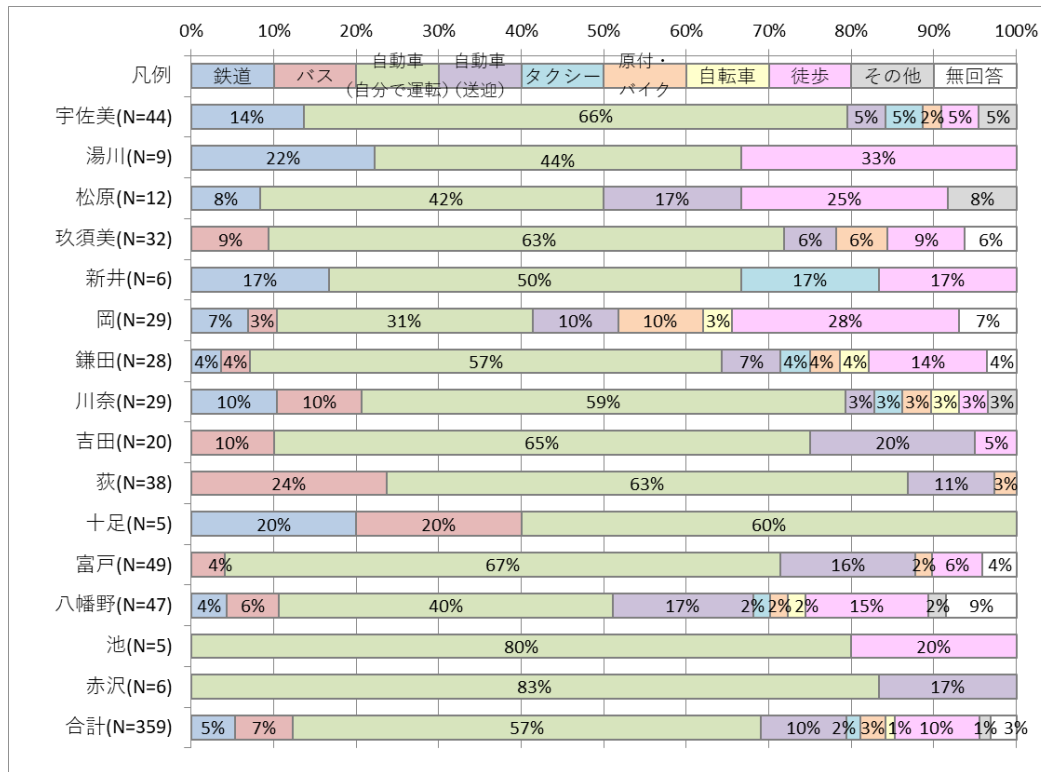


図 29 最も多い外出の移動手段（大字別）

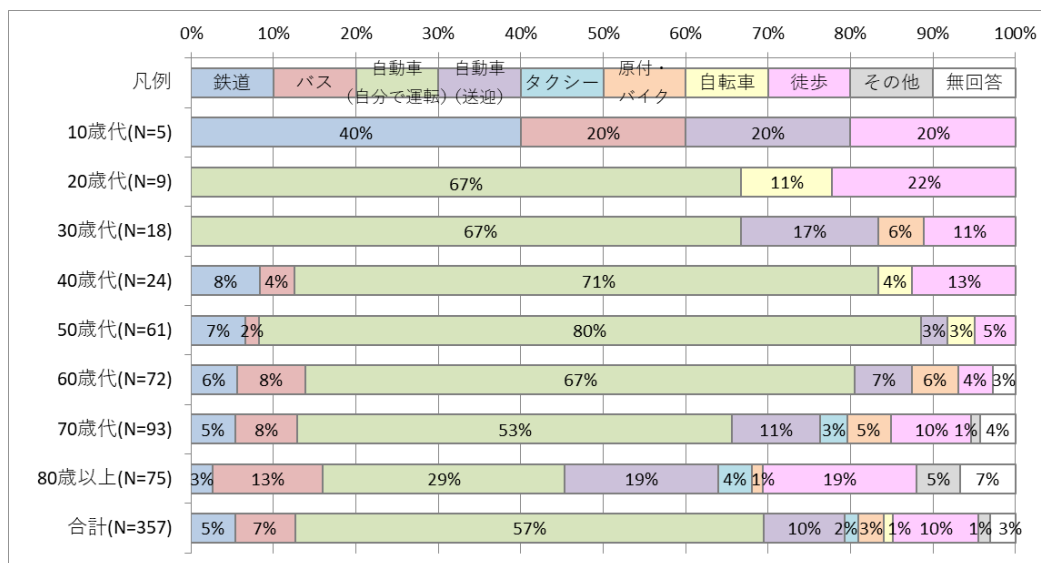


図 30 最も多い外出の移動手段（大字別）

④駅までの交通手段

○全体的に「徒歩」の割合が高い。

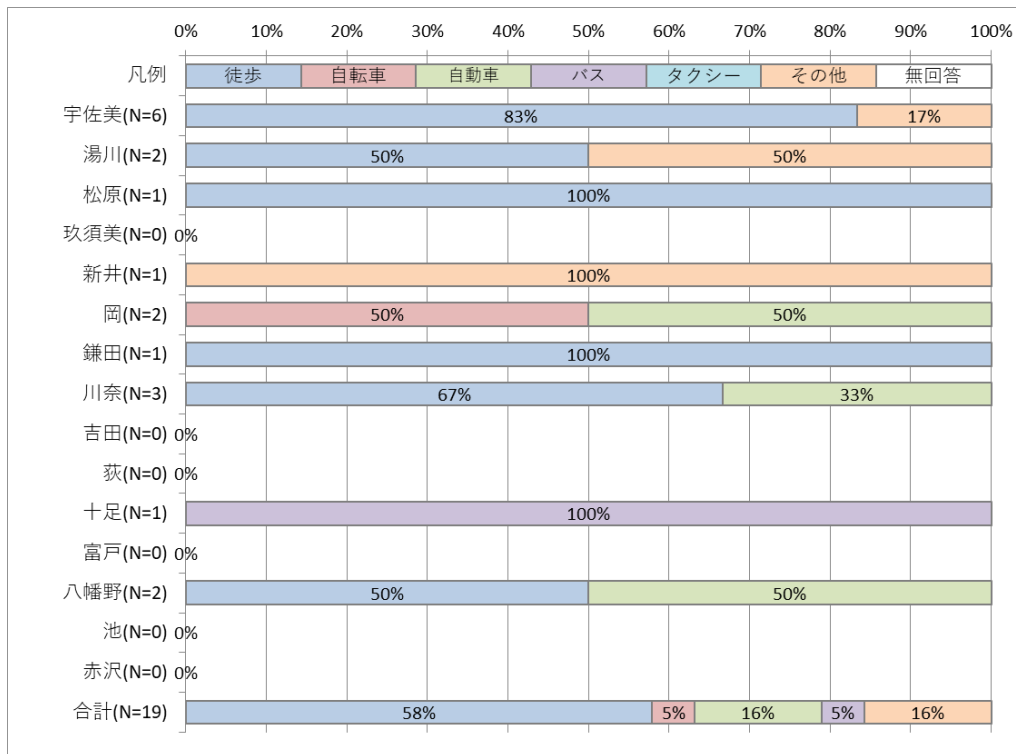


図 31 最も多い外出の鉄道駅までの移動手段（大字別）

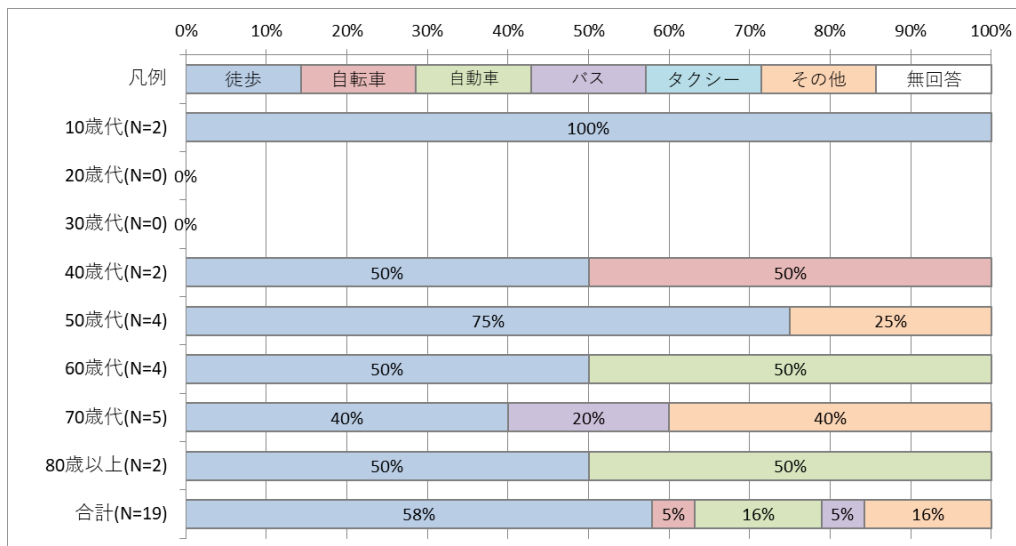


図 32 最も多い外出の鉄道駅までの移動手段（年代別）

2) 2 番目に多い外出

①外出目的

○地域別では、多くの地域で「買い物」の割合が高い。八幡野などでは「通院」の割合も高い。

○年代別では、特に 60 歳以上で「通院」の割合が高い。

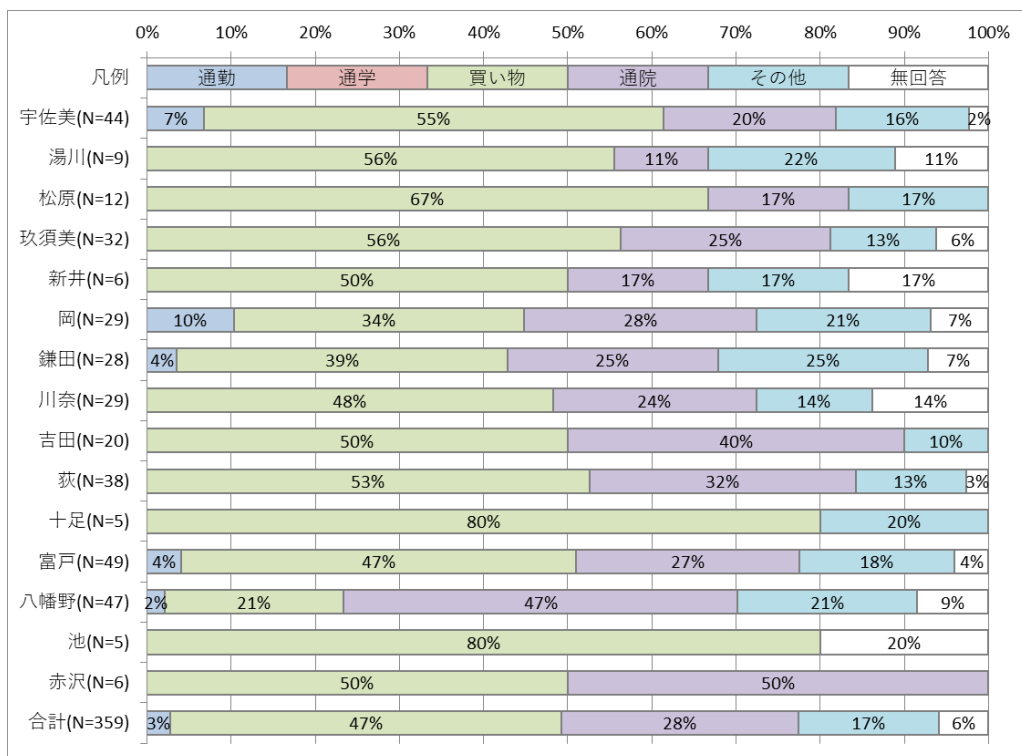


図 33 2 番目に多い外出の目的（大字別）

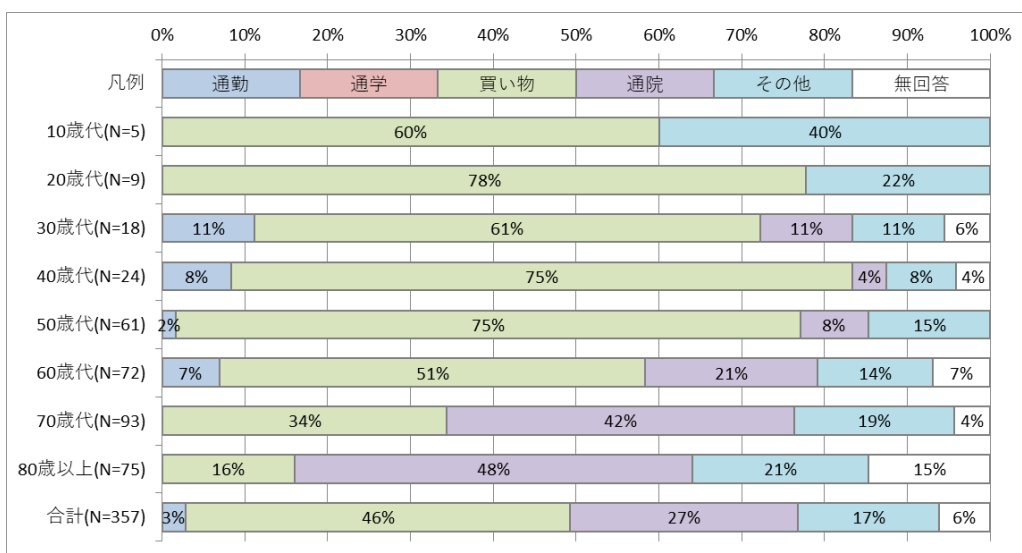


図 34 2 番目に多い外出の目的（年代別）

②外出頻度

○全体的に「週1～2日」の割合が高い。

○年代が高齢になるほど外出頻度は少ない傾向にある。

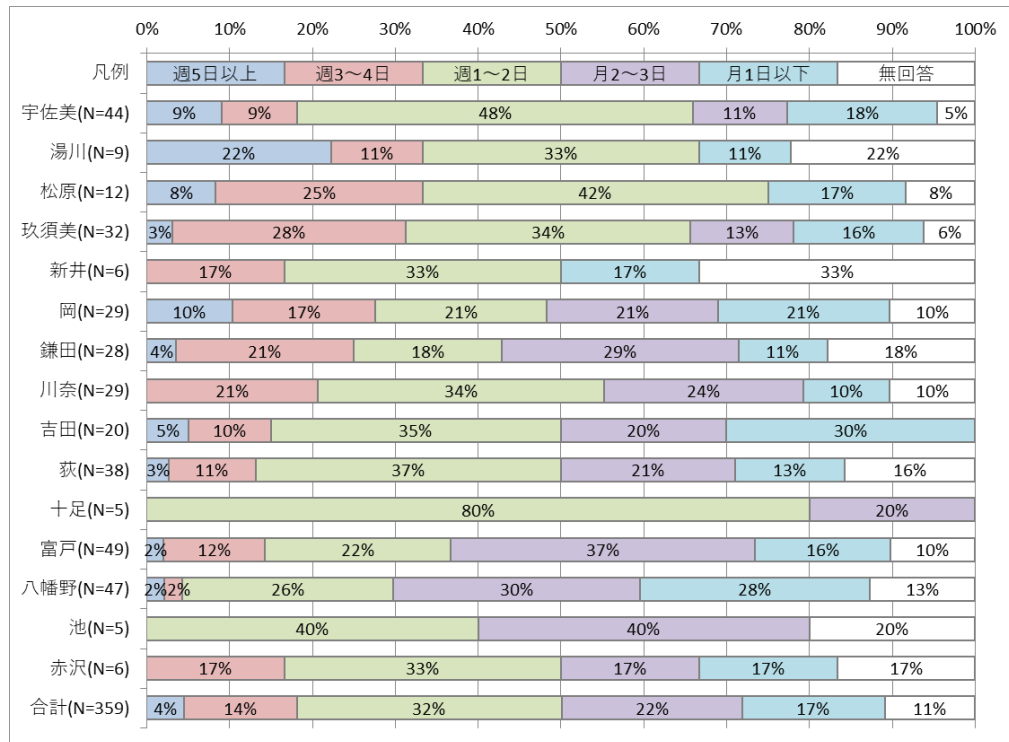


図 35 2 番目に多い外出の頻度（大字別）

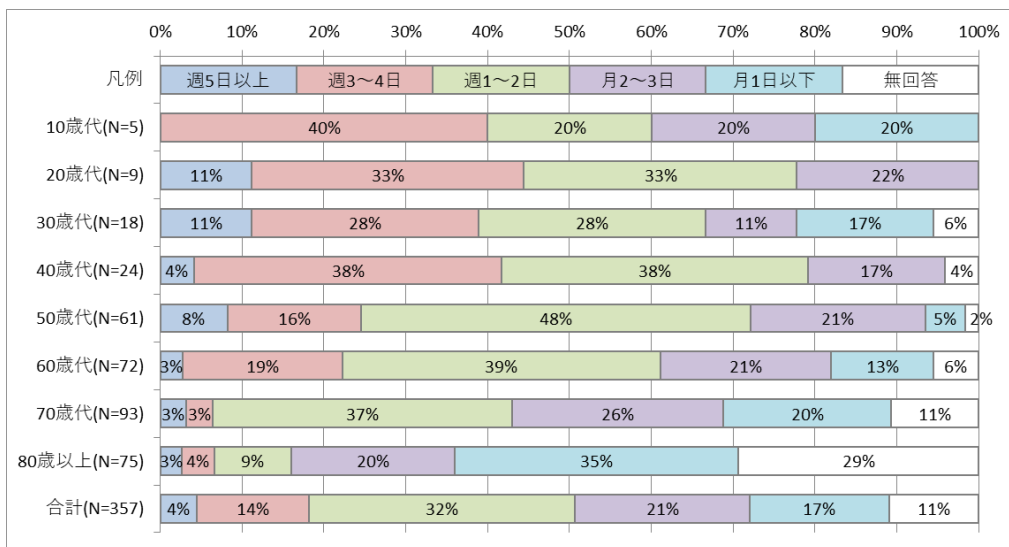


図 36 2 番目に多い外出の頻度（年代別）

③主な交通手段

○全体的に「自動車（自分で運転）」の割合が高い。

○年齢別では、10歳代は「鉄道」、「自動車（送迎）」の割合が高い。60歳以上は「鉄道」、「バス」といった公共交通機関の利用割合が比較的高い。

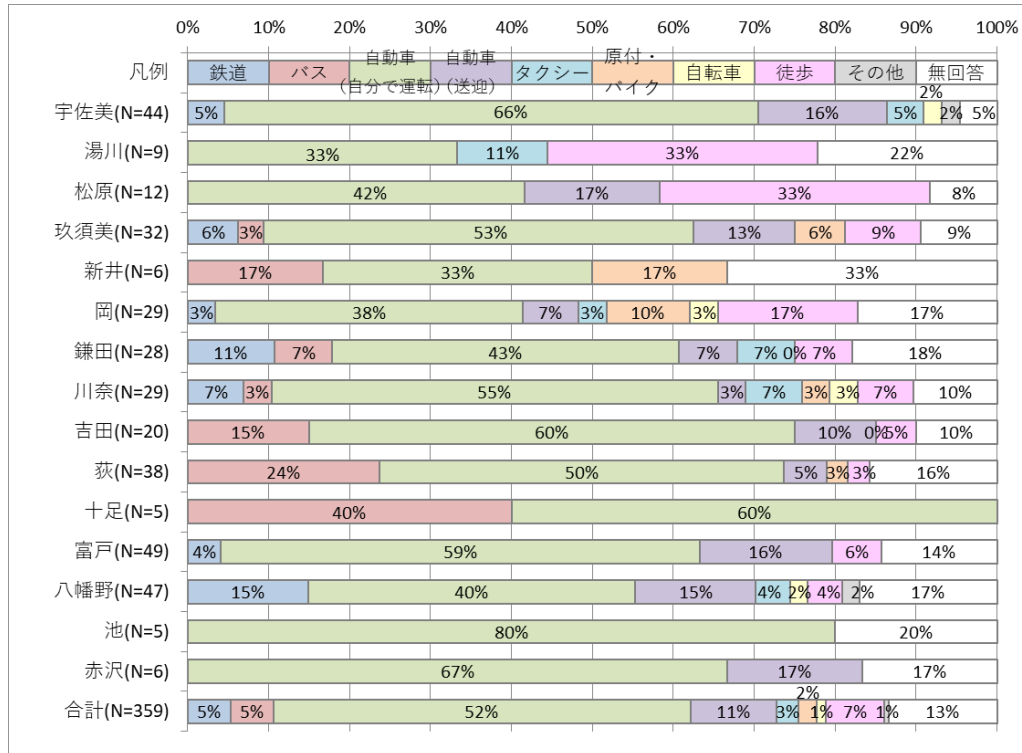


図 37 2 番目に多い外出の移動手段（大字別）

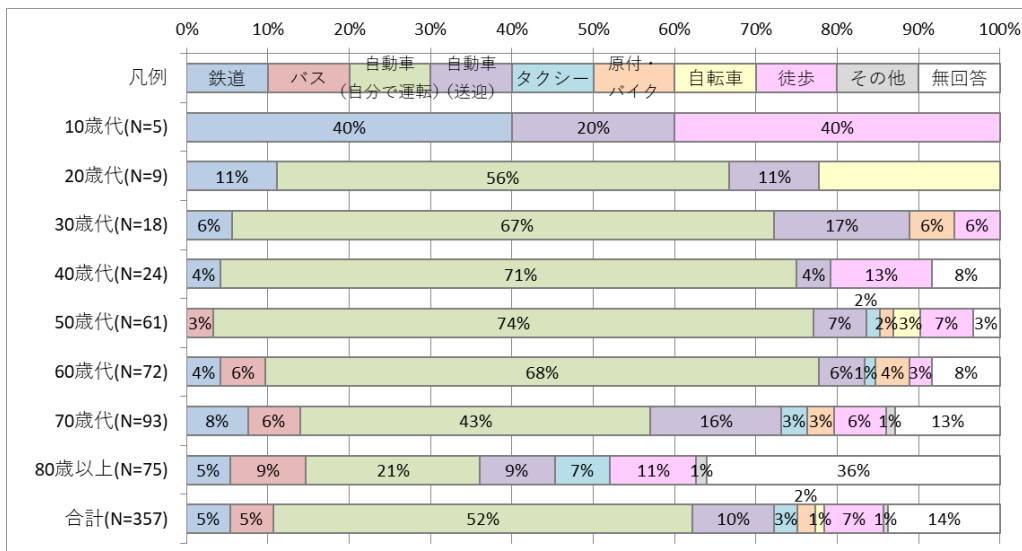


図 38 2 番目に多い外出の移動手段（年代別）

④駅までの交通手段

○全体的に「徒歩」の割合が高い。

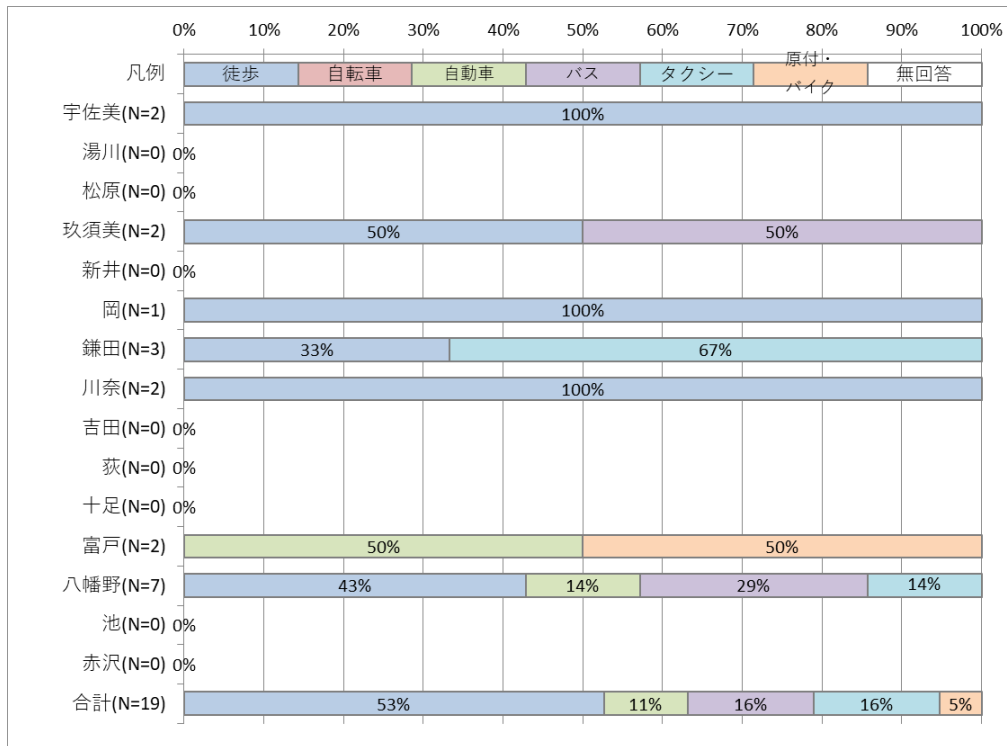


図 39 2 番目に多い外出の鉄道駅までの移動手段（大字別）

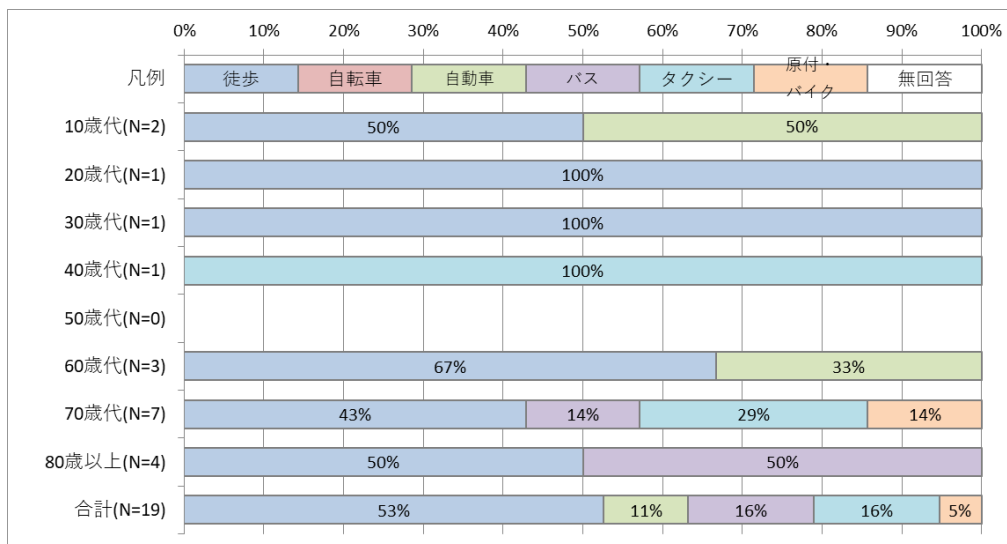


図 40 2 番目に多い外出の鉄道駅までの移動手段（年代別）

(3) 鉄道、バス、タクシーの利用状況

1) 鉄道

①利用頻度

○全体的に「年に数回」、「利用しない」の割合が高い。

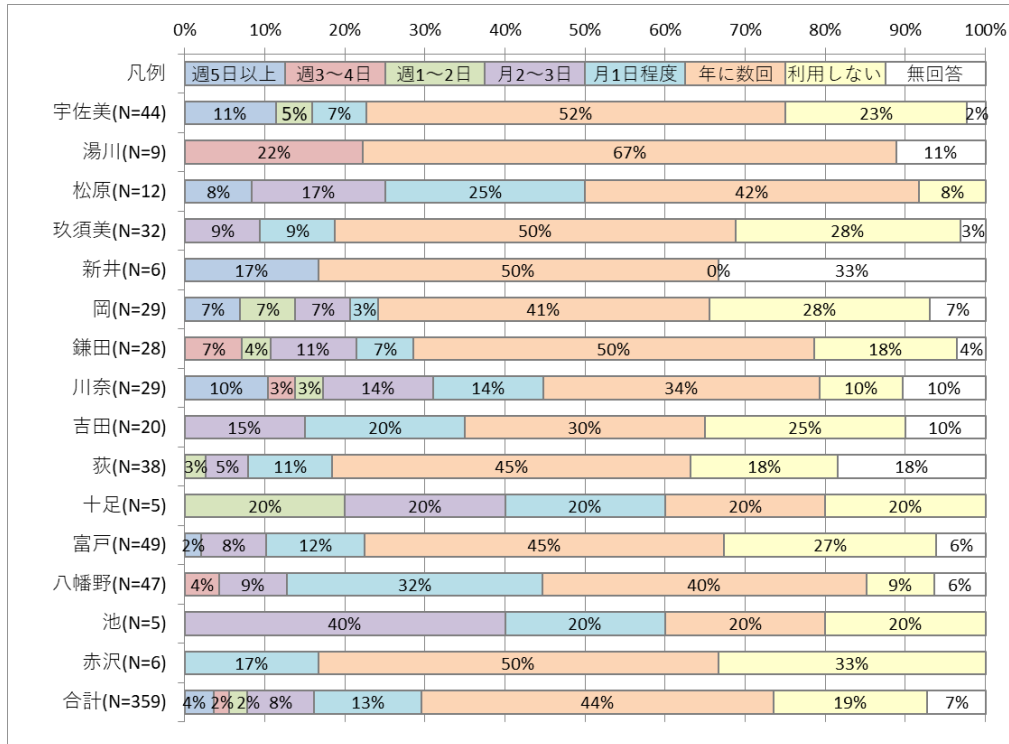
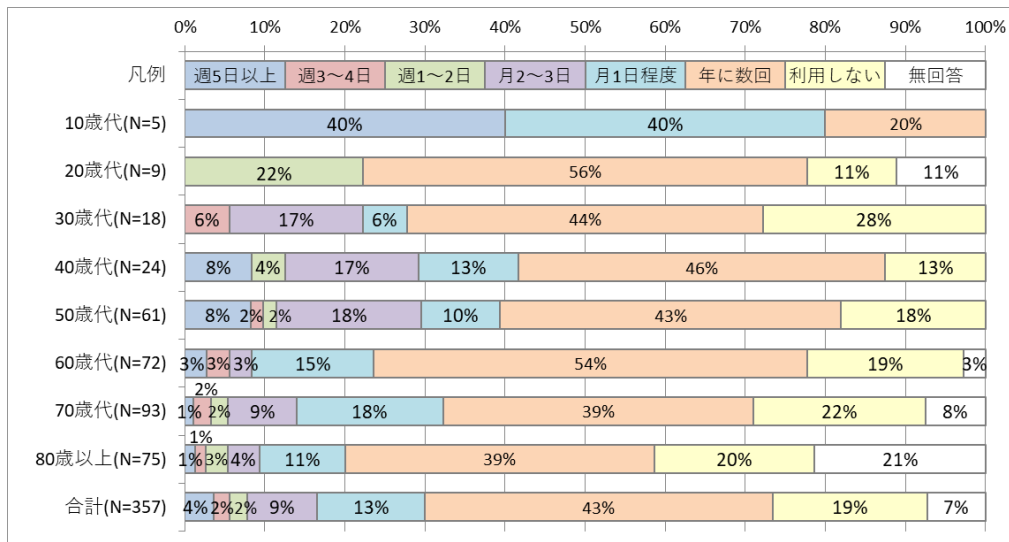


図 41 鉄道の利用頻度（大字別）



②利用目的

○全体的に「その他」の割合が高い。

○60 歳以上では「通院」の割合も比較的高い。

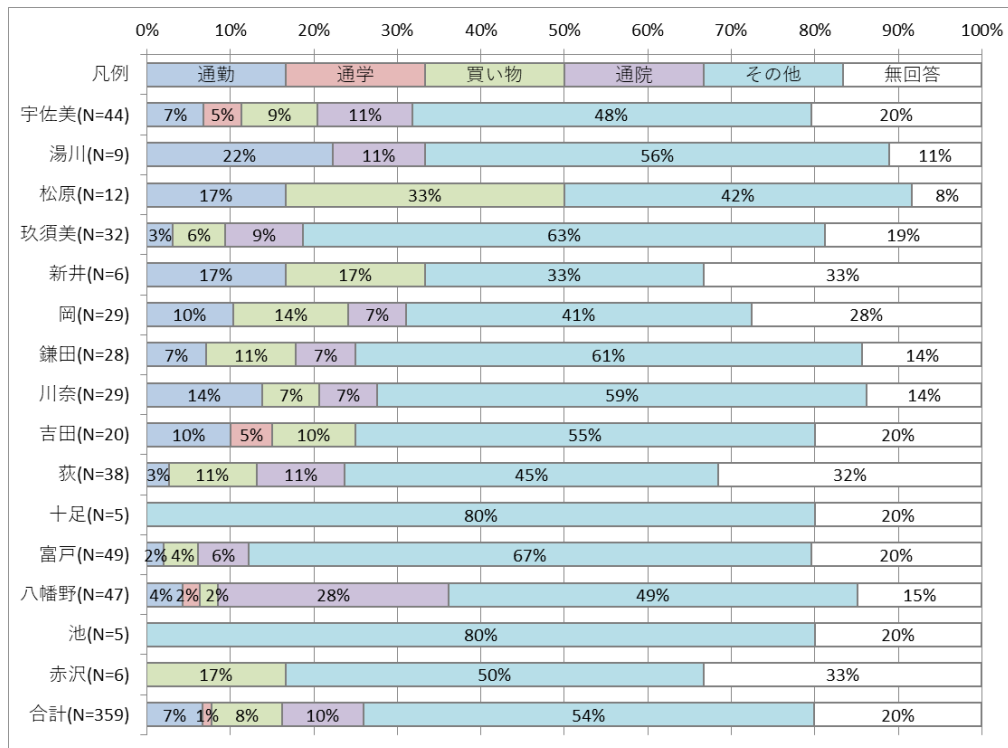


図 42 鉄道の利用目的（大字別）

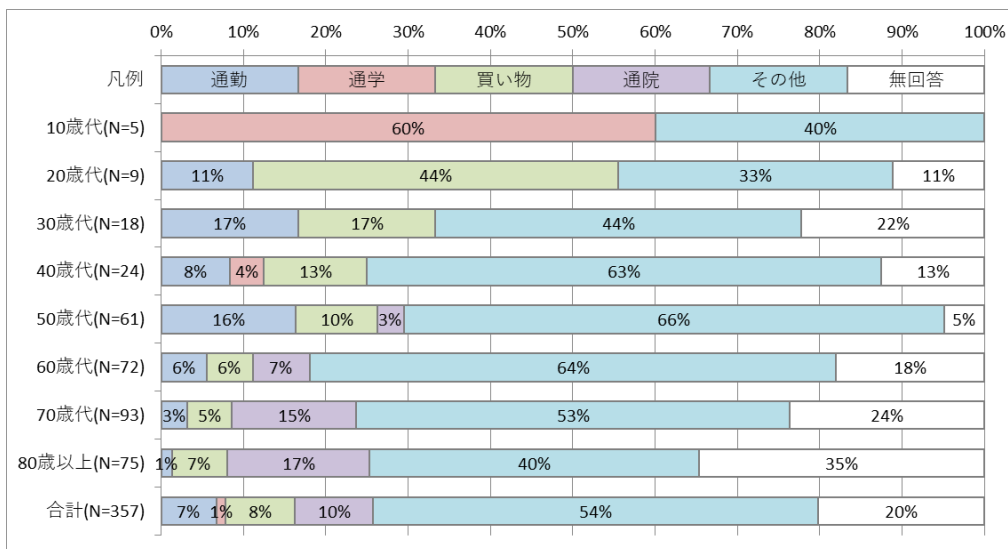


図 43 鉄道の利用目的（年代別）

③満足度

○地域により満足度の傾向が異なるが、多くの地域で「やや不満」、「不満」が「満足」、「やや満足」を上回っている。

○また、多くの地域、年代で「わからない」と回答した人が一定数いる。



図 44 鉄道の満足度（大字別）

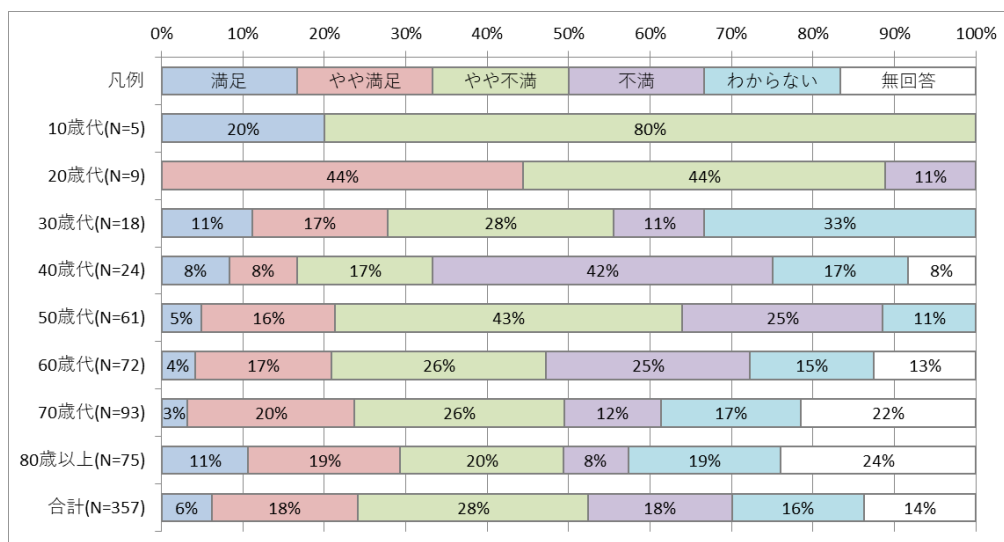


図 45 鉄道の満足度（年代別）

④今後利用するにあたり最も重視する点

○全体的に「運行に関すること」の割合が高い。

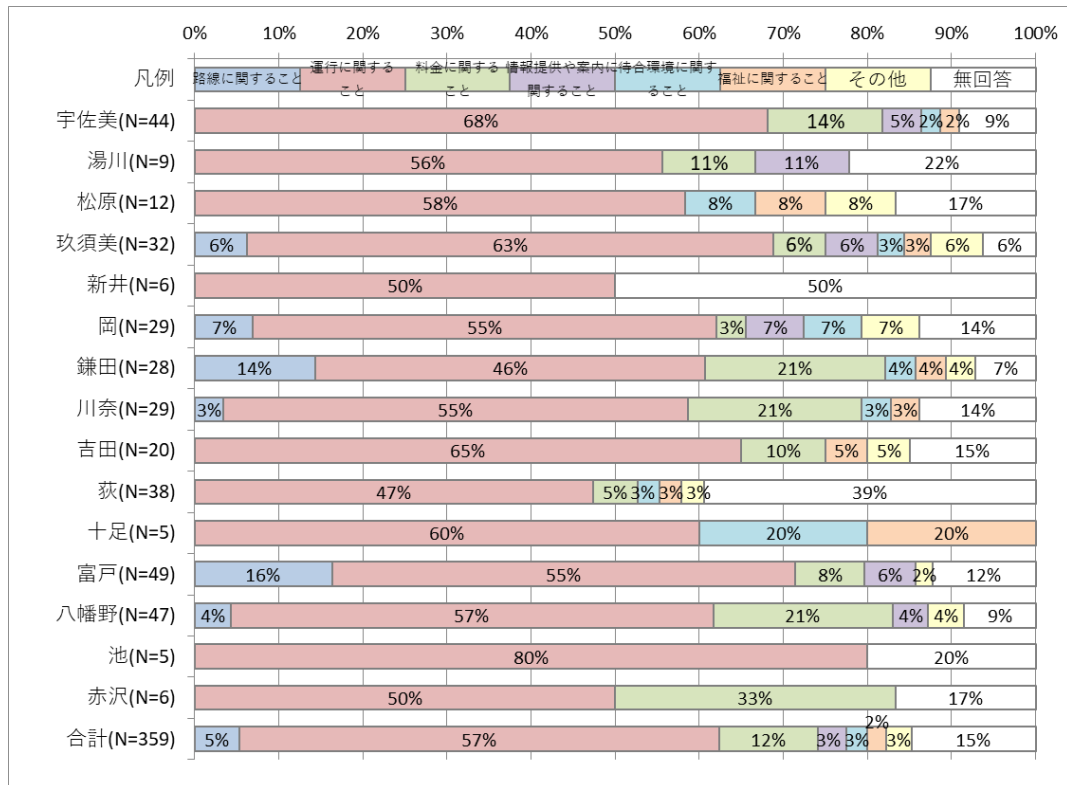


図 46 鉄道を利用する際に最も重視する点（大字別）

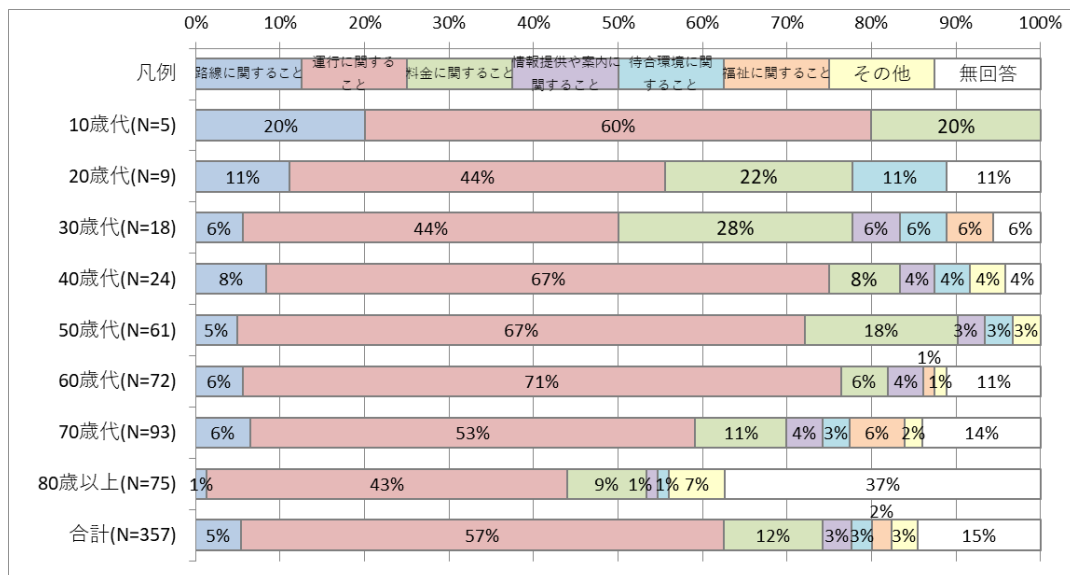


図 47 鉄道を利用する際に最も重視する点（年代別）

2) バス

①利用頻度

○全体的に「利用しない」、「年に数回」の割合が高い。

○年代が高齢になるほど、利用頻度が高い傾向にある。

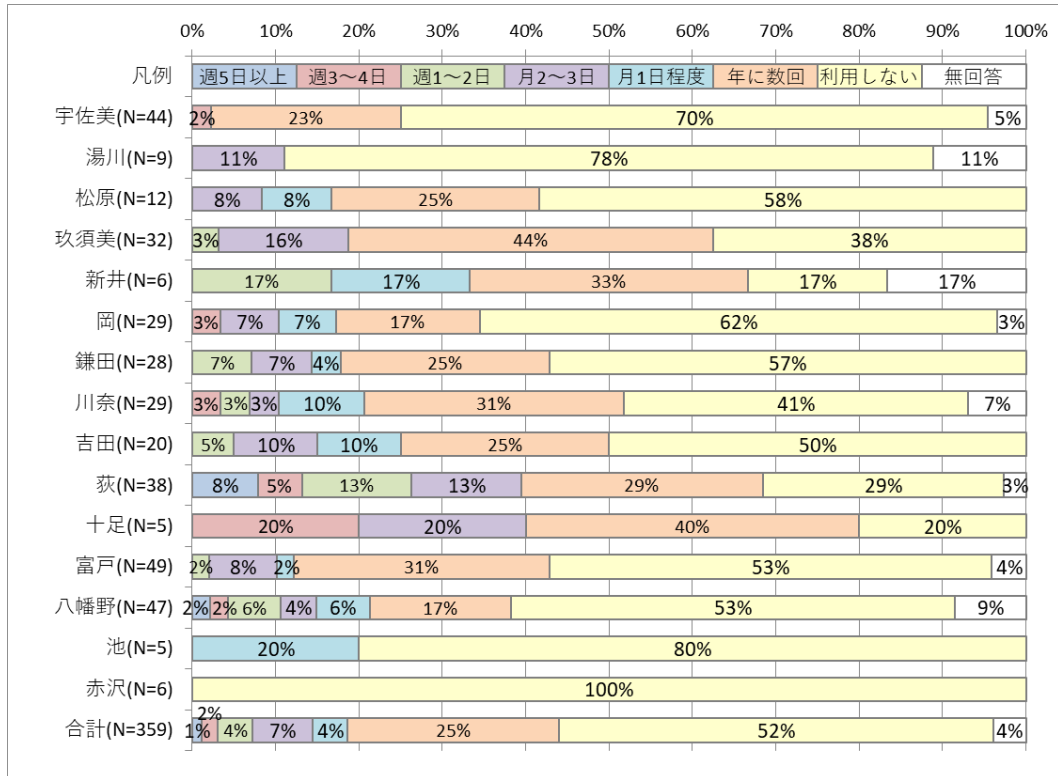


図 48 バスの利用頻度（大字別）

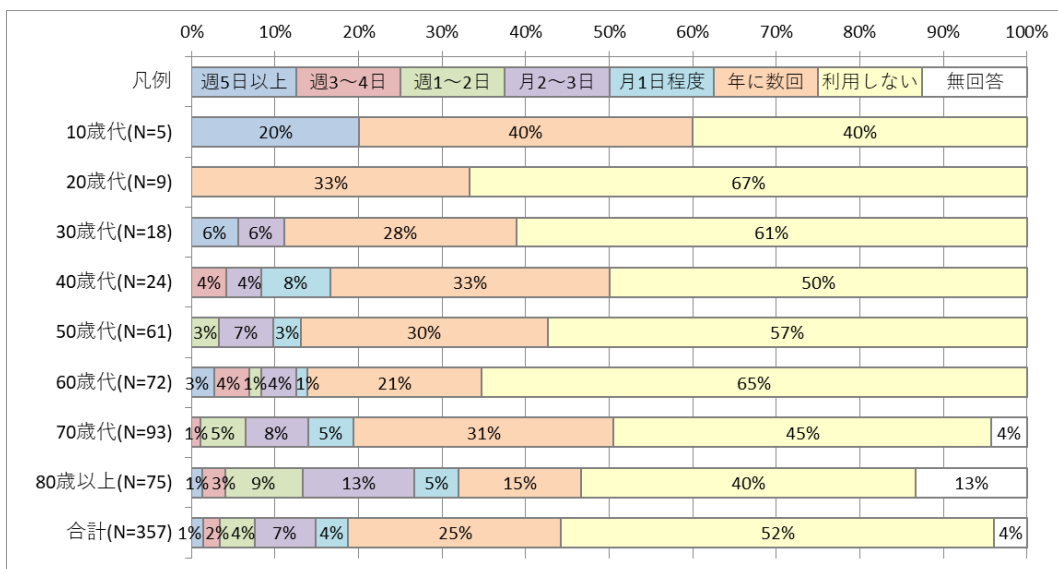


図 49 バスの利用頻度（年代別）

②利用目的

○全体的に「その他」の割合が高い。

○年代別では、70歳以上で「通院」の割合が比較的高くなっている。

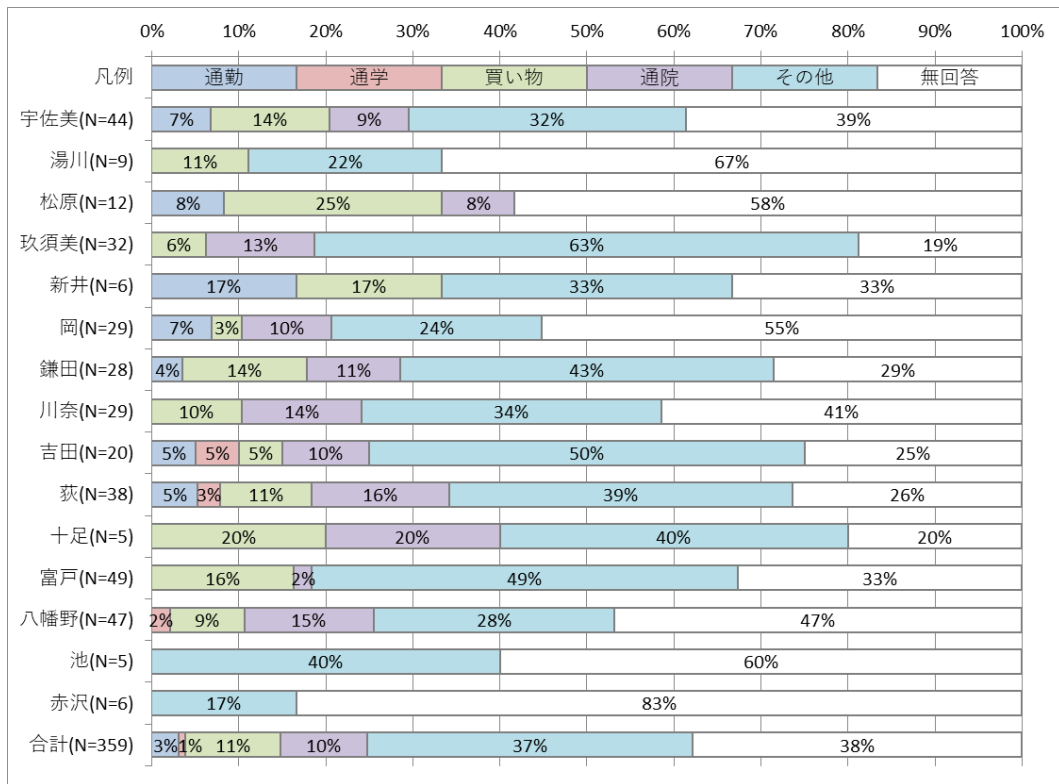


図 50 バスの利用目的（大字別）

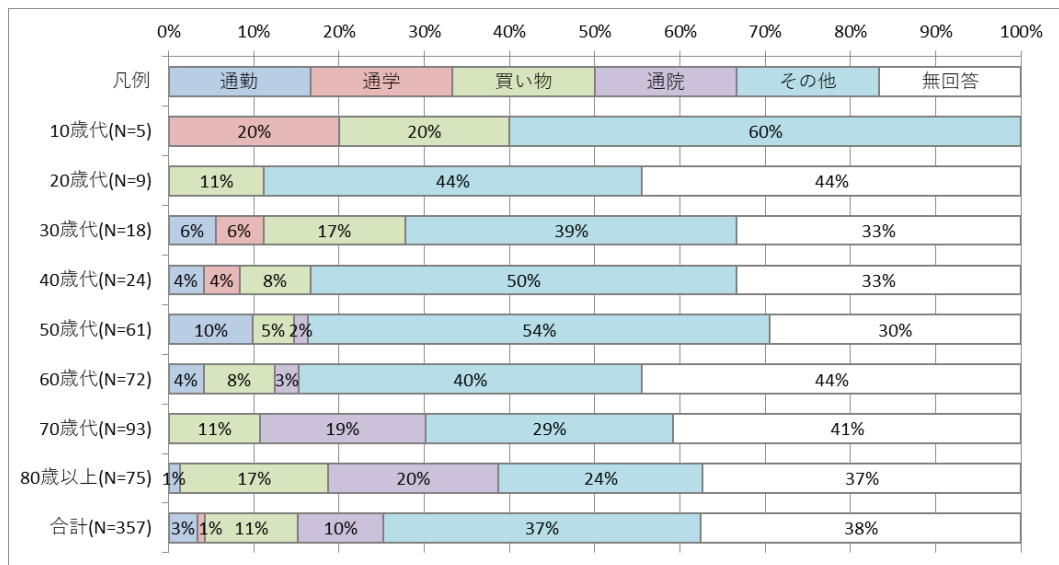


図 51 バスの利用目的（年代別）

③満足度

○地域別では、多くの地域で「やや不満」、「不満」が「満足」、「やや満足」を上回っている。

○年代別では、80歳以上などで「やや満足」の割合が高い。

○「わからない」の回答も目立つ。

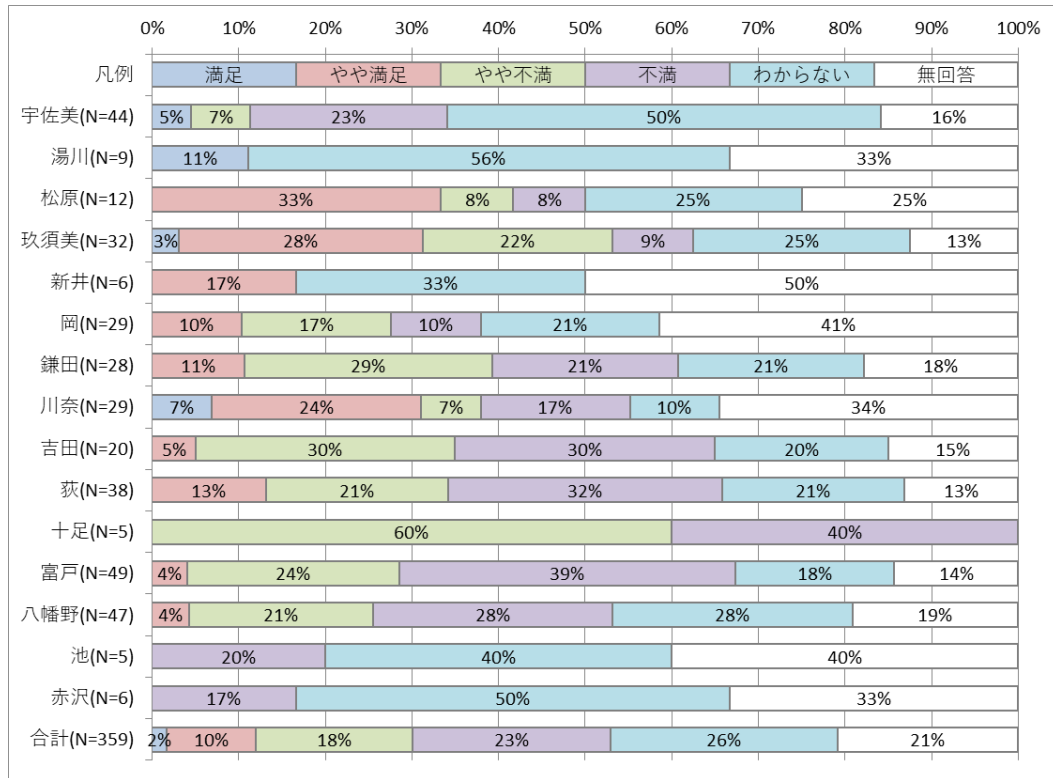


図 52 バスの満足度（大字別）

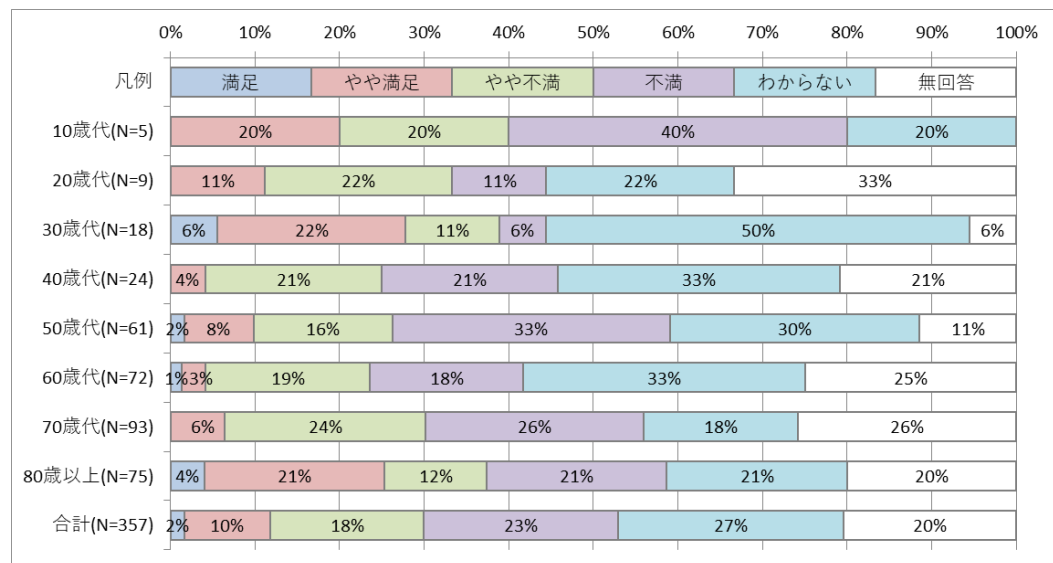


図 53 バスの満足度（年代別）

④ 今後利用するにあたり最も重視する点

○ 全体的に「運行に関すること」の割合が高い。

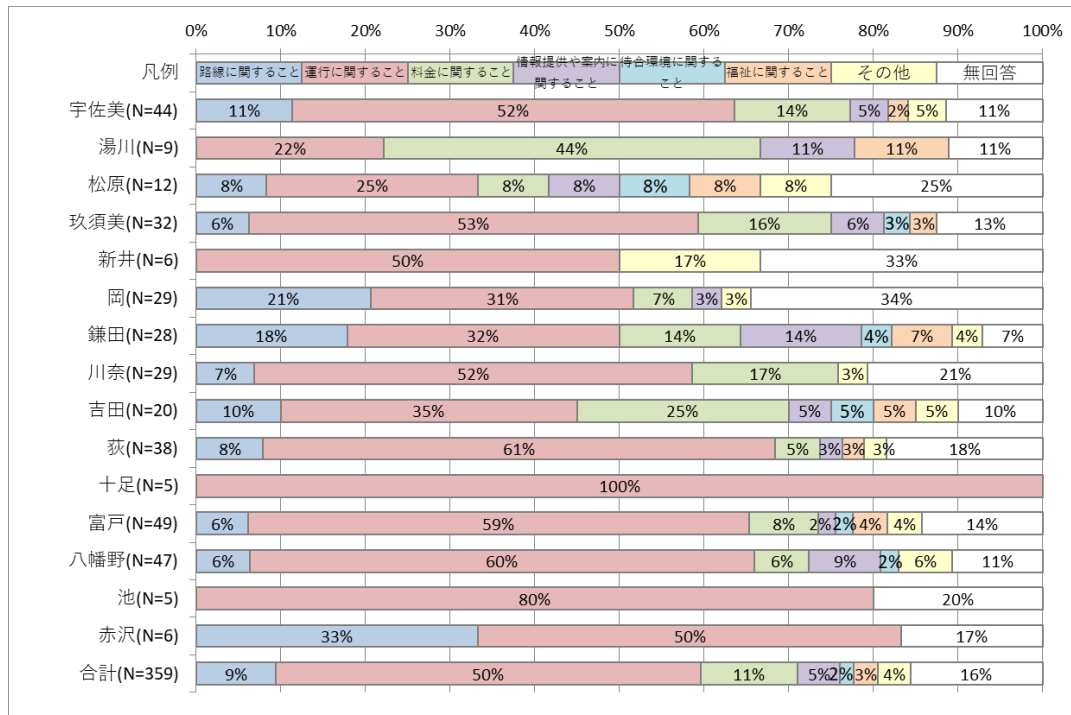


図 54 バスを利用する際に最も重視する点（大字別）

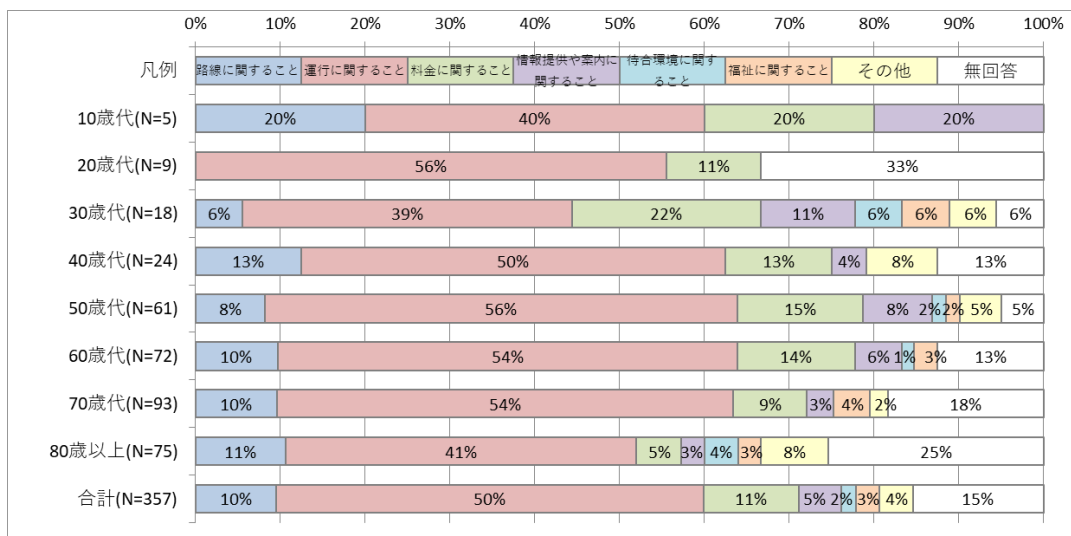


図 55 バスを利用する際に最も重視する点（年代別）

3) タクシー

①利用頻度

○全体的に「利用しない」、「年に数回」の割合が高い。

○年代が高齢になるほど利用頻度が高い傾向にある。

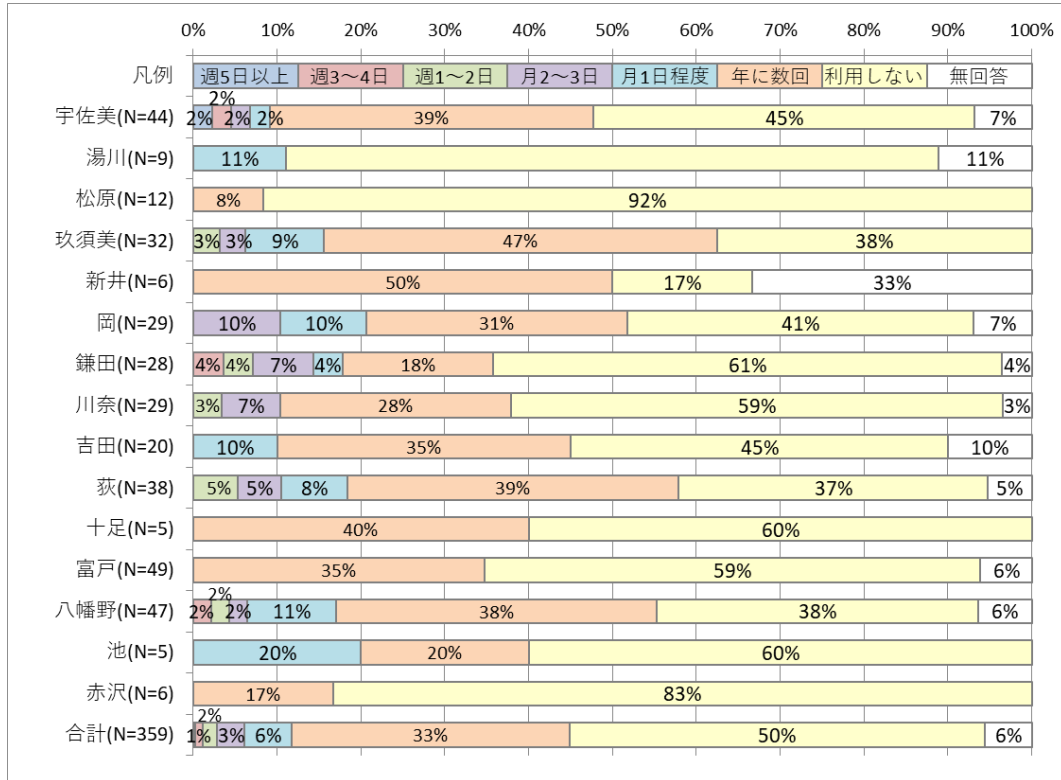


図 56 タクシーの利用頻度（大字別）

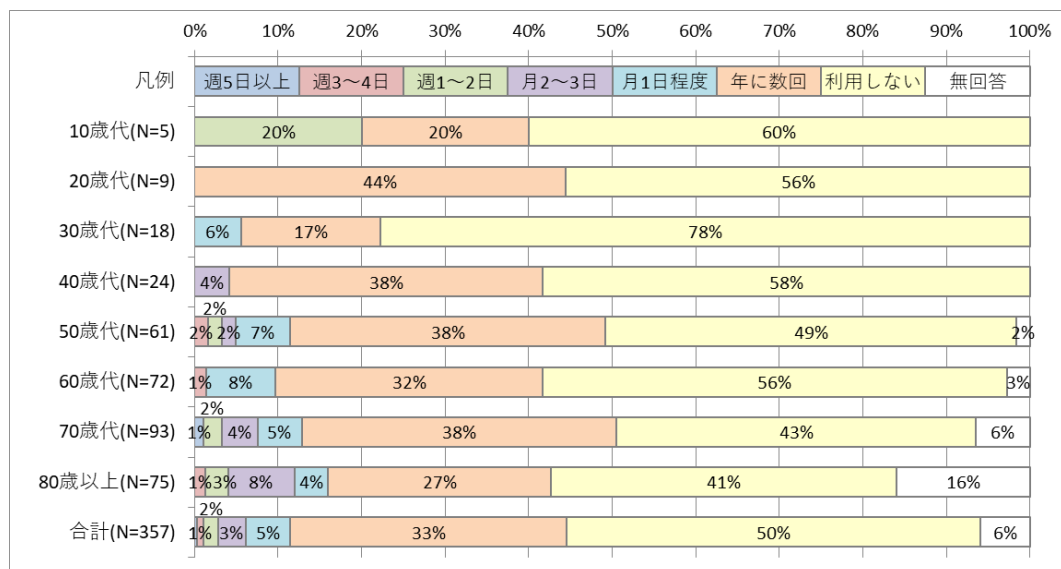


図 57 タクシーの利用頻度（年代別）

②利用目的

○全体的に「その他」の割合が高い。

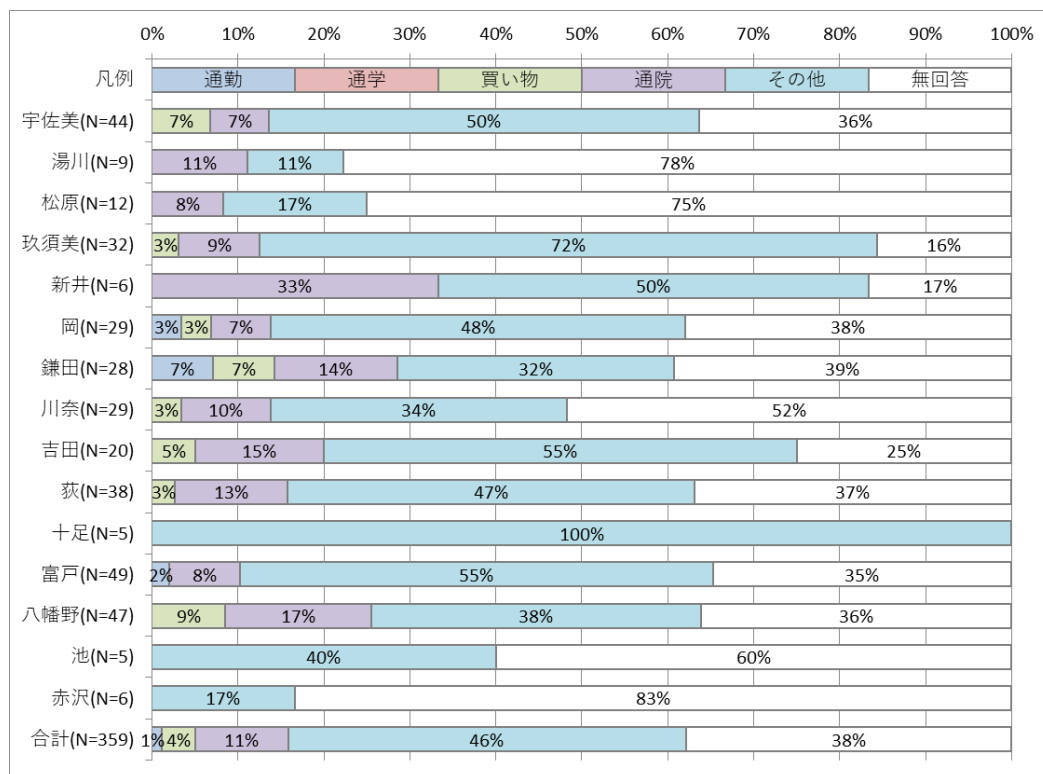


図 58 タクシーの利用目的（大字別）

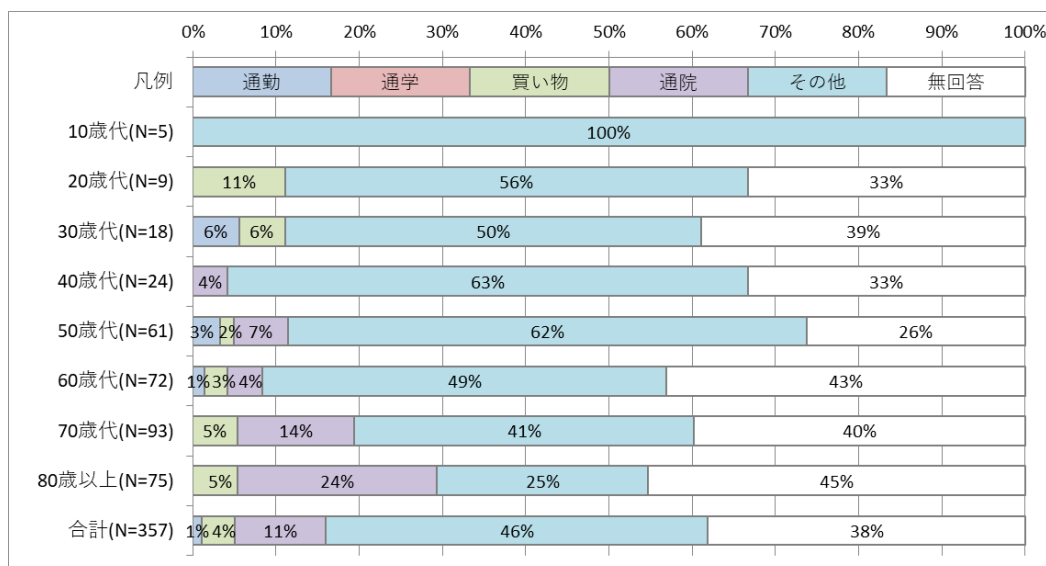


図 59 タクシーの利用目的（年代別）

③満足度

○年代別では、80 歳以上で「満足」、「やや満足」が「やや不満」、「不満」を上回っており、満足度が比較的高くなっている。

○多くの地域、年代で「わからない」の回答者が一定数いる。

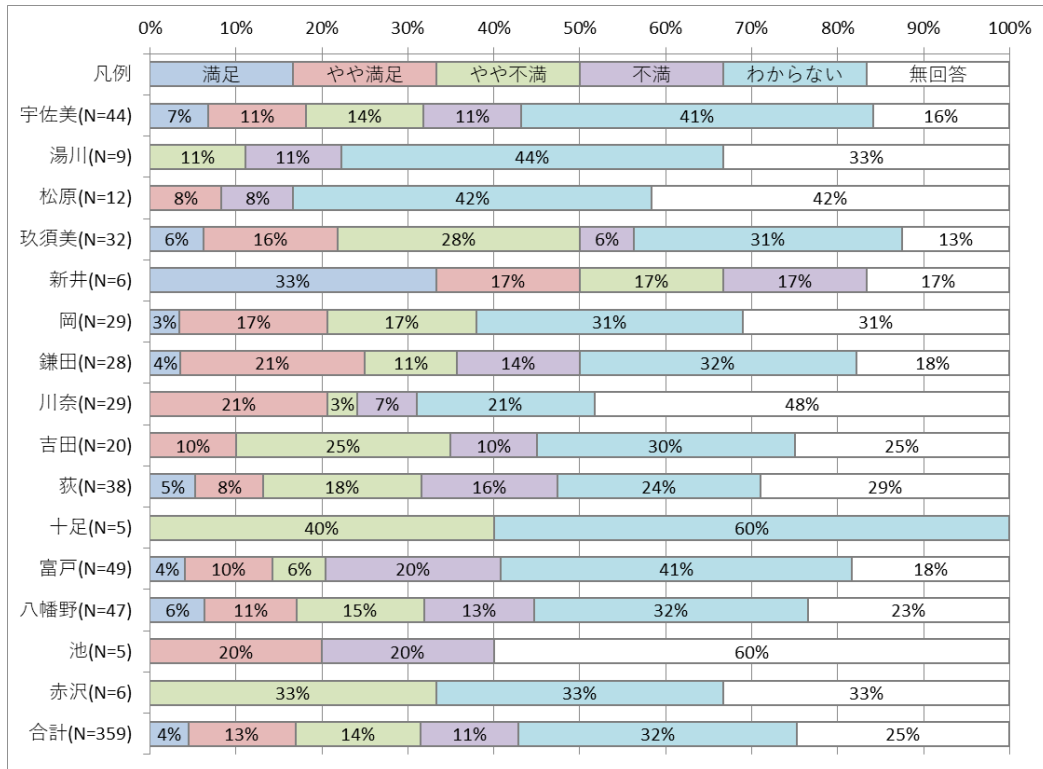


図 60 タクシーの満足度（大字別）

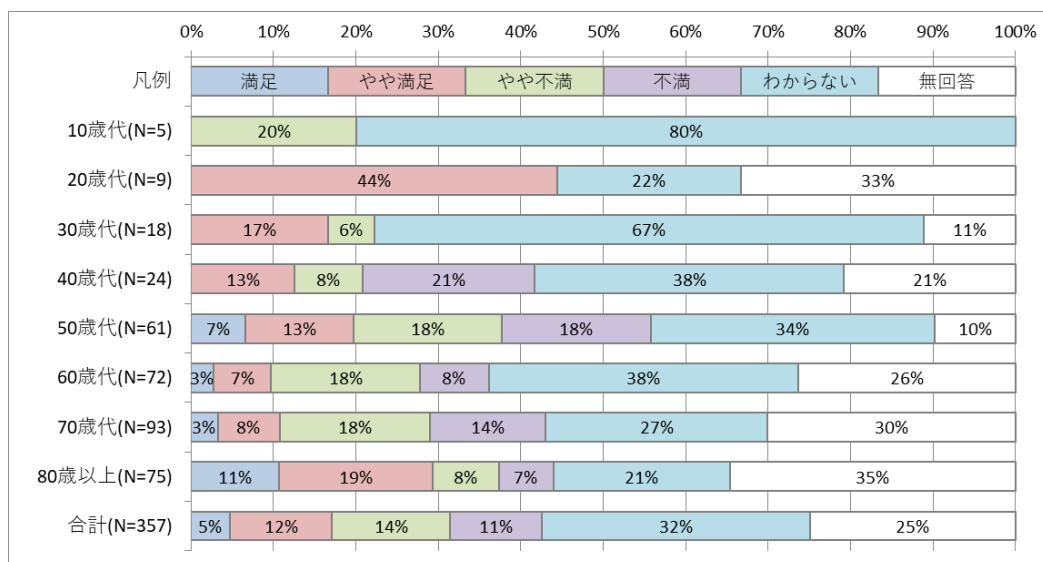


図 61 タクシーの満足度（年代別）

④今後利用するにあたり最も重視する点

○全体的に「料金に関すること」、「サービスに関すること」の割合が高い。地域別では、玖須美、川奈などで「サービスに関すること」の割合が比較的高い。

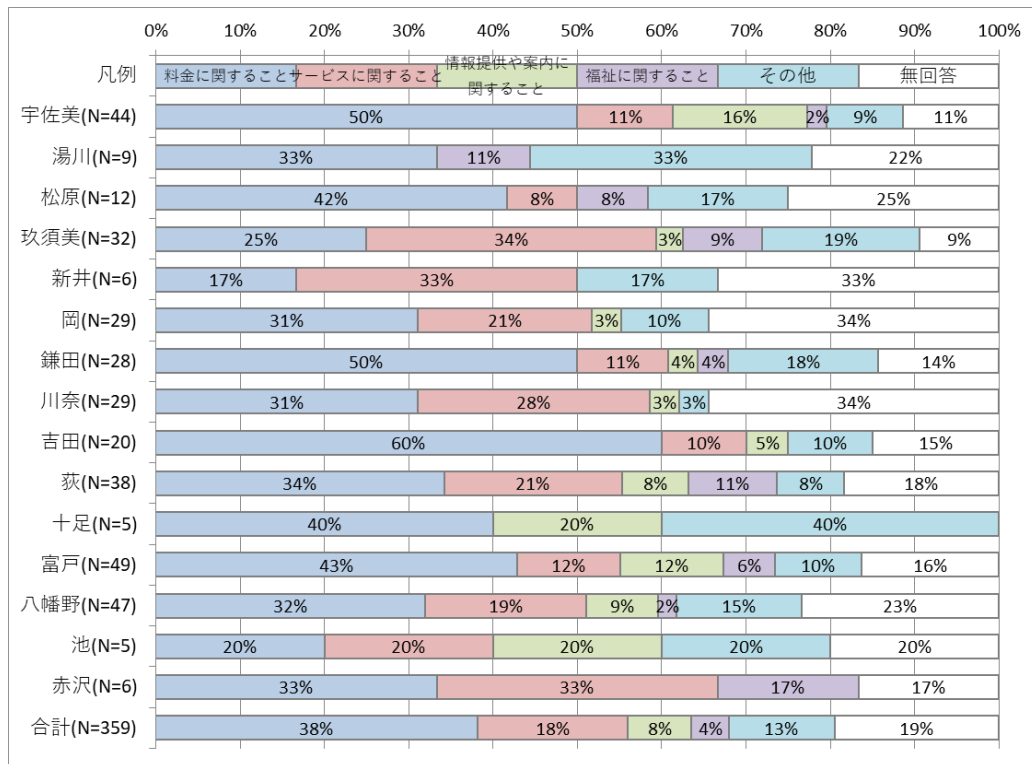


図 62 タクシーを利用する際に最も重視する点（大字別）

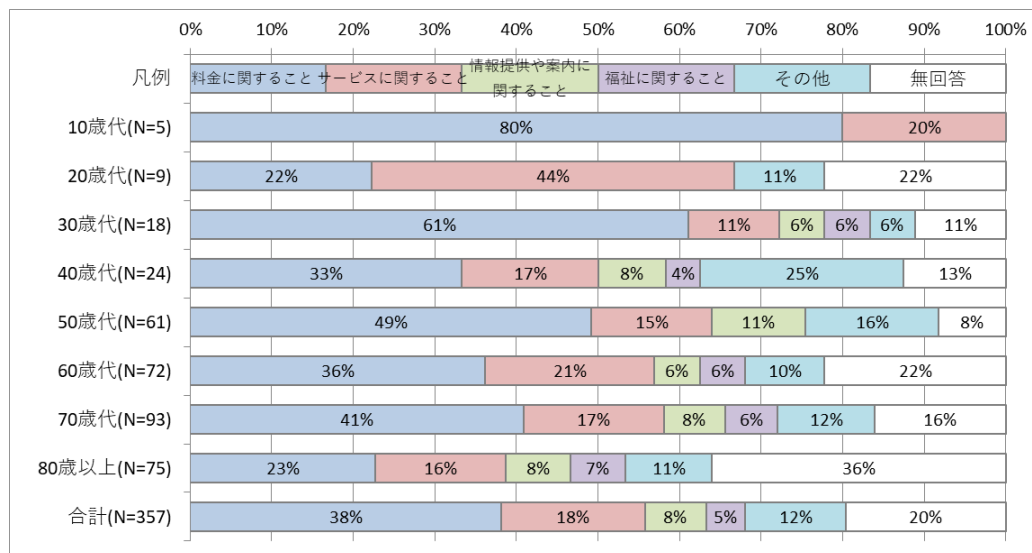


図 63 タクシーを利用する際に最も重視する点（年代別）

(4) 公共交通を利用した移動のしやすさ

1) 通勤・通学

○年代別では、40 歳以上で「やや使いづらい」、「使いづらい」が「使いやすい」、「やや使いやすい」を上回っており、公共交通が使いづらいと感じる人が多い傾向にある。

○全体的に「わからない・使わない」の割合も高い。年代別では、60 歳代、70 歳代で「わからない・使わない」が約半数となっている。

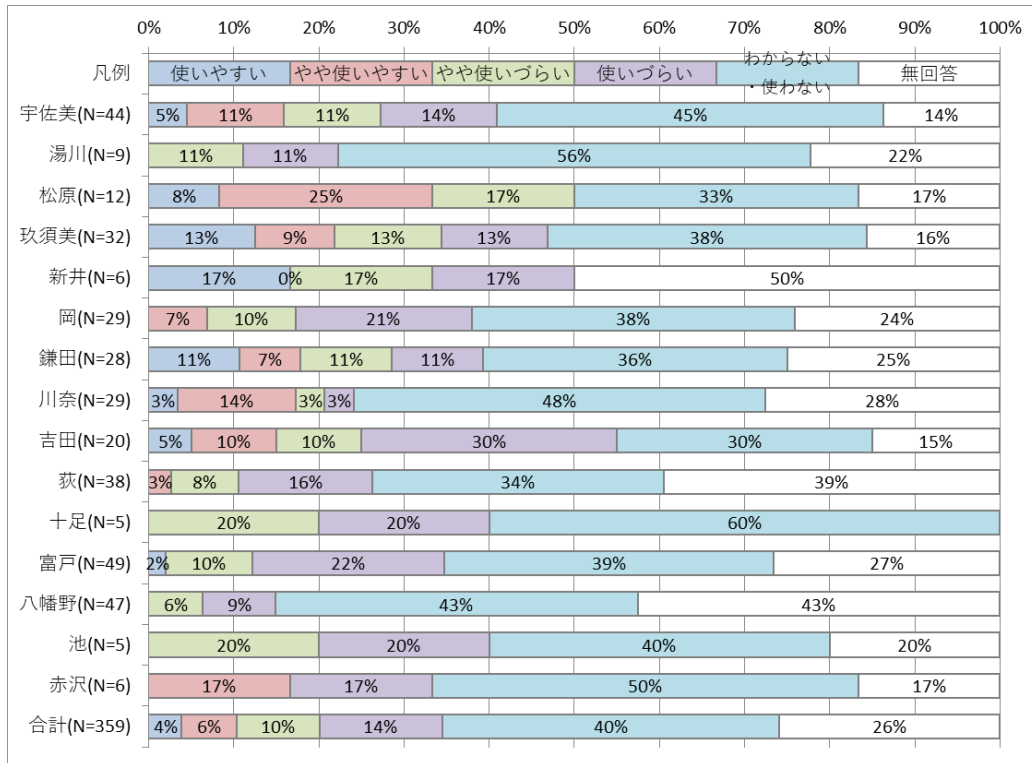


図 64 公共交通を利用した移動のしやすさ（通勤・通学）（大字別）

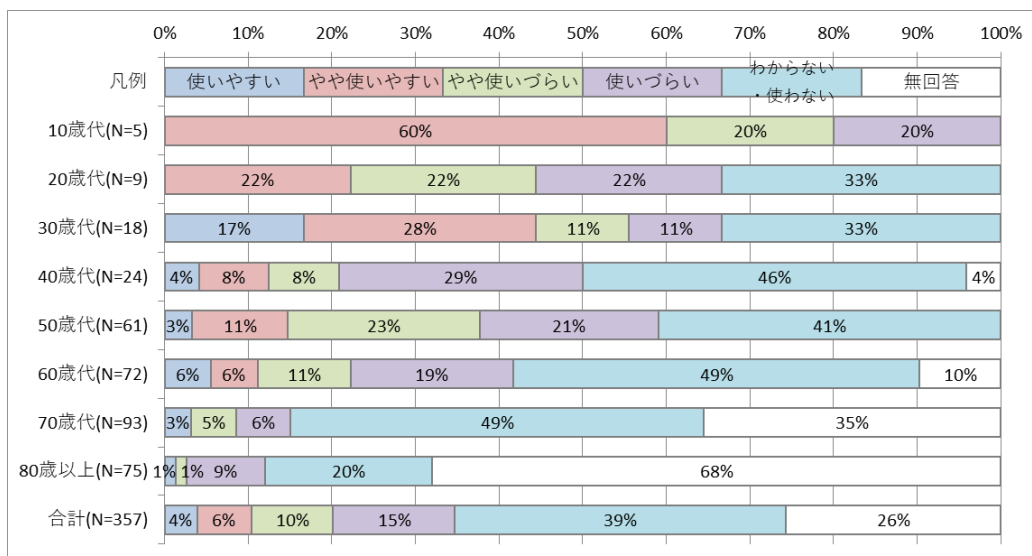


図 65 公共交通を利用した移動のしやすさ（通勤・通学）（年代別）

2) 買い物

○多くの地域で「やや使いづらい」、「使いづらい」の割合が高く、特に岡、萩などで「使いづらい」の割合が高い。

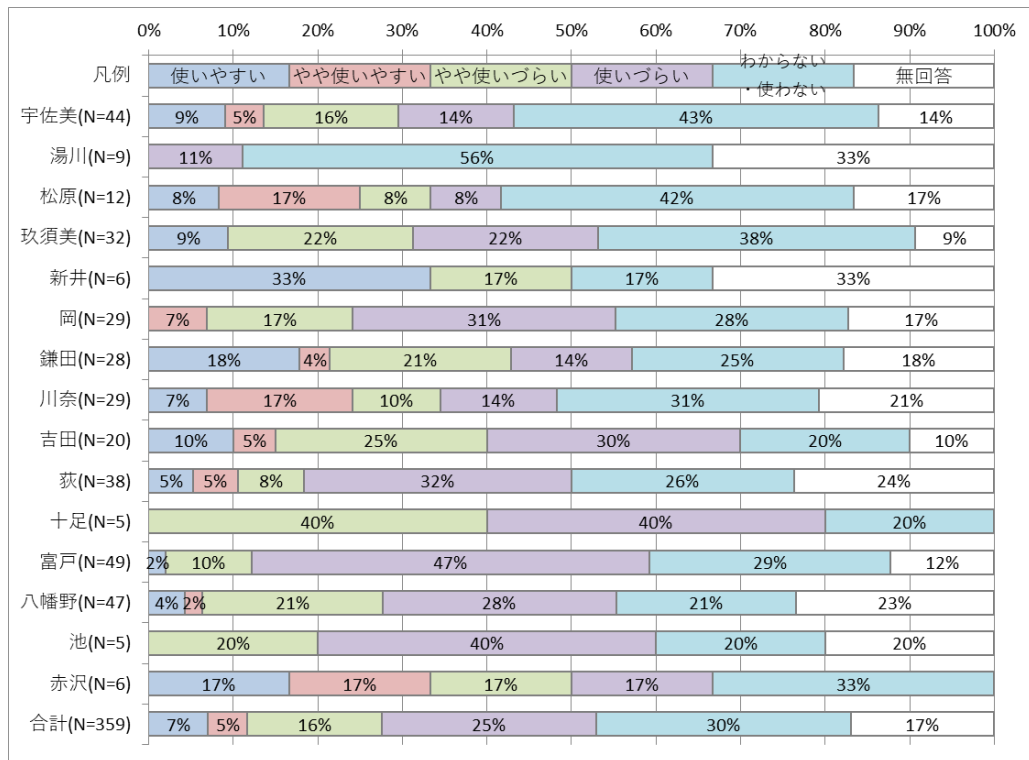


図 66 公共交通を利用した移動のしやすさ（買い物）（大字別）

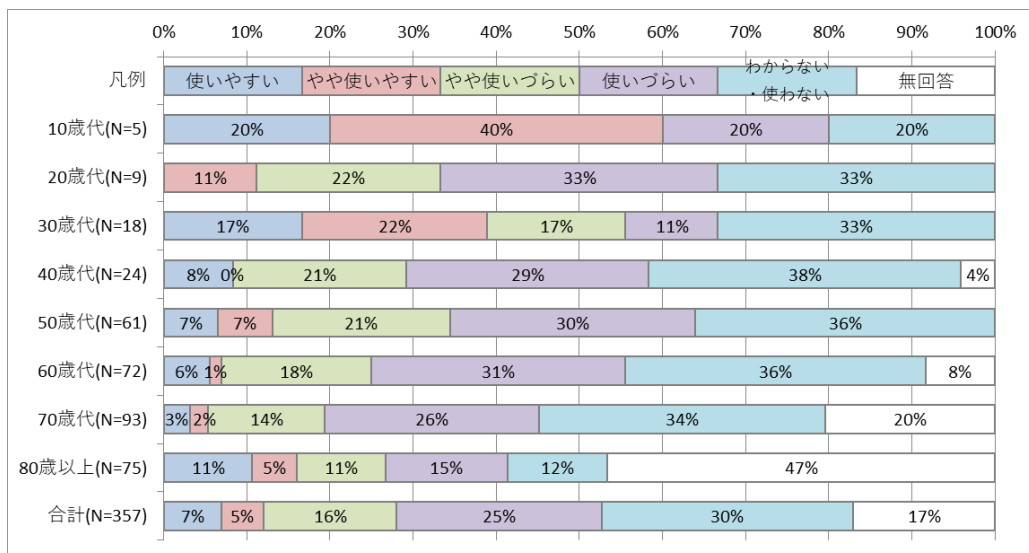


図 67 公共交通を利用した移動のしやすさ（買い物）（年代別）

3) 通院

○多くの地域、年代で「やや使いづらい」、「使いづらい」の割合が高い。

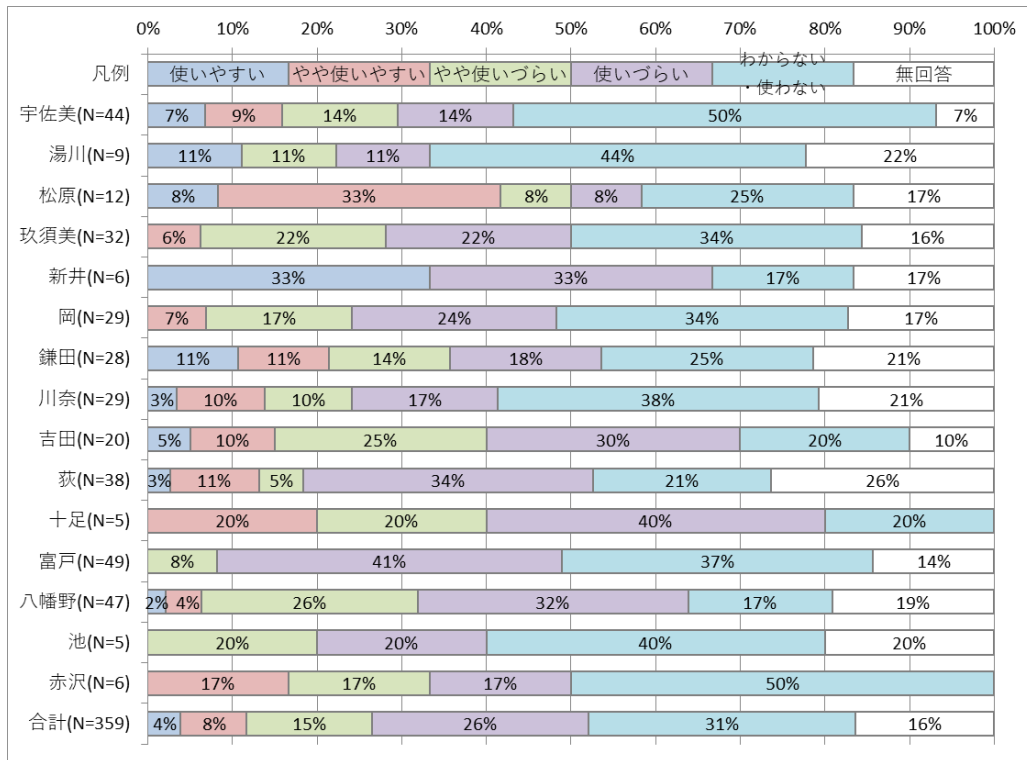


図 68 公共交通を利用した移動のしやすさ（通院）（大字別）

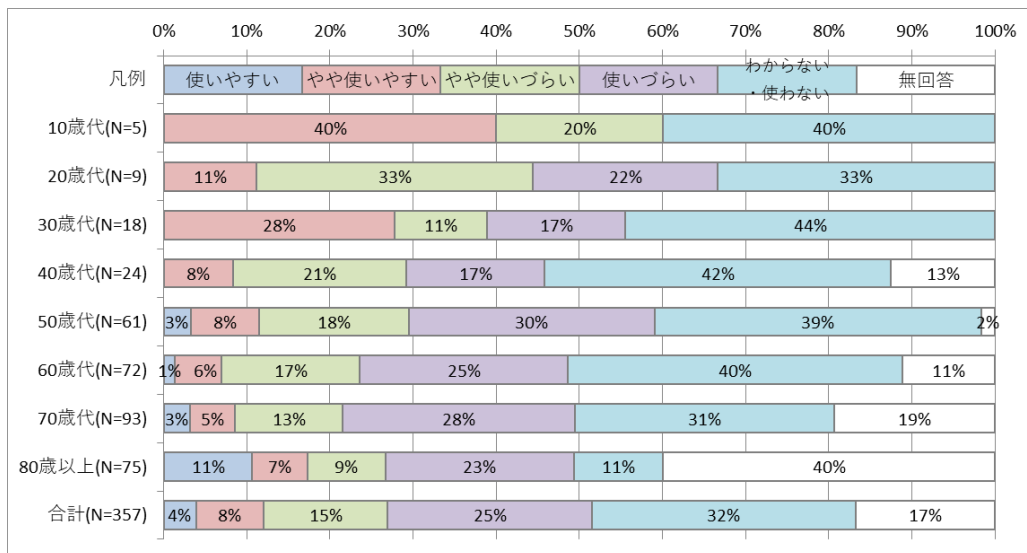


図 69 公共交通を利用した移動のしやすさ（通院）（年代別）

4) その他

○全体的に「やや使いづらい」、「使いづらい」の割合が高い。

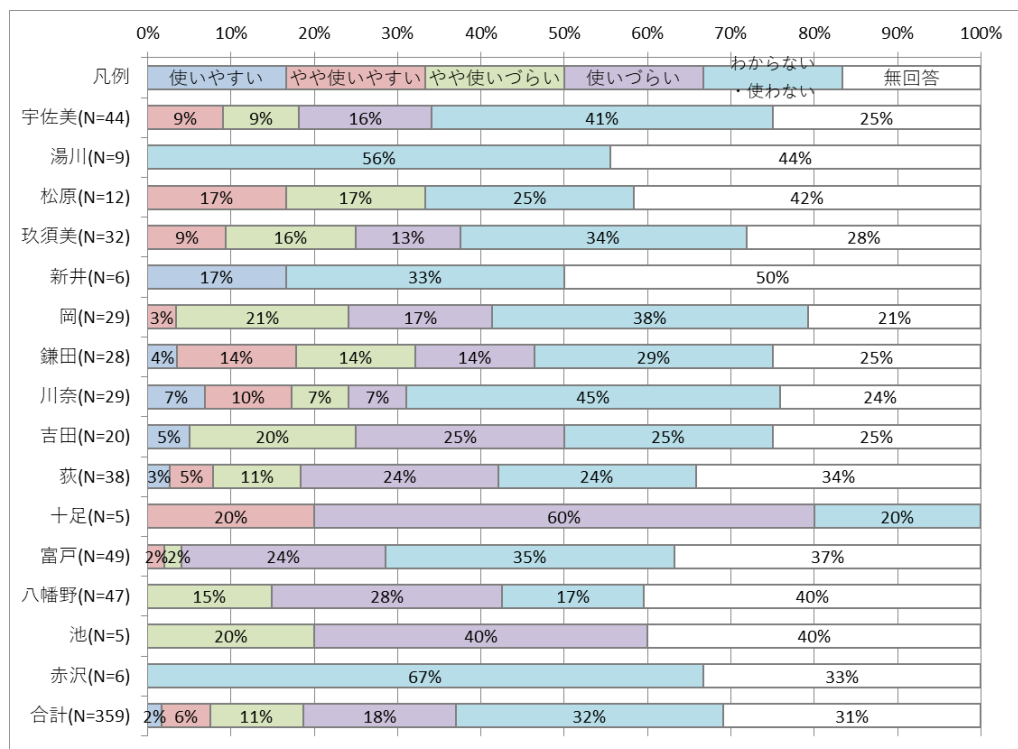


図 70 公共交通を利用した移動のしやすさ（その他）（大字別）

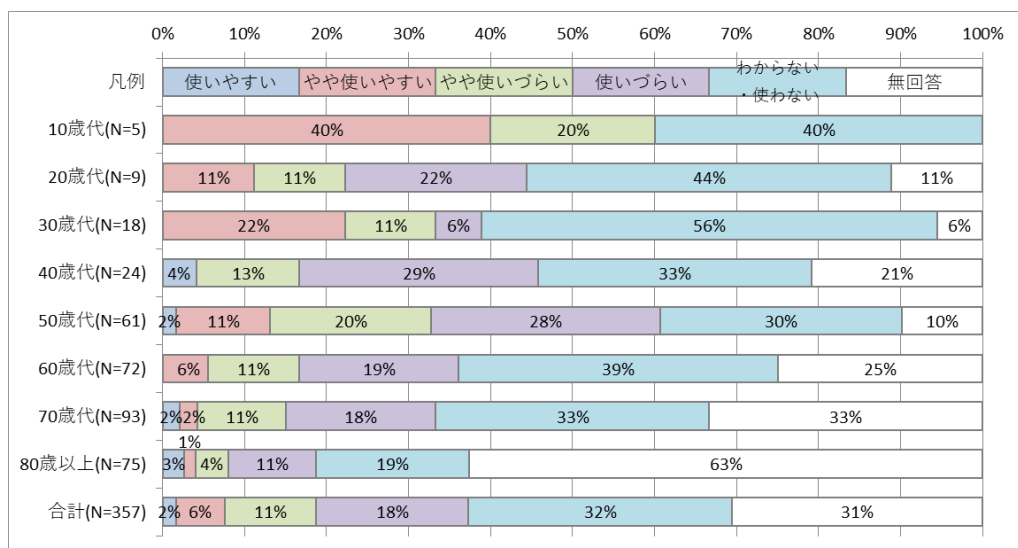


図 71 公共交通を利用した移動のしやすさ（その他）（年代別）

(5) 今後の公共交通についての展望、意見

1) 市内の公共交通は近い将来、どのように変化していくと思われるか

○全体的に選択肢3「近い将来、事業者の運営状況が悪化し、市内の公共交通は不便になると思う」の割合が高い。

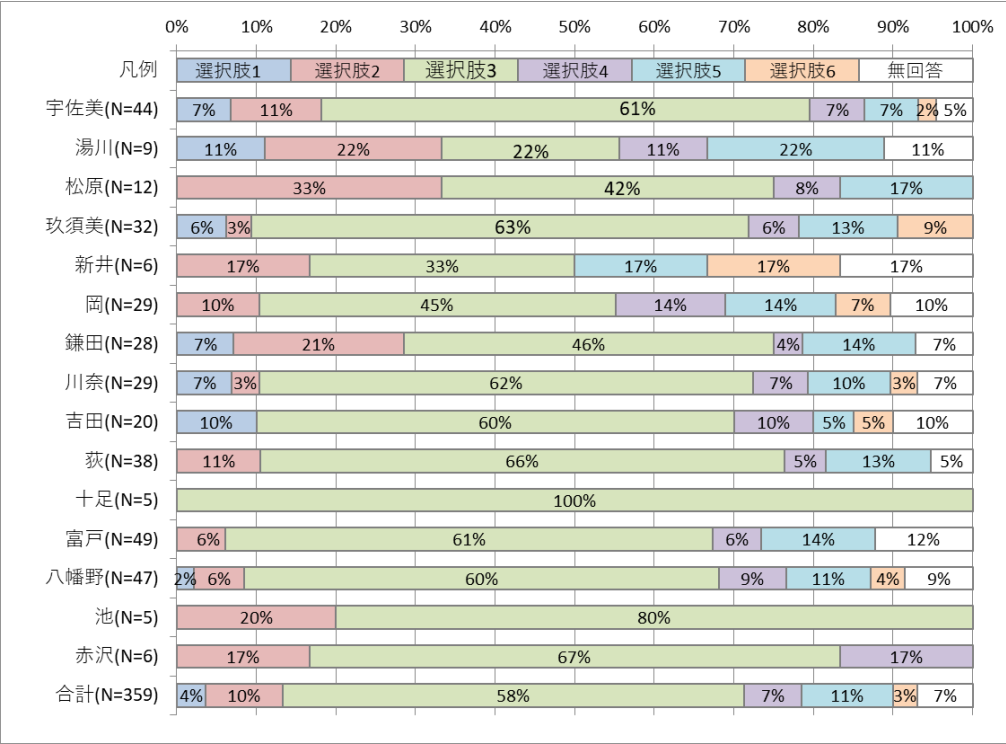


図 72 今後の公共交通の変化に関する展望（大字別）

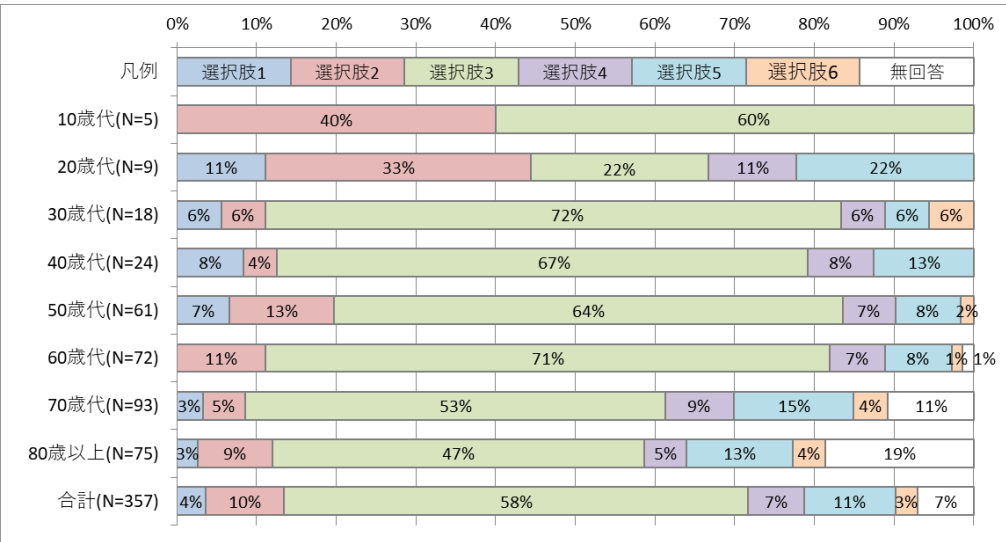


図 73 今後の公共交通の変化に関する展望（年代別）

選択肢 1： 今後は利用者が増加するため、事業者の運営状況は改善されると思う
選択肢 2： 現状から変化はなく、公共交通ネットワークは維持されると思う
選択肢 3： 近い将来、事業者の運営状況が悪化し、市内の公共交通は不便になると思う
選択肢 4： 近い将来、事業者の運営状況が悪化し、市内の公共交通はなくなると思う
選択肢 5： わからない 選択肢 6： その他

2) 今後の伊東市での公共交通の維持に向けた財政支援について

○選択肢1「財政支援を拡大し、公共交通の利便性を高めるべきである」が最も高く、次に選択肢2「財政支援は現状を維持し、現在の公共交通の状況を維持すべきである」の割合が高い。財政支援は維持または増加が回答者の意見である。

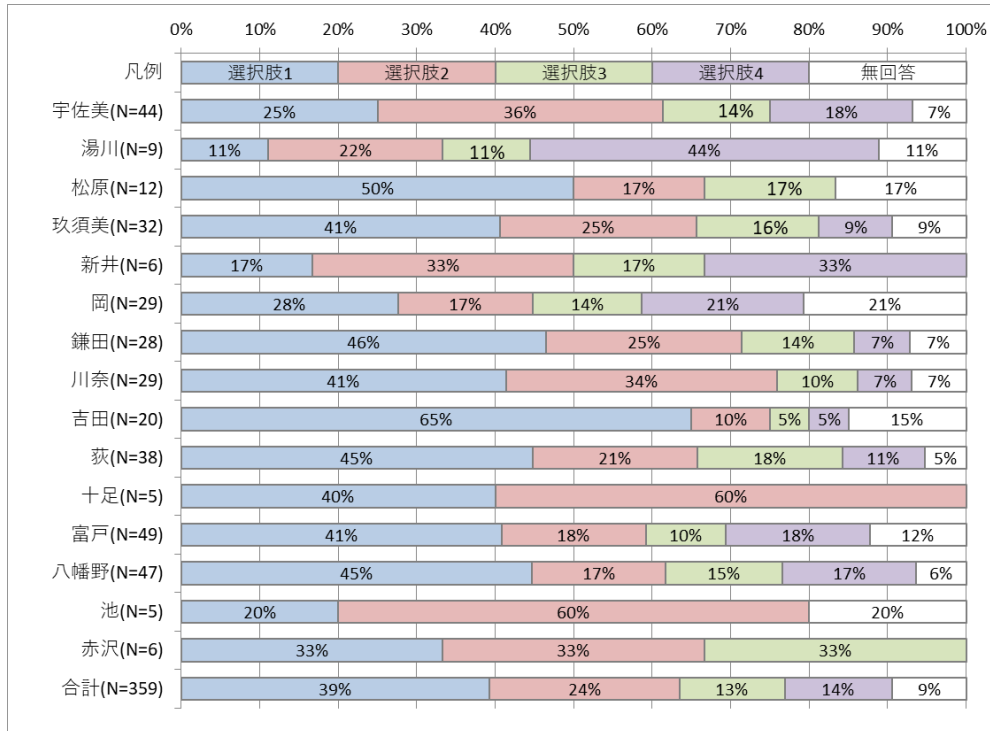


図 74 今後の公共交通のへの財政支援に関する意見（大字別）

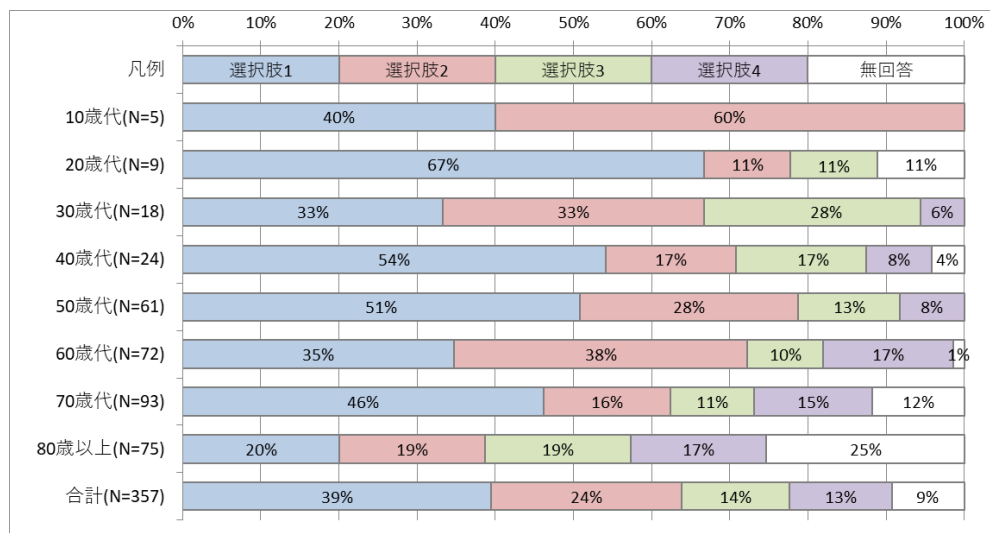


図 75 今後の公共交通のへの財政支援に関する意見（年代別）

選択肢1：財政支援を拡大し、公共交通の利便性を高めるべきである

選択肢2：財政支援は現状を維持し、現在の公共交通の状況を維持すべきである

選択肢3：財政支援を縮小し、赤字路線の見直しや、交通事業者の経営努力を促すべきである

選択肢4：わからない

3) 今後、伊東市で必要な交通施策について

※重要と思う取組みを3つまで回答

○「高齢者や免許返納者の移動を支援する取組みを充実する」の割合が最も高く、次いで「居住地に関係なく、市民に対して等しく移動を支援する取組みを行う」、「従来の鉄道、バス、タクシー以外の新たな交通手段を導入する」の順に割合が高い。

○年代別では、30歳代、40歳代などで「子どもや子育て世代が移動しやすい環境を用意する」の割合が高く、これらの年代では子育て世代を支える移動環境の充実を望む声が多い。

○40歳以上で「従来の鉄道、バス、タクシー以外の新たな交通手段を導入する」の割合が高く、今後を見据えた新たな交通手段の充実を望む声が多いことが読み取れる。

<回答者全体>

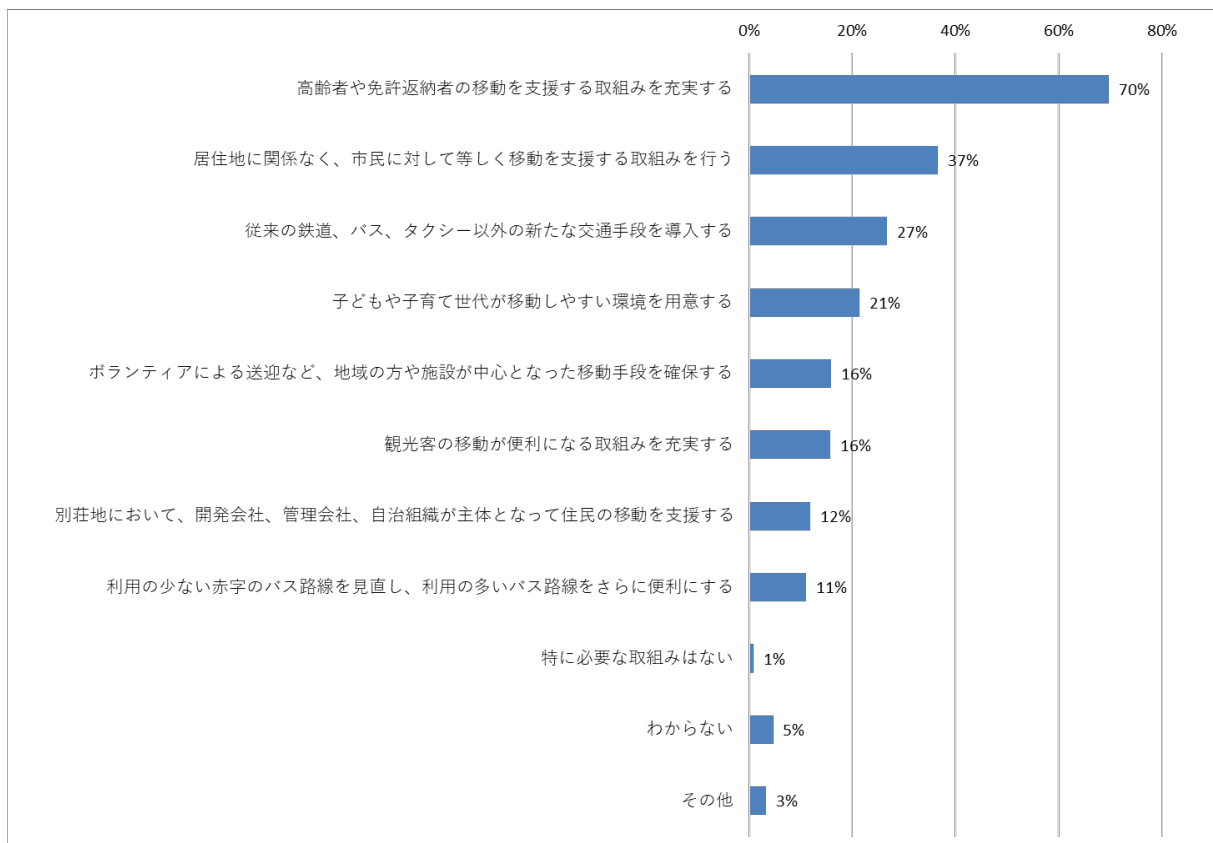


図 76 今後の伊東市で必要な交通施策（回答者全体）

2. 市民アンケート調査の結果

<地域別>

表 7 今後の伊東市で必要な交通施策（回答者数）

	宇佐美	湯川	松原	玖須美	新井	岡	鎌田	川奈	吉田	荻	十足	富戸	八幡野	池	赤沢
居住地に関係なく、市民に対して等しく移動を支援する取組を行う	13	2	2	12	3	13	12	11	7	16	3	18	15	0	2
子どもや子育て世代が移動しやすい環境を用意する	12	0	3	7	1	10	6	11	5	7	2	6	6	1	0
高齢者や免許返納者の移動を支援する取組を充実する	28	4	9	23	4	21	17	18	14	31	4	36	31	4	6
観光客の移動が便利になる取組を充実する	8	1	1	6	0	6	5	5	4	4	1	6	7	2	1
従来の鉄道、バス、タクシー以外の新たな交通手段を導入する	12	2	3	6	2	5	2	8	8	10	0	14	18	2	2
ボランティアによる送迎など、地域の方や施設が中心となった移動手段を確保する	9	0	2	2	0	6	6	2	4	5	1	6	9	4	1
別荘地においては、開発会社、管理会社、自治組織が主体となって住民の移動を支援する	6	0	1	1	0	1	5	2	1	2	1	11	8	1	3
利用の少ない赤字のバス路線を見直し、利用の多いバス路線をさらに便利にする	4	2	0	3	1	5	5	4	2	2	0	3	7	0	0

表 8 今後の伊東市で必要な交通施策（回答比率）

	宇佐美	湯川	松原	玖須美	新井	岡	鎌田	川奈	吉田	荻	十足	富戸	八幡野	池	赤沢
居住地に関係なく、市民に対して等しく移動を支援する取組を行う	30%	22%	17%	38%	50%	45%	43%	38%	35%	42%	60%	37%	32%	0%	33%
子どもや子育て世代が移動しやすい環境を用意する	27%	0%	25%	22%	17%	34%	21%	38%	25%	18%	40%	12%	13%	20%	0%
高齢者や免許返納者の移動を支援する取組を充実する	64%	44%	75%	72%	67%	72%	61%	62%	70%	82%	80%	73%	66%	80%	100%
観光客の移動が便利になる取組を充実する	18%	11%	8%	19%	0%	21%	18%	17%	20%	11%	20%	12%	15%	40%	17%
従来の鉄道、バス、タクシー以外の新たな交通手段を導入する	27%	22%	25%	19%	33%	17%	7%	28%	40%	26%	0%	29%	38%	40%	33%
ボランティアによる送迎など、地域の方や施設が中心となった移動手段を確保する	20%	0%	17%	6%	0%	21%	21%	7%	20%	13%	20%	12%	19%	80%	17%
別荘地においては、開発会社、管理会社、自治組織が主体となって住民の移動を支援する	14%	0%	8%	3%	0%	3%	18%	7%	5%	5%	20%	22%	17%	20%	50%
利用の少ない赤字のバス路線を見直し、利用の多いバス路線をさらに便利にする	9%	22%	0%	9%	17%	17%	18%	14%	10%	5%	0%	6%	15%	0%	0%

<年代別>

表 9 今後の伊東市で必要な交通施策（回答者数）

(人)

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
居住地に関係なく、市民に対して等しく移動を支援する取組を行う	2	5	7	12	27	23	34	20
子どもや子育て世代が移動しやすい環境を用意する	3	3	13	11	14	11	13	10
高齢者や免許返納者の移動を支援する取組みを充実する	3	5	15	18	40	59	66	41
観光客の移動が便利になる取組みを充実する	0	4	5	5	16	10	10	7
従来の鉄道、バス、タクシー以外の新たな交通手段を導入する	1	0	3	4	23	21	26	16
ボランティアによる送迎など、地域の方や施設が中心となった移動手段を確保する	1	0	3	1	10	10	17	14
別荘地においては、開発会社、管理会社、自治組織が主体となって住民の移動を支援する	1	0	0	1	10	9	16	5
利用の少ない赤字のバス路線を見直し、利用の多いバス路線をさらに便利にする	0	1	3	3	7	7	8	9

表 10 今後の伊東市で必要な交通施策（回答比率）

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
居住地に関係なく、市民に対して等しく移動を支援する取組を行う	40%	56%	39%	50%	44%	32%	37%	27%
子どもや子育て世代が移動しやすい環境を用意する	60%	33%	72%	46%	23%	15%	14%	13%
高齢者や免許返納者の移動を支援する取組みを充実する	60%	56%	83%	75%	66%	82%	71%	55%
観光客の移動が便利になる取組みを充実する	0%	44%	28%	21%	26%	14%	11%	9%
従来の鉄道、バス、タクシー以外の新たな交通手段を導入する	20%	0%	17%	17%	38%	29%	28%	21%
ボランティアによる送迎など、地域の方や施設が中心となった移動手段を確保する	20%	0%	17%	4%	16%	14%	18%	19%
別荘地においては、開発会社、管理会社、自治組織が主体となって住民の移動を支援する	20%	0%	0%	4%	16%	13%	17%	7%
利用の少ない赤字のバス路線を見直し、利用の多いバス路線をさらに便利にする	0%	11%	17%	13%	11%	10%	9%	12%

2-4 公共交通利用有無別の集計

(1) 鉄道、バス、タクシーの満足度

○鉄道、バス、タクシーの満足度について、利用者（年数回以上利用する方）、非利用者別の結果を示す。

○いずれの手段においても、年数回以上利用される方でも「満足」「やや満足」の比率は「やや不満」「不満」の比率を下回っており、特にバスについては低くなっている。

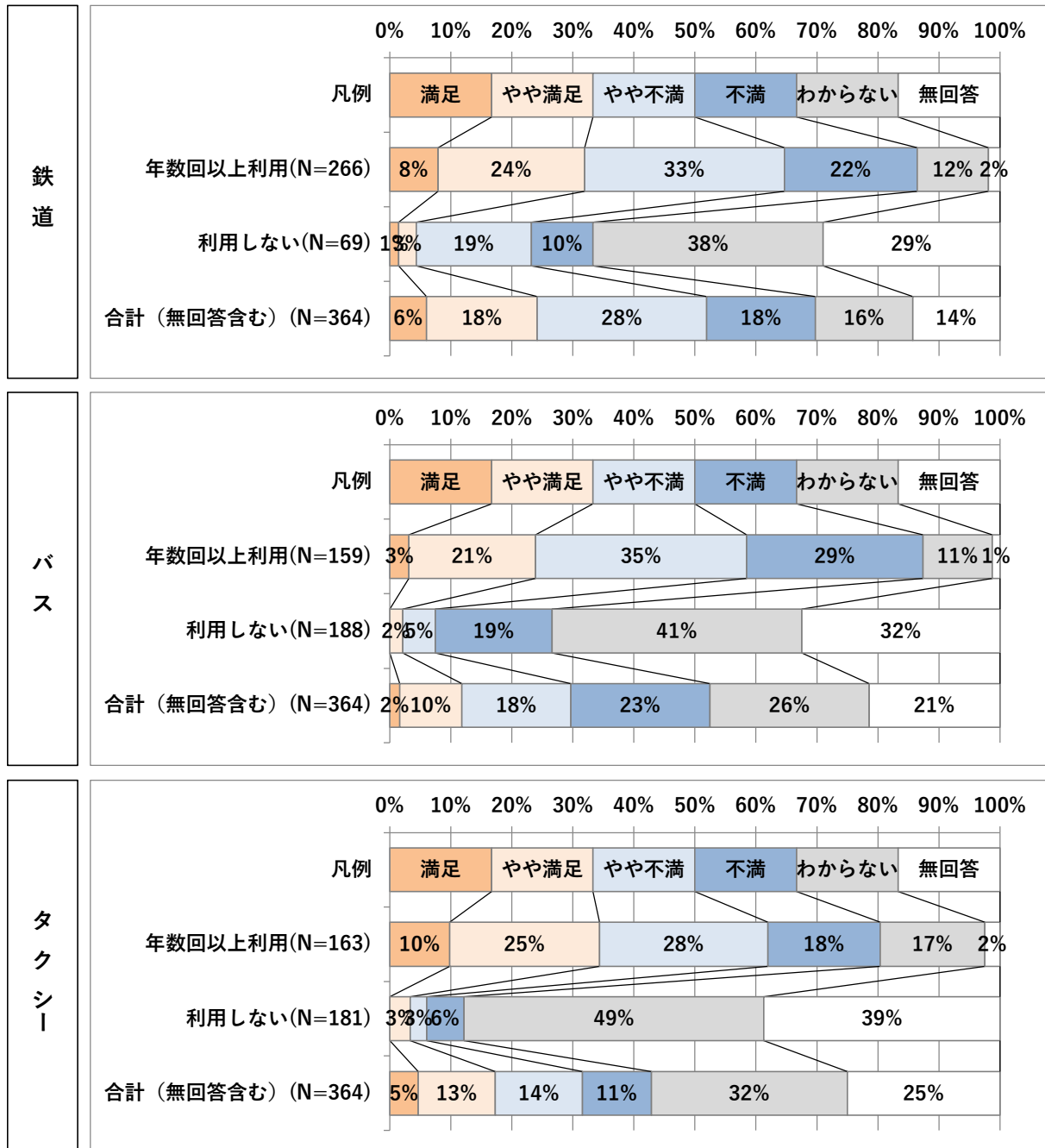


図 77 鉄道、バス、タクシーの満足度（利用有無別）

※各交通手段の利用頻度で年数回以上利用と回答した方を対象

(2) 公共交通を今後利用の際に最も重視する点

○鉄道、バス、タクシーを今後利用する際に最も重視する点について、利用者（年数回以上利用する方）、非利用者別の結果を示す。

○鉄道、バスともに「運行に関すること」が最も多く、利用される方ほどその比率が高い。

○タクシーについては利用者、非利用者ともに「料金に関すること」が最も多いが、「サービスに関すること」や「その他」も多くなっている。特にその他の意見では、予約が取れない、タクシーが来ない、営業時間の意見など、昨今の運転手不足の影響が伺える。

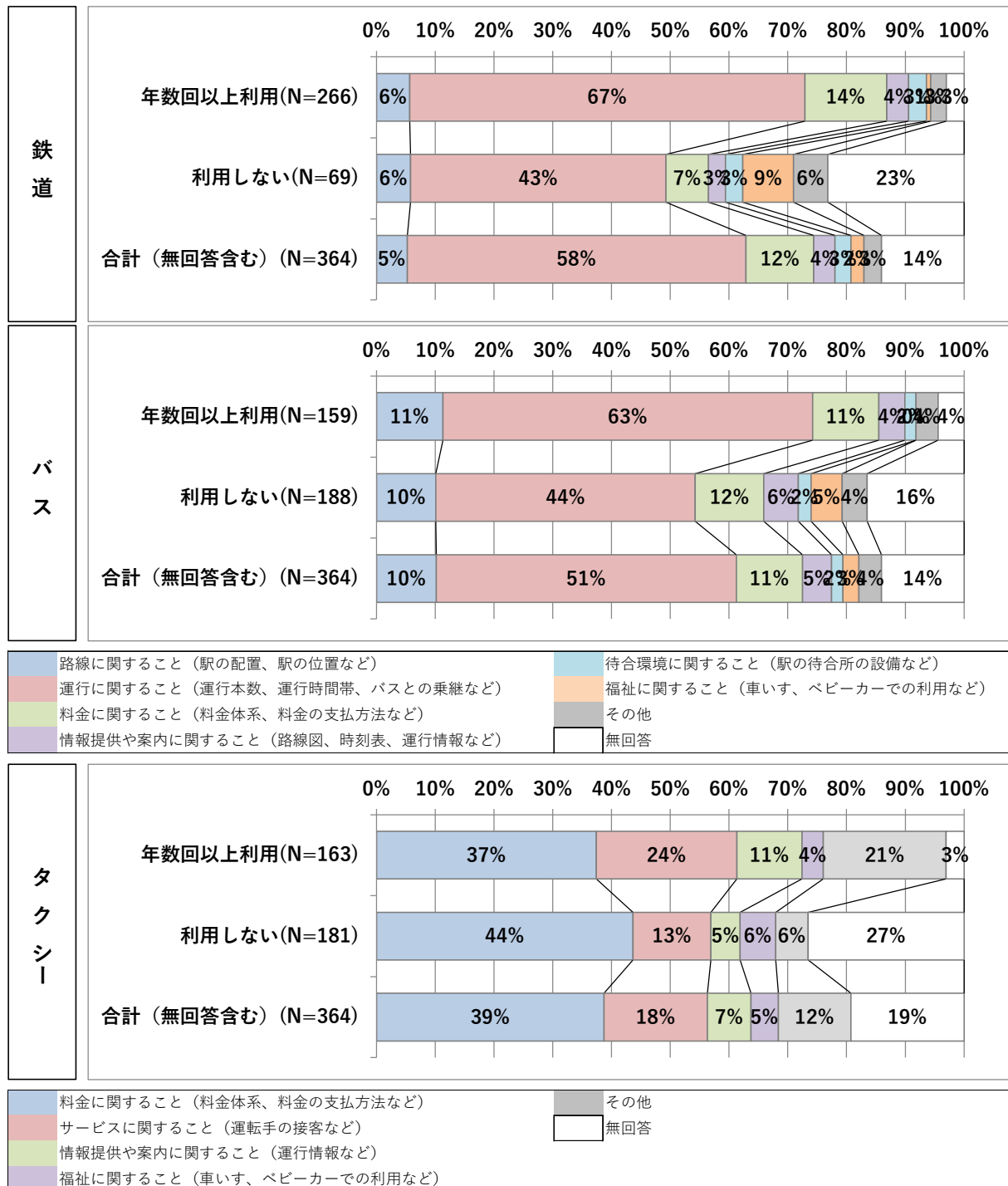


図 78 鉄道、バス、タクシーを今後利用する際に最も重視する点（利用有無別）

※各交通手段の利用頻度で年数回以上利用と回答した方を対象

(3) 公共交通を利用した移動のしやすさ

○公共交通を利用した移動のしやすさについて、公共交通利用者と非利用者とで目的別に比較したものを以下に示す。

○公共交通利用者と非利用者を比較すると、いずれも目的も公共交通利用者の方が「使いやすい」「やや使いやすい」とする比率が高い。ただし、いずれも目的も「使いやすい」「やや使いやすい」とする比率は50%以下となる。

○買い物については、公共交通利用者と非利用者の差が他の目的と比較して小さくなっている。これは、通勤や通学は朝夕の鉄道、バスの運行が充実しており、通院やその他については、順天堂大学病院や伊東市民病院への路線が運行する、各路線が鉄道駅に向かい、駅周辺の医療施設へアクセス可能である一方、買い物施設は駅から距離のある立地の施設もあり、鉄道やバスで行くことが困難であるためと伺える。

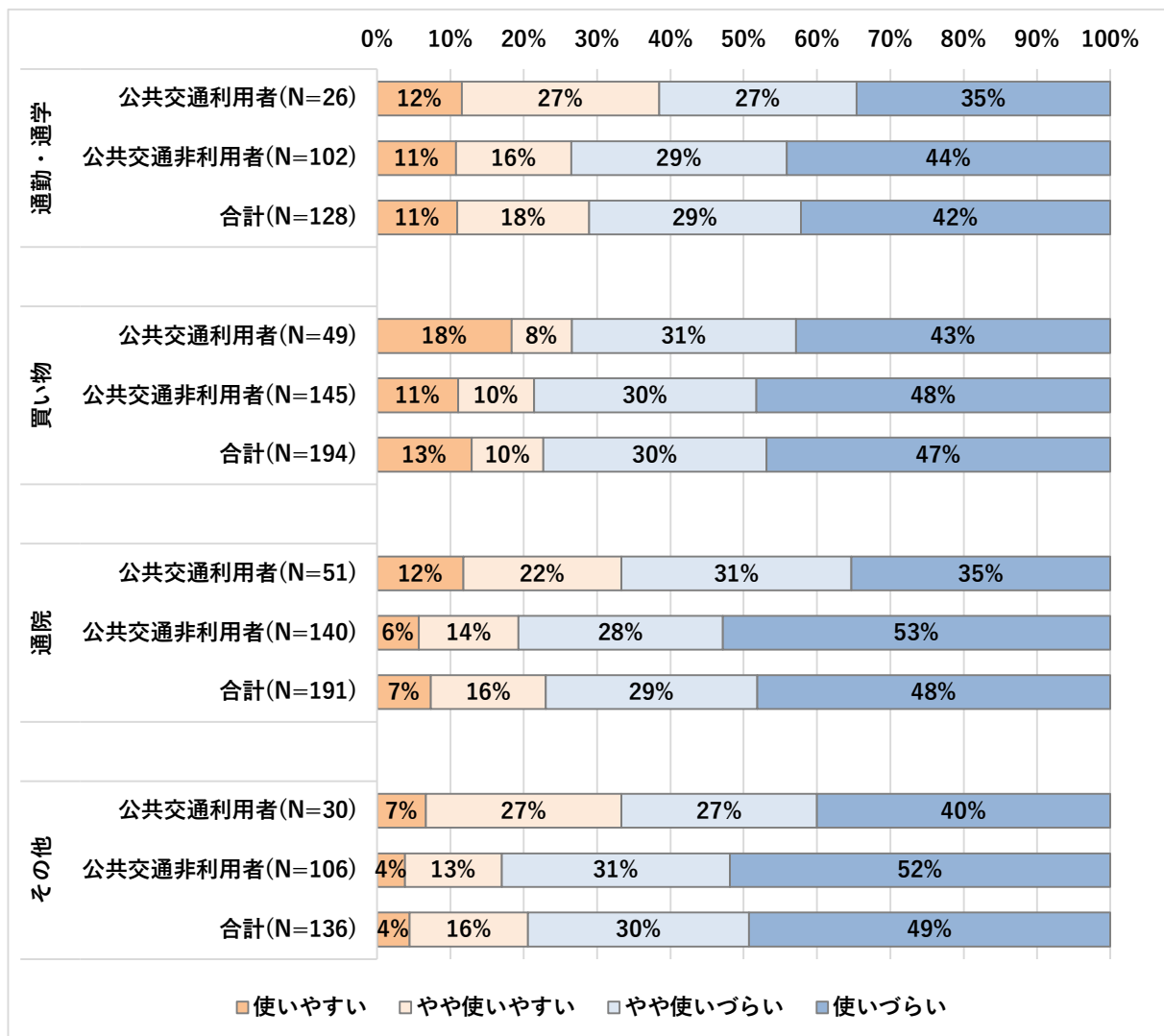


図 79 公共交通を利用した移動のしやすさ（目的別、公共交通利用有無別）

※公共交通利用者：最も移動する移動、2番目に移動する移動の

「鉄道」「バス」「タクシー」のいずれかを回答した方

※「わからない・使わない」及び無回答の方は図から除外している。

(4) 今後の伊東市で必要な交通施策

○今後の伊東市で必要な交通施策についても、公共交通利用者と非利用者とで大きな違いは見られなかったが、以下の施策で傾向が異なっている。

○これらは、現在公共交通を使っているため、他の移動手段が不要である、また子育て世代や公共交通の利用がないため、現在の利用者での子育て関係の意見は少ないと想定される。

＜公共交通利用者と必要とする比率が非利用者と比較して低い施策>

→従来の鉄道、バス、タクシー以外の新たな交通手段を導入する

→子どもや子育て世代が移動しやすい環境を用意する

→ボランティアによる送迎など、地域の方や施設が中心となった移動手段を確保する。

＜公共交通利用者と必要とする比率が非利用者と比較して高い施策>

→利用の少ない赤字のバス路線を見直し、利用の多いバス路線をさらに便利にする

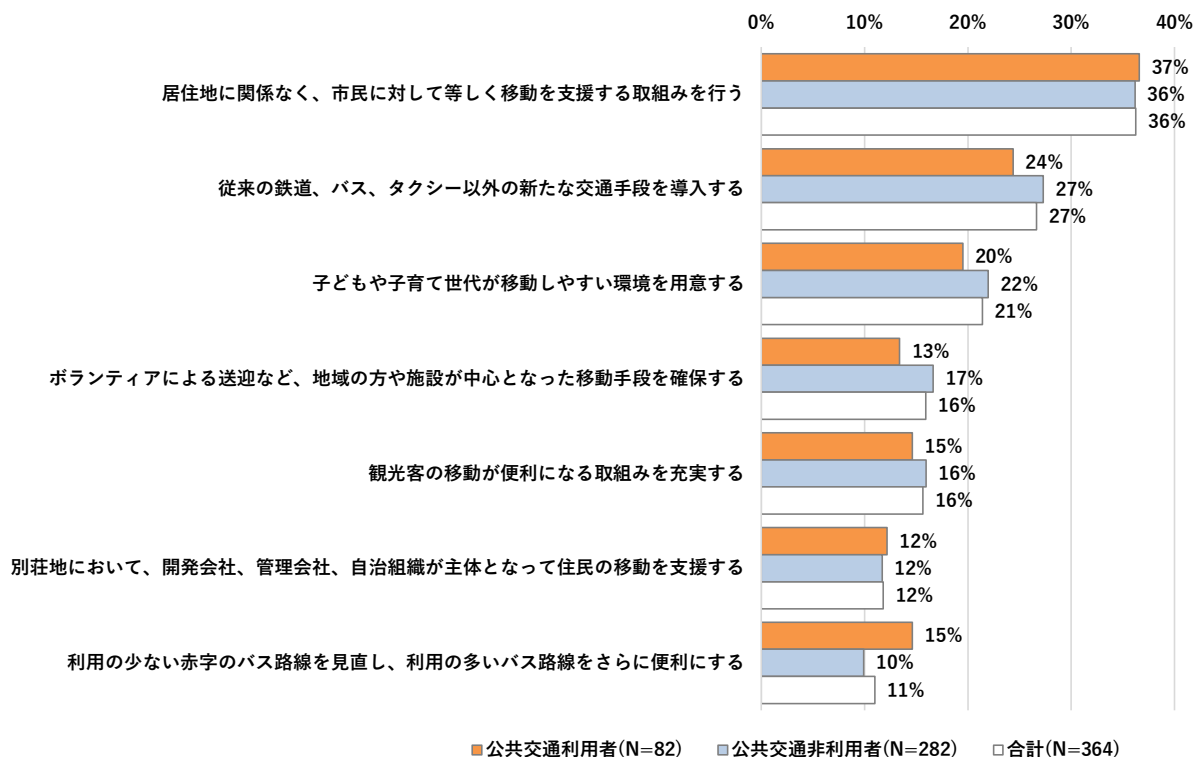


図 80 公共交通利用者、非利用者での今後必要な交通施策の違い

※公共交通利用者：最も移動する移動、2番目に移動する移動の

「鉄道」「バス」「タクシー」のいずれかを回答した方

※「わからない・使わない」及び無回答の方は図から除外している。

3. 事業実施に向けて参考となる事例

○以下では、計画書の取組み事業の推進において参考となる事例を掲載する。

3-1 路線や移動に関するニーズの計測・可視化に関する事例

(1) イーグルバス：赤外線乗降センサーによるデータ収集の事例

【背景】

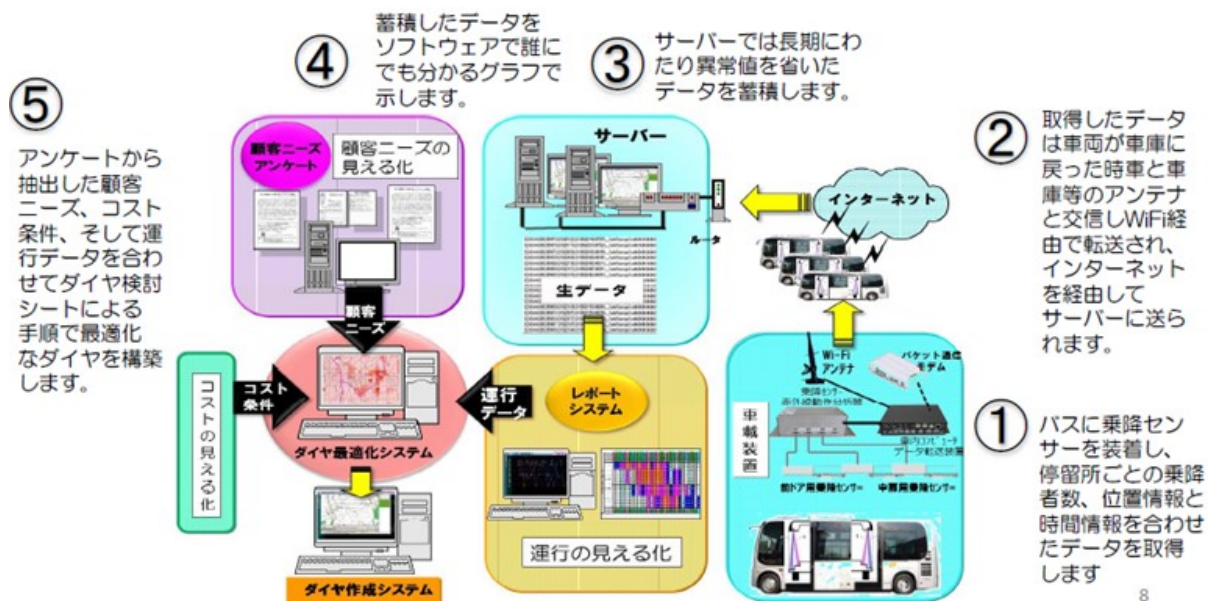
○イーグルバスが路線バス事業に参入した当時、路線バスは、一度車庫を出ると混雑率や遅延時間といった運行状況を把握できず、運転士の“勘と経験”を頼りに運行されていた。



【乗降カウントシステムの導入】

○車両に GPS と乗降口上部に赤外線乗降センサーを設置することで、停留所ごとの乗客数や停留所間の乗車人数（乗客密度）、路線上で位置や運行にかかっている時間が把握可能に。

○得られたデータから顧客が利用していない区間や車両の遅延を把握し、運行ダイヤの最適化に役立てている。



出典：日経 BP 記事 (<https://xtrend.nikkei.com/atcl/case/bdt/18/259878/>)

政府 CIO ポータル資料

(https://cio.go.jp/sites/default/files/uploads/documents/01_od100_cases_02_eaglebus.pptx)

(2) Will Smart：バス乗降データの可視化・分析システム

○Will Smart 社では、IC カードから得られるバス乗降データを使用し、市全体や系統、バス停ごとの利用状況を可視化できるダッシュボードを構築し、自治体と連携して活用を推進している。（以下の図は青森県八戸市での実施例）



出典：Will Smart HP (<https://willsmart.co.jp/casestudy/data-science/20240619/>)

3-2 交通空白・不便地域の設定方法に関する事例

（１）福岡市：高低差を考慮した交通不便地域の位置付け

【公共交通が不便な地域に対する支援】

○福岡市では、生活交通条例に基づき公共交通が不便な地域を対象として、地域の生活交通に関する課題の解決に向けた地域主体の取り組みについて、検討段階における運行内容の検討や試行運行の実施に対して支援を行っている。

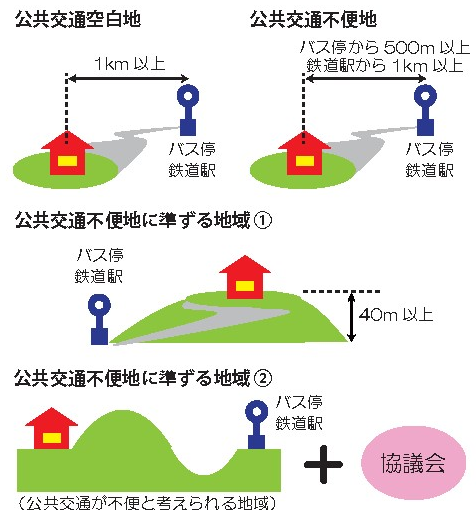
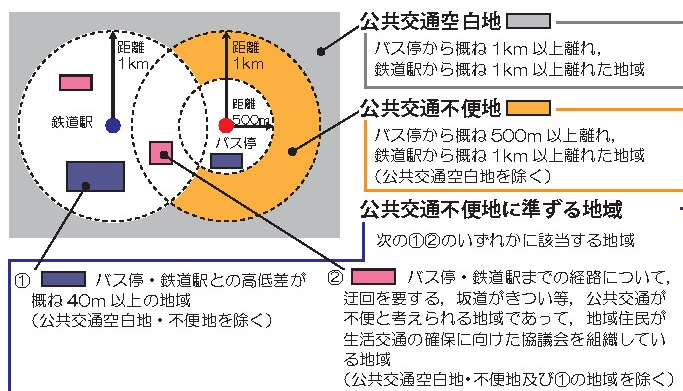
【支援の対象となる地域】

○以下のとおり、鉄道駅やバス停の距離に応じた空白地、不便地を設定するほか、バス停や鉄道駅との高低差を考慮した「不便地に準ずる地域」も設定している。

公共交通空白地	バス停・鉄道駅から概ね1km以上離れた地域
公共交通不便地	バス停から概ね500m以上離れ、鉄道駅から概ね1km以上離れた地域（公共交通空白地を除く）
公共交通不便地に準ずる地域	1. バス停・鉄道駅との高低差が概ね40m以上の地域（公共交通空白地、公共交通不便地を除く） 2. バス停・鉄道駅までの経路について、迂回を要する、一定の勾配がある等、公共交通が不便と考えられる地域であって、地域住民が生活交通の確保に向けた協議会を組織している地域（公共交通空白地、公共交通不便地及び1の地域を除く）

支援の対象地域

バス停や鉄道駅まで遠い、また坂道が急で不便な地域などを支援します。下に示す3つの地域が対象となる範囲です。



出典：福岡市 HP（公共交通が不便な地域への対策）

<https://www.city.fukuoka.lg.jp/jutaku-toshi/kotsukeikaku/machi/fubenchi.html>

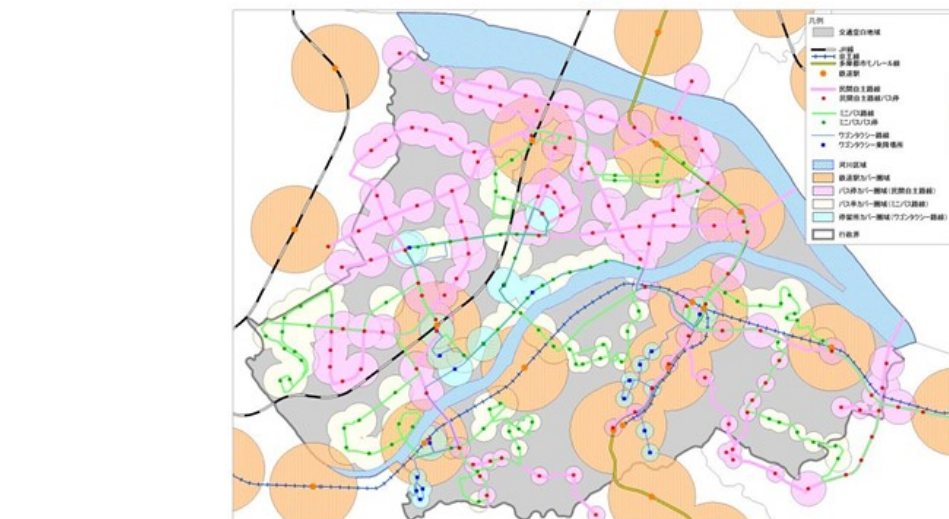
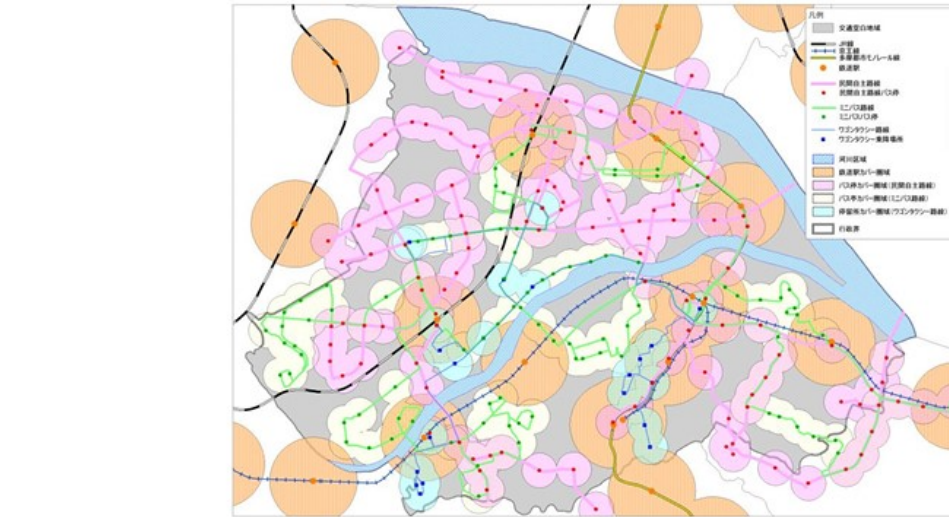


表 現交通空白地域と道路勾配を考慮した交通空白地域における面積、人口

		面積 (km ²)	比率 (%)	人口 (人)	比率 (%)
市域全体		27.54	100.0%	186,538	100.0%
現交通空白地域		5.52	20.0%	30,161	16.2%
設定 1	平均道路勾配	6.20	22.5%	33,328	17.9%
	最大道路勾配	6.96	25.3%	37,916	20.3%
	中間道路勾配	6.35	23.1%	34,291	18.4%
設定 2	平均道路勾配	6.47	23.5%	34,823	18.7%
	最大道路勾配	7.28	26.4%	39,861	21.4%
	中間道路勾配	6.73	24.4%	36,416	19.5%

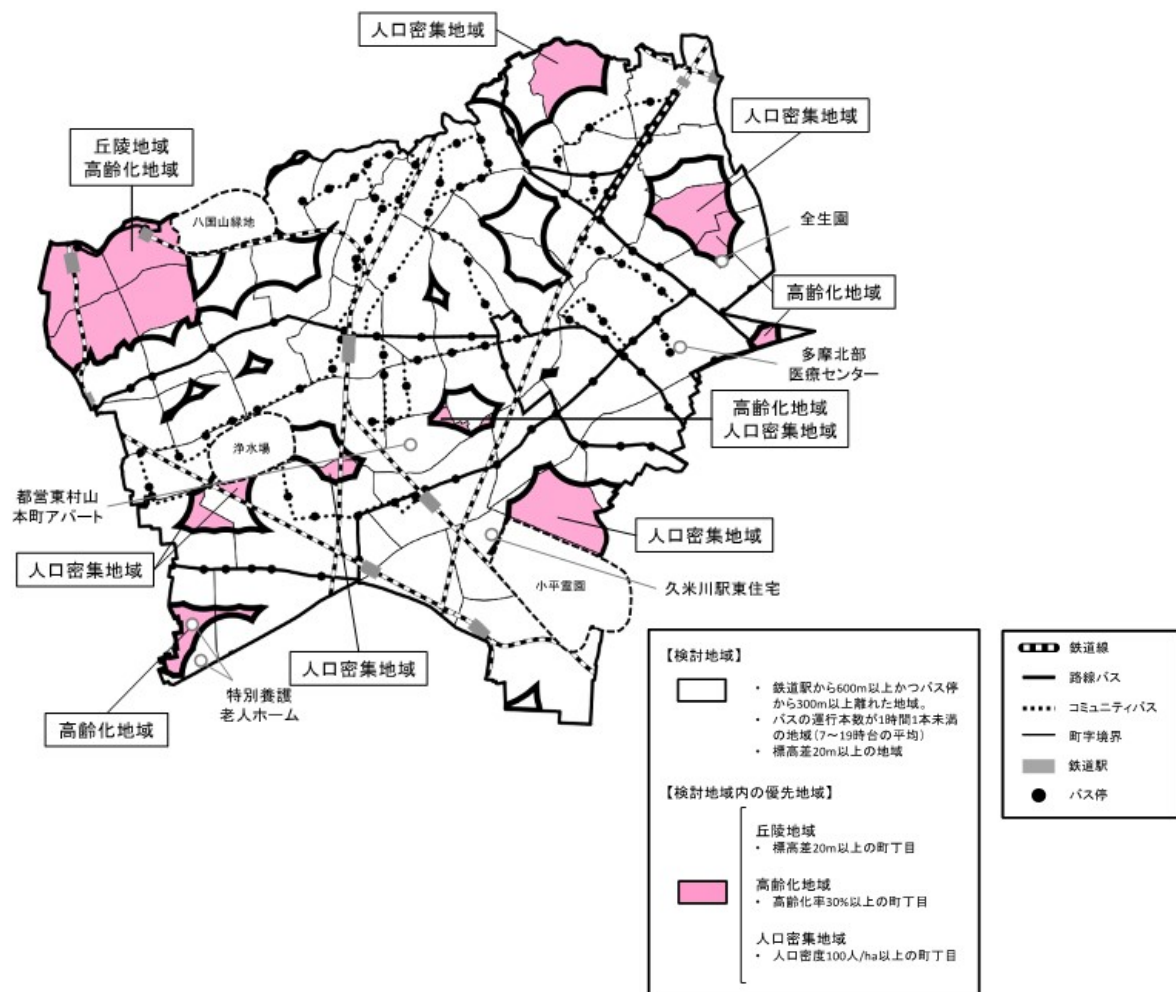
※人口は平成27年国勢調査5次メッシュ人口データを面積按分して算出

出典：日野市地域公共交通総合連携計画 2019-2028 計画書 別冊

(3) 東京都東村山市：公共交通不便地域の設定方法について

【交通不便地域の定義】

○公共交通空白地域は「鉄道駅から600m以上、かつ、バス停から300m以上離れた地域」としているが、公共交通を利用しづらい地域の残存が課題となっており、公共交通不便地域として「バスの運行本数が1本/h未満のバス停から300m以内の地域」として定義している。また、公共交通空白地域・不便地域かつ徒歩・自転車移動が困難な丘陵地域をコミュニティバスの検討地域に設定している。



3-3 地域での移動手段確保の取組み

(1) 自治会が中心となりサポーター会員を募り、地域活動や送迎をサポート

- 伊東市内の大室高原自治会では、支援が必要な高齢者の生活支援事業として「チームおおむろ」を構築しており、会員による地域高齢者の様々な活動を支援しており、その一環として、自治会住民の送迎サポートを実施している。
- 2022年4～6月では、移動支援として74件の稼働があり、地域住民主体での移動支援として着実に機能している。

No. 23-1
2023. 4. 26
発行：大室高原自治会

生活支援事業

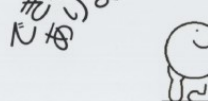


チームおおむろ

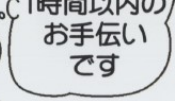
会員募集

お困りごとを
ちょっとお手伝いします

をないことも
ありますけど



原則として
1時間以内の
お手伝い
です



ちょっと?
って
どんなこと



- * 通院や買い物、茶話会(居場所)等に車で送迎
- * 電球交換や障子の張替え * 庭の草刈り
- * 粗大ゴミを捨てたい など ご相談ください。

サポーター会員も同時募集中

＜大室高原自治会会員同士で優しい気持ちのお手伝い＞

移住者が多いこの自治会ではお互いさまのお付き合いが
とても大切だから、今できるお手伝いをして、自分の将来も
安心して暮らせる地域づくりを始めています。

《ご利用実績》 2022年5～12月支援件数90件 2023年1～3月支援件数62件
《現在会員数》 2023年3月末現在 利用会員数47名 サポーター会員数39名

図 チームおおむろの概要

(2) 自治会の会員による直近のバス停までの送迎サポート



事業イメージ



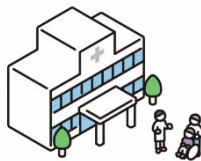
バス停イメージ

出展：伊東丸善ランド自治会・伊東丸善ランド団地管理組合法人 提供写真

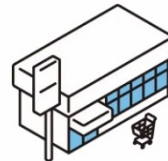
- 伊東市内の伊東丸善ランド自治会、伊東丸善ランド団地管理組合法人では、自治会内の通院や買い物等に不便をされている方への移動支援事業として「丸善ランド交通支援の会」を設立し、会員により直近のバス停までの送迎をサポートしている。
- 利用者自宅から直近バス停の「観光荘」までの間（往復約5km）を会員が運転する車両で送迎運行。運行日程はバスの時刻表に合わせて祝祭日を除く平日に実施している。
- 2024年7月～12月で、延べ140回の稼働あり。
- 利用者自宅から直近バス停までの送迎運行とし、用務・目的地への移動は公共交通であるバス・電車を利用している。既存の公共交通リソースを有効活用した上で、地域内の徒歩移動が困難である方への移動需要の充足を行っている。



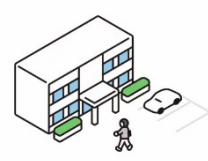
伊東駅
約6.1km / 車で13分



伊東市民病院
約4.7km / 車で11分



マックスバリュ
約4.7km / 車で11分



伊東市役所
約6.2km / 車で13分

「交通支援の会」発足！

地域の交通問題解決を目指し、自治会と連携して「交通支援の会」を発足しました。
お住まいの皆さまが安心して外出できる環境づくりを進めてまいります。



図 丸善ランド「交通支援の会」イメージ

出展：伊東丸善ランド別荘地ホームページ

(3) 沼津市：バスの運行終了後のタクシーによる移動サポート

【事業概要】

○沼津駅の最終バスの発車時刻は年々早まっており、夜間時間帯においては公共交通に乏しい状況にある。

○このような状況を踏まえ、夜間時間帯における公共交通軸の拡大に向けた取り組みとして、タクシー車両によるバス路線を使った夜間乗合タクシーの実証運行を実施している
※実証実験として 2024 年 11 月～2025 年 1 月の金土日祝で合計 30 日間実施。

最終バス運行終了後のバスの代替手段の実証運行を行います！

沼津市夜間乗合タクシー

沼津市夜間乗合タクシーは、タクシーを活用し、決められたルートで同じ方面の利用者の方が「乗りあって」利用いただく乗合タクシーで、どなたでも利用可能です。

<運行期間>
2024 11.22 金 2025 1.31 金
期間内の週末（金・土・日・祝日）運行
※2024.12.29～2025.1.3は運休

<運賃>
1乗車定額（1人あたり）
700円（現金のみ）
※未成年は無料（保護者同伴）
※乗車時にお支払いください。
※予約がなければご利用ください。
※乗車券発行は可能ですが、お申し付けください。

<運行経路> 既存バス路線に順じたルートを行います！※詳細は裏面参照
我入道ルート **下香貫ルート** **高尾台ルート**
1月17日まで運行

<沼津駅（南口）のりば案内>

1 我入道ルート
2 下香貫ルート
3 高尾台ルート
4 高尾台ルート
5 高尾台ルート
6 高尾台ルート
7 高尾台ルート
8 高尾台ルート
9 高尾台ルート

<夜間乗合タクシーのご案内>
 ■乗車場所：沼津駅南口バス乗り場（左図）
 ※沼津駅南口バス乗り場以外からの乗車はできません。
 ■降車場所：ルート上のバス停（裏面参照）
 ※乗車時乗務員へ降車場所をお伝えください。
 ※バス停以外では降車できません。
 ■乗車定員：3人/便（小学生は3人で2人）
 ※車両は小型タクシーを使用します。
 ※注意：定員を超えた場合は、次便を待つ通常のタクシーをご利用ください。

<運行ダイヤ>
 各方面**30分**に運行。

	出発時刻	
21時	00分	30分
22時	00分	30分
23時	00分	30分

お問合わせ先 沼津市まちづくり政策課 交通政策室 TEL 055-934-4759

運行ルート（降車停留所） ※乗車時に乗務員に降車地を伝えてください。

我入道ルート

下香貫ルート

高尾台ルート

変更
 我入道ルートは令和7年1月17日までの運行とします。（1月18日以降は運行しません。）
 下香貫、高尾台ルートは予定通り1月31日まで運行します。

最新の情報は沼津市ホームページをご確認ください。

図 沼津市での夜間乗合タクシーの実験概要

出典：沼津市資料

（３）千葉県船橋市：自動車学校・教習所送迎バス活用事業**【事業概要】**

○平成13年度にコミュニティバス導入に向けて検討を行ったが、公平性、費用対効果などの諸問題により導入に関しては困難である状況にあった。また、既存路線バスが規制緩和の影響により、事実上路線の撤退に歯止めがかからない状態にあり、交通不便地域が拡大していく懸念がある。

○このような背景を踏まえ、市内の老人福祉センター、自動車学校・教習所が所有する送迎バスの空席を活用し、自主的交通手段を持つことが難しい高齢者等を対象に交通不便地域の移動支援を実施している。

【利用方法、料金】

○利用方法：利用者はあらかじめ指定された停車位置にてパスカードを提示して乗車する

○料金：無料

第3号様式

交通不便地域支援事業パスカード			
発行日 令和 年 月 日 発行者 船 橋 市 長 印			
対象者氏名 生年月日			
住 所			
緊急連絡先			
氏名	続柄	住所	電話（ ）
			—

利用上の注意事項

- このカードに記載の対象者本人しか使えません。
- 時刻表の5分前には、停車位置（通過ポイント）付近でお待ちください。
- バスが近づいたら、手を挙げてお知らせください。
- 乗車するときに、このカードを運転手に提示し、降車場所を伝えてください。
- 乗車中は、運転手の指示に従って乗車してください。
- 空席がなく、乗車できない場合があります。
- 個人での利用に限り、団体での利用はできません。
- 乗車中はシートベルトを着用するなど、安全な乗車に努めてください。
- 船橋市外へ転出されたときは本カードを返還してください。
- 本カードに有効期限の定めはありません。ただし、事業の廃止やカードの更新を必要とするときは別途通知します。

【問合せ先】：船橋市道路計画課（電話 047-436-2055）

図 交通不便地域支援事業パスカード



図 車両イメージ

出典：船橋中央自動車学校ホームページ

(4) 埼玉県狭山市：市内の病院の送迎バスを活用した高齢者外出支援事業

【事業概要】

○病院が運行している送迎バスの空席を活用し、市内の交通空白地域から最寄りの公共交通機関への移動の支援を行うとともに、高齢者が気軽に買い物や通院等の外出ができる交通手段を確保することを目的として実施している。

【利用方法、料金】

○利用申請：利用者は事前に市への申請が必要

○料金：無料

【運行案内（時刻表、ルート）の例】

尚寿会 シャトルバス時刻表（入曽方面）

		1	2	3	4	5	6
入曽方面	出発 大生クリニックあさひ一乗			11:25			
	福寿の里（正面玄関付近）			11:35			
	3条通り			11:36			
	1条通り			11:37			
	包括支援センター前	8:15	9:50	11:40	14:25		
	1条通り	8:18	9:53	11:43	14:28		
	3条通り	8:19	9:54	11:44	14:29		
	福寿の里（正面玄関付近）	8:20	9:55	11:45	14:30		
	到着 大生クリニックあさひ一乗	8:30	10:05	11:55	14:40		
	出発 大生クリニックあさひ一乗		10:30	12:15		14:20	16:25
	福寿の里（正面玄関付近）		10:40	12:25		14:30	16:35
	3条通り		10:41	12:26		14:31	16:36
	1条通り		10:42	12:27		14:32	16:37
	包括支援センター前	8:45	10:45	12:30	14:35		
	わが家入曽	8:55	10:55	12:40	14:45	16:47	
	狭山モータースクール前	8:56		12:41	14:46		
	宮岡園付近	8:58		12:43	14:48		
	佐久間工務所西（本郷バス停付近）	9:00		12:45	14:50		
	狭山体育園（野球場南バス停付近）	9:05		12:50	14:55		
	ヤオコー入曽店前（狭山入曽郵便局バス停付近）	9:06		12:51	14:56		
	3条通り	9:13	11:03	12:58	15:03		
	福寿の里（正面玄関付近）	9:14	11:04	12:59	15:04		
	到着 大生クリニックあさひ一乗	9:25	11:15	13:10	15:15	17:00	

※ 運行は、月～土曜日です。（祝祭日・12月31日～1月3日はお休みとなります）
 1. 大生病院B棟、クリニック、あさひ病院、老健の各正面玄関前を経由して病院を発着します。
 2. 運行ルート上で、駐車可能な場所であり、かつ運転手が安全と判断した場所に限り途中乗降可能です。
 3. 時刻表の変更の際は、尚寿会ホームページ及び掲示等でお知らせ致します。
 4. 運転手のみの運行ですので、恐れ入りますが介助の必要な方はご利用出来ません。
 5. ご乗車の意思確認のため、各バス停では乗車前の挙手をお願いいたします。
 6. 狭山市高齢者外出支援事業をご利用の方は、ご乗車の際に必ず送迎バス利用バスの提示をお願い致します。



令和5年4月1日改定 医療法人尚寿会 法人事業本部
 時刻表内の赤字は今回改定内容となっております。

出典：狭山市 HP

(<https://www.city.sayama.saitama.jp/kurashi/dourokotsuu/kotsu/sougeibus.html>)

3-4 新たな移動手段確保に向けたガイドライン、手引き等の作成

(1) 地域主体の新たな移動手段確保に向けた取り組み事例

【地域主体の新たな移動手段確保に向けた検討フロー】

①市への事前相談

- ・地域課題を市と共有し、活動の方向性を協議する。

②地域での話し合い（意見交換）

- ・地域の実情に見合った取り組みの方向性を確認する。

③新たな移動手段の検討

- ・地域に適した移動手段の具体的なイメージを検討する。

④新たな移動手段の運行

- ・地域で取り組む移動サービスについて、市などのアドバイス・サポートを受けて基本的に地域が運営・運行を行う。
- ・運営・運行状況を適宜チェックし、必要に応じて見直しを検討する。

【新たな移動手段確保に向けた取り組み事例】

○宮城県仙台市：みんなで育てる地域交通乗り乗り事業



みんなで育てる地域交通乗り乗り事業

地域の足の確保に向けた取り組みを支援します！

基本的な考え方：地域のみなさまが中心

持続可能な地域の足の確保に向け、地域のことも最も理解している「地域のみなさま」が中心となって取り組んでいくことが重要です。みなさまで地域交通を「つくる」ことで愛着がわき、運営に関わり「守り」「育てる」ことで持続可能な運行につながります。

▼このようなお困りごとの解決に向け、みなさまで地域の足の確保を考えてみませんか？

地域交通とは... 公共交通のサービスレベルが低い地域等において、通勤・通学・通院・買物等市民の日常生活に必要な不可欠な目的のために運行する、既存の公共交通を補完する交通手段をいいます。

担当・お問合せ 仙台市 都市整備局 総合交通政策部 地域交通推進課
 仙台市青葉区国分町三丁目7番1号
TEL:022-214-8359 FAX:022-211-0017
 ホームページ: <https://www.city.sendai.jp/kokyo/norinori.html>

出典：仙台市ホームページ

3-5 新たなモビリティに関する事例

(1) 千葉県松戸市：グリーンスローモビリティ

【概要】

- 地域での買い物やグループ活動、イベントの活動など、地域住民の自分らしい暮らしをさせるため、グリーンスローモビリティを導入している。
- 市が地域にグリーンスローモビリティを貸与し、地域の互助で運行を行う。運転手等はボランティアが担う。



(2) 茨城県境町：自動運転バス

【概要】

- 境町は路線バスを中心とした公共交通が脆弱なため、高齢者や子育て世代の移動手段の確保などが課題であり、高齢者や子育て世代をはじめとした「住民の誰もが生活の足に困らない町」を目指して、2020年に宇都宮市との実証実験を行った。
- 令和2年11月より自動運転バス3台を生活路線バスとして定時・定路線での本格運行を行っている。



出典：境町ホームページ

（３）千葉県千葉市：グリーンスローモビリティ「さくらまる」

【概要】

- 令和２年度の短期実証調査を経て、令和５年より継続的にグリーンスローモビリティを運行している。
- 地域住民等で構成される「桜木グリスロ運行管理委員会」が主体となり、運行管理等を地域主体で運営・運行している。



出典：千葉市ホームページ

伊東市地域公共交通計画 資料編

令和 7 年 3 月 伊東市

—発行元—

伊東市地域公共交通活性化協議会（事務局：伊東市建設部都市計画課）

〒414-8555 伊東市大原二丁目 1 番 1 号

TEL：0557-32-1781 FAX：0557-36-0320